

令和 4 年度

新入生の生活に関する調査報告書

令和 5 年 3 月

お茶の水女子大学

はじめに

この報告書は、お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センターが平成 23 年度から実施している「新入学生（学部）とその保護者を対象に実施した調査」の令和 4 年度版です。

調査の目的は、新入学生およびその保護者の大学に対するニーズに関して基礎的な情報を得、本学の学生・キャリア支援活動をより効果的に行うための基礎資料とすることです。調査内容は、出身高校、家族、卒業後の進路志望、学生生活の経済的基礎、学生支援活動への期待（新入学生対象調査）、家計支持者の職業、世帯年収、学歴、学生支援活動への期待（保護者対象調査）などがあります。

この調査は、学生の保護者を対象とした学内で唯一の公的調査として位置づけられており、大学としてより充実した学生生活を支援する上での貴重な資料として活用させていただいております。

末筆となりますが、本調査にご協力してくださった本年度新入学生とその保護者の皆さまに心から感謝申し上げます。

令和 5 年 3 月 吉日

国立大学法人 お茶の水女子大学

理事

学生・キャリア支援センター長

新井 由紀夫

令和 4 年度新入生調査報告書のポイント

1. 調査に回答した新入生の 87.4%が「受験時にはお茶大を第一志望」であり、例年同様高い（p.9）
 - ・受験時には本学を第一志望としていたと回答した割合は、例年学部によって差異があるものの、本年度は 3 学部ともに 8 割を超えた。
2. 「大学の授業」を頑張ろうと考えている割合は 98.9%と、例年同様非常に高い（p.13）
 - ・この 1 年で頑張ろうと思う活動（複数回答）について、「大学の授業」と回答した割合が 98.9%と新入生の授業に対する意欲は例年通り高い。一方で「授業や単位」が心配と回答した割合も 67.9%と 7 割近く存在している。
3. 卒業後の進路は民間企業就職希望と大学院進学希望が半々程度（p.18）
 - ・卒業後の進路希望（複数回答）は、「民間企業に就職する」51.1%、「大学院などに進学する（海外含む）」47.5%。「まだ決めていない」学生が 19%と漸増傾向。
4. 学生寮の認知と入寮希望のばらつき（p.43）
 - ・新入生の学生寮への認知度（73.2%）は 2017 年以来の最高値を記録。保護者の学生寮への認知度（69.4%）と入寮希望度（36.1%）は過去最高。
 - ・新入生と保護者調査の両方において、音羽館が高い認知度を記録した一方で、お茶大 SCC と小石川寮の認知度と入寮希望率は昨年度に比べともに低下。
5. 奨学金等制度の認知の低下（p.53）
 - ・新入生の奨学金等制度への認知度（58.7%）と保護者の奨学金利用希望度（41.7%）は全 12 年間で最も低い。

目次

調査の概要	3
第1章 「新入生調査」の結果	5
(1) 出身高校	5
(2) 家族構成	7
(3) これまでの進路選択や学生生活	8
(4) 大学入学後の生活の予定	11
(5) 将来の進路	18
第2章 「新入生の保護者調査」の結果	21
(1) 家庭の暮らし向き	21
(2) 親の職業・学歴	24
(3) 大学生活の不安・心配事・学生支援活動への期待	27
第3章 新入生および保護者調査の結果—奨学金・学生寮に関するクロス集計—	31
(1) 問題・目的	31
(2) 奨学金に関する結果	31
(3) 学生寮に関する結果	43
(4) 奨学金と学生寮について、過年度との比較	53
第4章 高校時代進路選択の分析結果	57
第5章 考察および今後の課題	65
(1) 令和4年度新入生とその保護者に関する考察	65
(2) 奨学金と学生寮に関する考察	66
(3) 学生・キャリア支援における課題とその対応	67

付表

1. 調査票（新入生調査）	69
2. 調査票（保護者調査）	80
3. 基礎集計表（新入生調査）	87
4. 基礎集計表（保護者調査）	93

執筆担当者

新井 由紀夫（理事、学生・キャリア支援センター センター長）
担当：はじめに
高崎 美佐（学生・キャリア支援センター 講師）
担当：調査の概要、1章、2章、5章（1）、（3）
南 玉瓊（NAN Yuqiong）
担当：3章、4章、5章（2）、付表3、付表4

調査の概要

- ・ 目的：

本調査は、入学予定の学生の実情をふまえ有益な学生支援の検討・運用のため、以下の 4 点で構成し実施している。

1. 新入生の大学教育や将来への多様なニーズを把握する。
2. 新入生が予定している標準的な学生生活の状況を把握する。
3. 新入生の家庭状況からその経済的基盤を推定し、お茶の水女子大学における学生支援事業を改善するための基礎資料とする。
4. 国立大学入学者の学生生活・家庭・進路などに関する調査研究を行うための基礎資料とする。

- ・ 調査時期：2022 年 2 月－ 3 月

- ・ 調査方法：

質問紙調査票の郵送による送付・返送である。合格者および保護者に対しては、他の入学手続関係書類に調査票および調査票返送用封筒を同封し、他の書類とともに回答の返送を依頼した。

- ・ 分析対象：

分析対象者は、令和 4 年度学部入学者 436 名、保護者 427 名である¹。但し、無回答・非該当の場合など、調査項目によって、サンプル数に多少の違いがある。調査別の詳細は以下の通りである。

1. 「新入生を対象とした調査（新入生調査）」

令和 4 年度学部入学者 485 名。有効回答数 436 名（入学者のうち 89.9%）。

学部別内訳 文教育学部 196 名（入学者 226 名のうち 86.7%）

理学部 117 名（入学者 129 名のうち 90.7%）

生活科学部 123 名（入学者 130 名のうち 94.6%）

2. 「新入生の保護者を対象とした調査（新入生保護者調査）」

令和 3 年度学部入学生の保護者 485 名。有効回答数 427 名（入学者のうち 88.0%）。

- ・ 実施主体：国立大学法人 お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター

- ・ 個人情報について：

お茶の水女子大学では、個人情報の管理に関する規程および個人情報の公開に関する取扱要項等の規定を定めて、本学が保有する個人情報の適正な管理に努め、学内の倫理審査も受けている。（詳細は、<http://www.ocha.ac.jp/about/individual.html> 参照）

調査票は、大学で付けた ID 番号で管理をし、回答者の氏名や住所などは記載せずに回答・返送を求めた。

¹ 調査票では回答データの使用可否を尋ねる項目を設けているが、本年度はすべての回答者から使用許可を得られたため、返送いただいた回答すべてを分析対象とした。新入生本人のみ回答いただいたケースが 11 件、保護者のみ回答いただいたケースが 2 件であった。

【参考文献】

- ・ ベネッセ教育研究開発センター（2009）
「第1回 大学生の学習・生活実態調査報告書[2008年]」
<https://berd.benesse.jp/koutou/research/detail1.php?id=3161>
 - ・ 電通育英会（2019）
「大学生のキャリア意識調査 2019 報告書」
https://www.dentsu-ikueikai.or.jp/wp-content/uploads/2020/10/college_career_repo2019.pdf
 - ・ 日本学生支援機構（2022）
「令和2年度 学生生活調査結果」
https://www.jasso.go.jp/statistics/gakusei_chosa/_icsFiles/afieldfile/2022/03/16/data20_all.pdf
 - ・ お茶の水女子大学（2021）
「令和3年度 新入生の生活に関する調査報告書」
 - ・ お茶の水女子大学（2020）
「令和2年度 新入生の生活に関する調査報告書」
 - ・ お茶の水女子大学（2019）
「平成31年度 新入生の生活に関する調査報告書」
 - ・ 全国大学生調査コンソーシアム/東京大学 大学経営・政策研究センター（2008）
「全国大学生調査 第一次～第三次調査 基礎集計表」
http://ump.p.u-tokyo.ac.jp/crump/resource/kiso2008_01.pdf
- 全国大学生協働組合連合会（2022）「第57回 学生生活実態調査の概要報告」
https://www.univcoop.or.jp/press/life/pdf/pdf_report57.pdf

※Web サイトへのアクセス日は2022年12月27日

第1章 「新入生調査」の結果

第1章では、新入生調査（本人）への回答者436名の分析結果について報告する。回答者の学部別の内訳は、文教育学部196名、理学部117名、生活科学部123名である。

(1) 出身高校

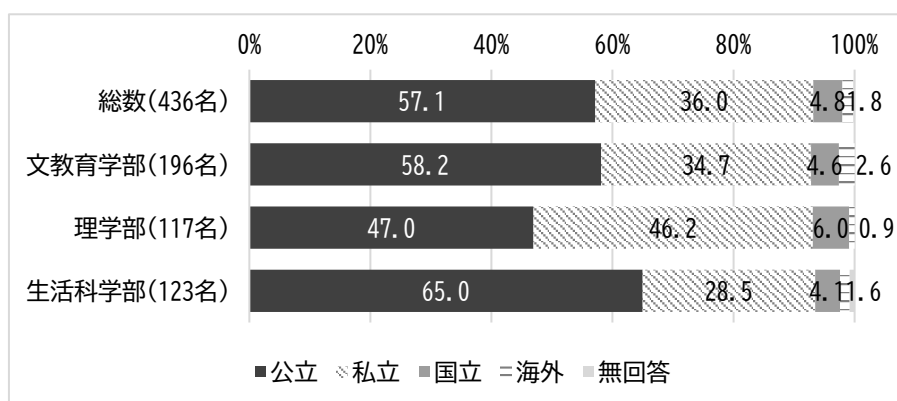
出身高校について①設置者、②種類、③学科、④出身高校の所在地を示す。

① 設置者

図表1-1に出身高校の設置者について尋ねた結果を示す。出身高校の設置者について「国立」「公立」「私立」「海外」「高等学校卒業程度認定試験（高卒認定）」から選択してもらい回答を得た。

全体では、「公立」57.1%、「私立」36.0%、「国立」4.8%、「海外」1.8%であった（「高卒認定」と回答した者はいなかった）。学部別では、生活科学部は「公立」の割合が比較的高く（65.0%）、理学部はほかの2つの学部と比べると「私立」の割合が46.2%と高い。

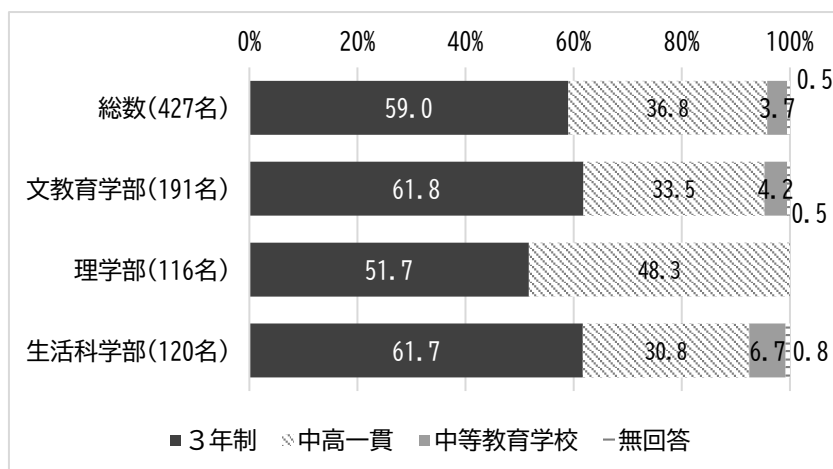
「公立」高校出身者の割合は令和2年度調査では63.3%、令和3年度調査では60.0%とこの数年は減少傾向である。令和3年度調査と比べるとさらに2.9ポイント減少しているものの、学部毎による設置者の特徴は過年度の結果と同様であった。



図表 1-1 出身高校の設置者

② 種類

図表1-2に出身高校の種類について尋ねた結果を示す。

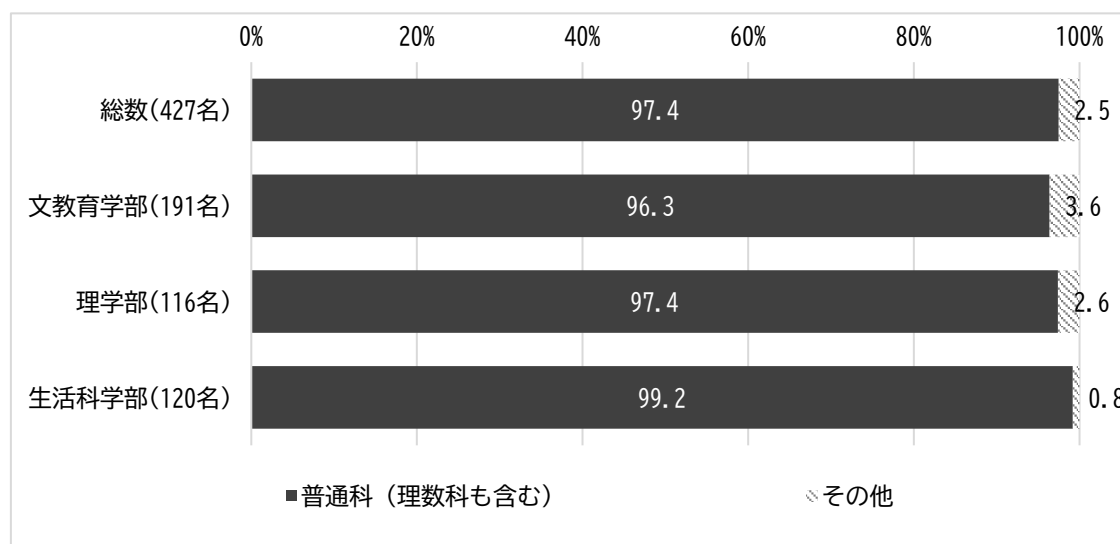


図表 1-2 出身高校の種類

全体では、「3年制」が59.0%、「中高一貫」「中等教育学校」を合わせて40.5%と令和3年度²と大きな違いはない。学部で比較すると、理学部は、中高一貫出身者の割合が他の2学部に比べると多い。この特徴は、過年度と同様の傾向である。本年度の生活科学部入学者は公立校出身者が多いことから、「3年制」が過年度と比べて多くなっていると考えられる。

③ 学科

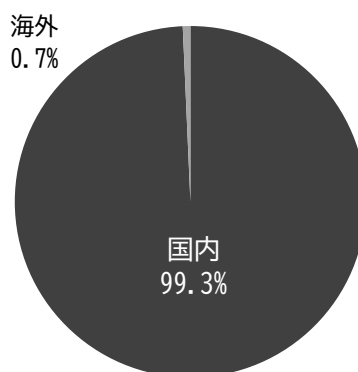
図表 1-3 に出身高校の学科について尋ねた結果を示す。全体の97.4%が「普通科」であり、学部間の差異はない。この傾向は、例年と同様の傾向であった。なお、「その他」には、総合学科（総数の0.9%）、専門学科（総数の1.1%）が含まれている。



図表 1-3 出身高校の学科

④ 出身高校の所在地

図表 1-4 に出身高校の所在地を「国内」「海外」別に示す。全体の99.3%が「国内」であった。



図表 1-4 出身高校の所在地

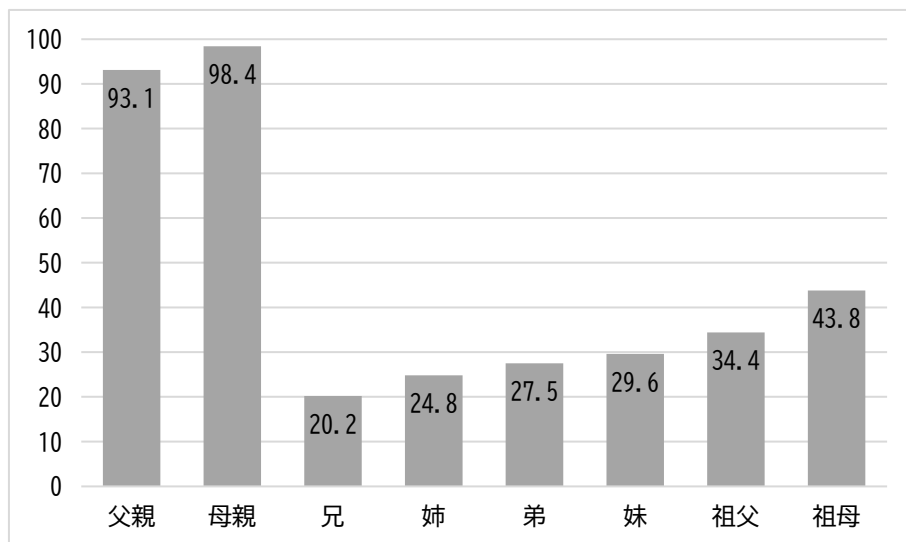
² 令和3年度調査は、「中等教育学校」は選択肢になく、本年度から追加した。令和3年度の3年制出身者の割合は、59.8%であった。

(2) 家族構成

新入生の家族構成について、①家族構成、②きょうだい数について示す。

① 家族の構成

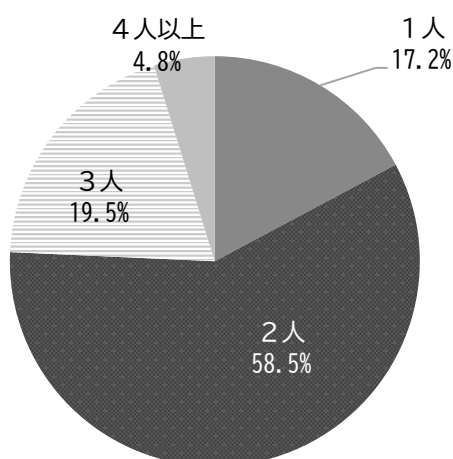
図表 2-1 に新入生の家族の構成について尋ねた結果を示す。家族構成について同居を問わず、複数選択可として回答を得た。家族の構成について、兄もしくは姉がいると回答した割合が 2 割程度、弟や妹がいると回答した割合が 3 割程度という回答傾向は、近年大きな変化は見られない。



図表 2-1 家族構成

② きょうだい数

図表 2-2 に自分を含めたきょうだい数について尋ねた結果を示す。2 人きょうだいの割合が最も高く(58.5%)、次いで「3 人」と回答した割合が 19.5%であった。令和 3 年度は 2 人きょうだいのが 59.0%、1 人が 21.9%といわゆるひとりっ子が比較的多かったが、近年の新入生の半分以上が 2 人きょうだいということについては変わらない。



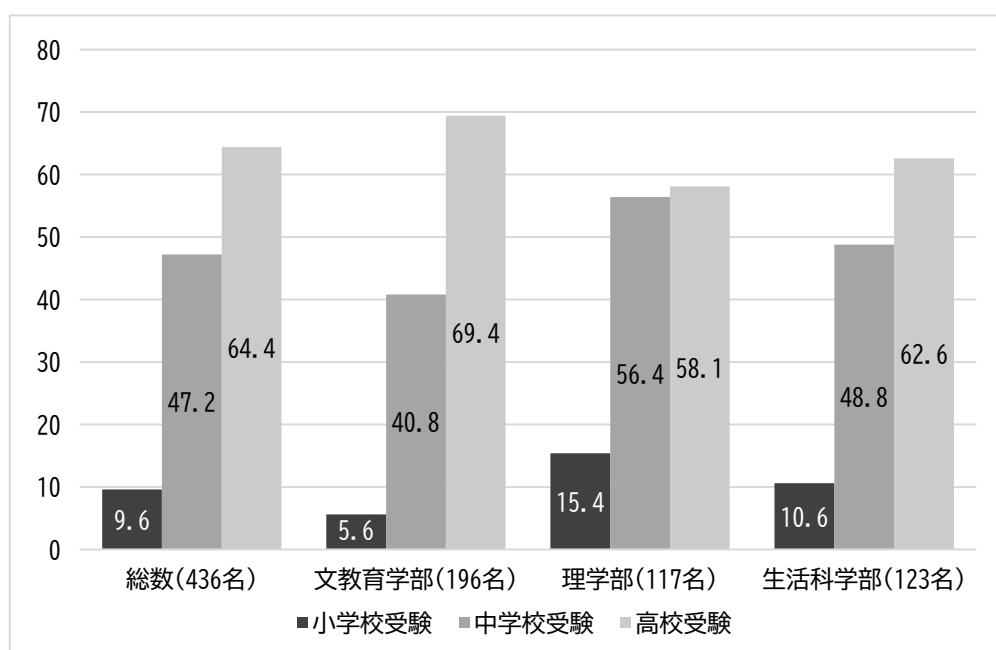
図表 2-2 自分を含めたきょうだい数

(3) これまでの進路選択や学生生活

本節では、新入生のこれまでの進路選択や学生生活について、①これまでの受験経験、②本学の受験を決めた時期、③本学の志望の度合い、④高校卒業から現在までの間に経験したことについて示す。

① これまでの受験経験

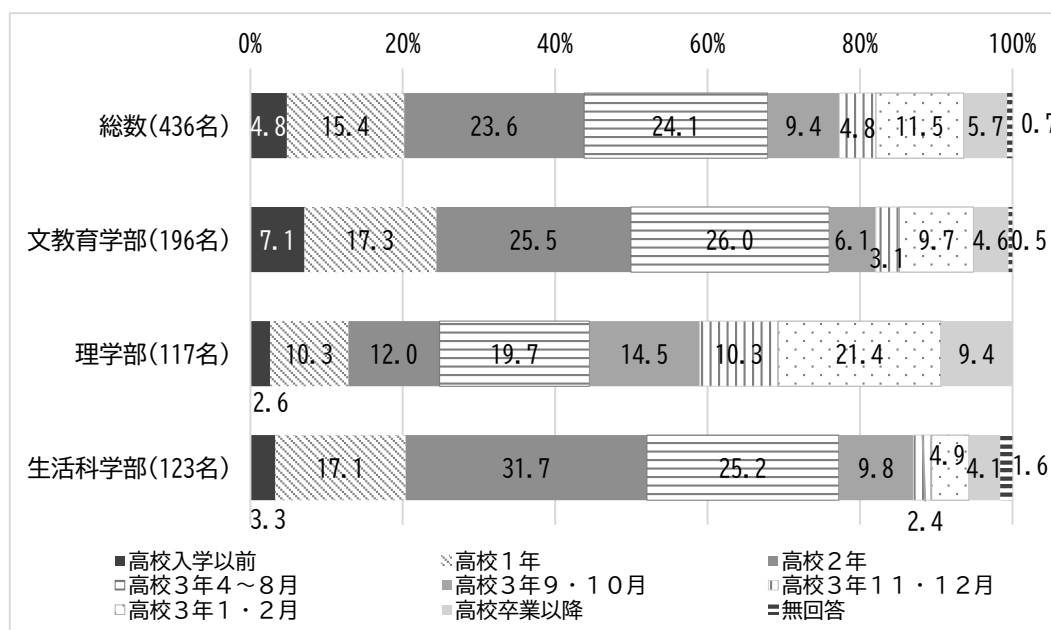
図表 3-1 に、これまでの受験経験について尋ねた結果を示す。全体の 9.6%が小学校受験を、47.2%が中学受験を、64.4%が高校受験を経験していた。小学校受験経験者が 1 割に満たず、中学校受験を半数程度が経験しているという傾向は平成 31 年度以降同様の傾向である。学部別では、他学部と比べると理学部は、小学校受験、中学受験を経験した割合が多い傾向がみられた。



図表 3-1 これまでの受験の経験

② 本学の受験を決めた時期

図表 3-2 に本学の受験を決めた時期について尋ねた結果を示す。全体では「高校 2 年」23.6%、「高校 3 年 4～8 月」24.1%と比較的多い。このように高校 2 年生から高校 3 年生の 1 学期に本学の受験を決めるという傾向は例年と同様である。学部別では、理学部において「高校 3 年 1・2 月」「高校卒業以降」と回答する割合が 3 割程度と他学部と比べると高い。理学部生の本学受験決定時期が他学部と比べて遅い傾向も、例年と同様である。

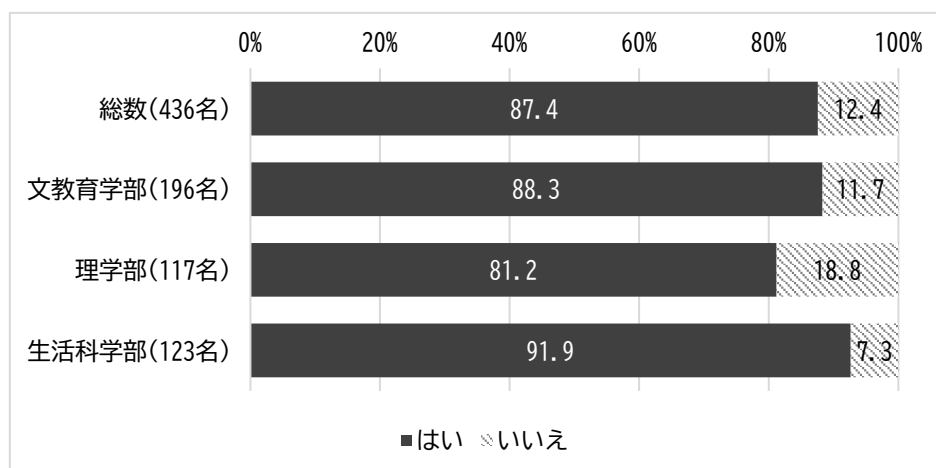


図表 3-2 本学の受験を決めた時期

③ 本学の志望の度合い

図表 3-3 に、受験時に本学が第一志望であったか否かについて尋ねた結果を示す。全体で見ると 87.4% の新入生が「はい」と回答、すなわち本学を第一志望としており、令和 3 年度の 88.7% と同様に依然として高い。

学部別には、文教育学部、生活科学部は 9 割前後である一方で、理学部は 8 割程度と少し低めではあるが、近年同様の傾向である。数年間のトレンドを見ると、志望度において大きな変化は生じていないようである。



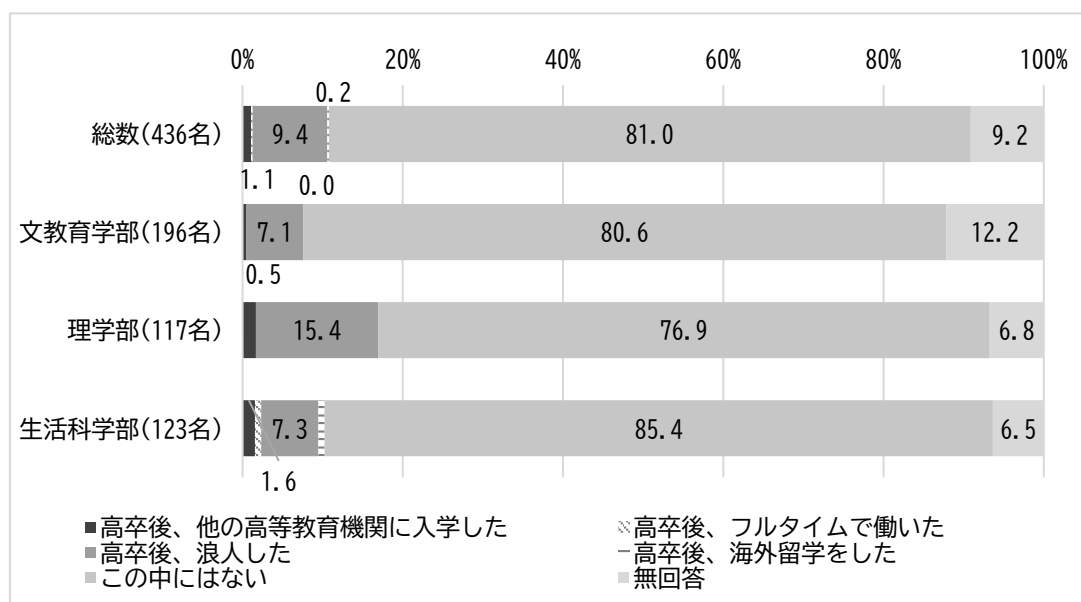
図表 3-3 本学の第一志望の度合い

④ 高校卒業から現在までの間に経験したこと

図表 3-4 に、高校卒業から現在までに経験したことについて「大学生の学習・生活実態調査」（ベネッセ教育開発センター 2009）を参考に、複数回答可として尋ねた結果を示す。

過年度と同様「この中にはない」、つまり高校卒業後すぐに大学入学した者が全体の 81.0%と最も高かった。調査開始年度である 2011 年度の入学者に占める浪人生の割合の平均値は 13.8%であった。これを踏まえると、本年度は 9.4%と入学者に占める浪人生の割合は少なくなっており、減少傾向である。ただし、全体の 1 割程度が無回答であることには留意が必要である。

各学部における浪人の割合は、文教育学部が相対的に低いことは変わらないが、従来、理学部および生活科学部の浪人の割合が高いことが指摘されてきたが、令和 4 年度は、文教育学部および生活科学部の浪人割合は 1 割に満たない。



図表 3-4 高校卒業から現在までの間に経験したこと

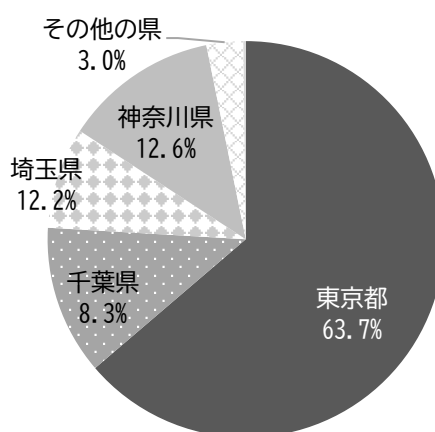
(4) 大学入学後の生活の予定

本節では、新入生の大学入学後の生活の予定について尋ねた結果を示す。

調査項目は、①大学入学後に居住予定の都道府県、②大学入学後の住居の予定、③1か月の家賃の予算、④1か月あたりの仕送り予定金額、⑤大学に入学後、特にこの1年で頑張ろうと思う活動、⑥アルバイト活動の予定、⑦授業料の負担予定、⑧大学生生活での不安・心配事、⑨本学の学生支援活動への期待についてである。

① 大学入学後に居住予定の都道府県

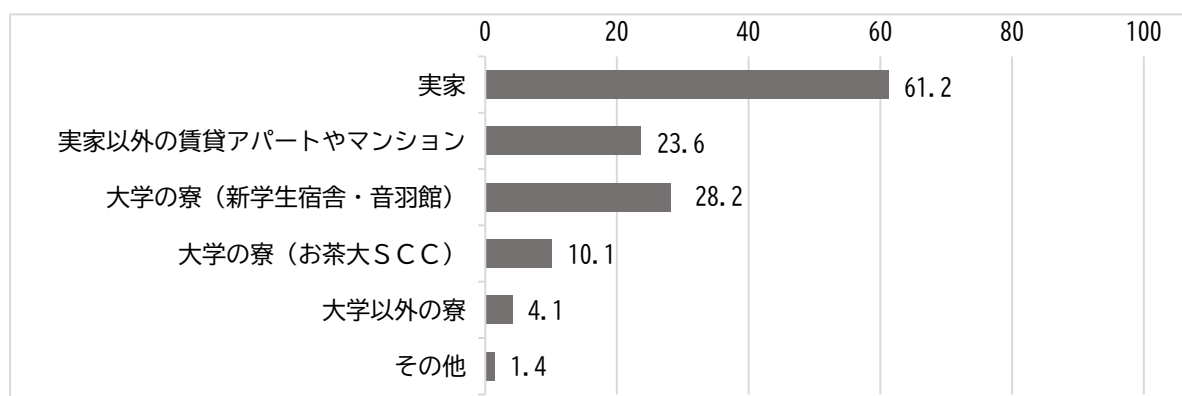
図表 4-1 に大学入学後に居住予定の都道府県について尋ねた結果を示す。全体では、東京都に居住予定の者が 63.7%と最も多く、神奈川県、埼玉県、千葉県と続く。この傾向は例年と同様である。



図表 4-1 大学入学後に居住予定の都道府県

② 大学入学後の住居の予定

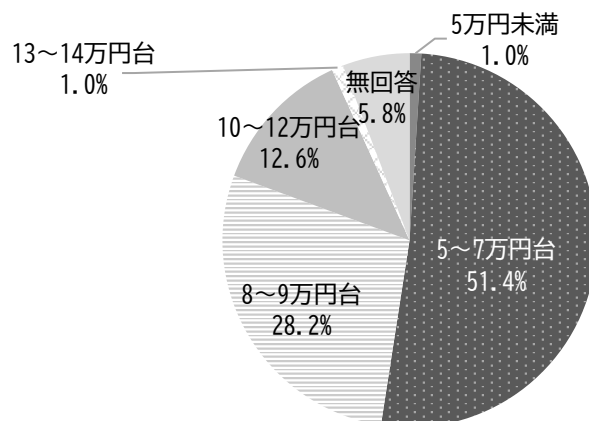
図表 4-2 に、大学入学後に予定している住居について、複数回答可として尋ねた結果を示す。全体では「実家」が 61.2%を占め、「賃貸アパートやマンション」23.6%、「新学生宿舎・音羽館」28.2%、「お茶大 SCC」10.1%といった学生寮が続く。「実家」から通学する予定の学生が多いという傾向は過年度と同様である。2022 年 4 月大学敷地内に開設された音羽館に 3 割近くの新入生が居住予定である。令和 3 年度調査では国際学生宿舎(2022 年 3 月をもって閉館)の居住割合が 14.1%であったことを踏まえると、大学寮への入寮者が多いことがわかる。図表には示していないが、近年理学部新入生は、実家から通学を想定する割合が 7 割を超えていたが、本年度は他学部と同程度の 6 割程度であった。



図表 4-2 大学入学後に予定している住居

③ 1か月の家賃（管理費込み）の予算

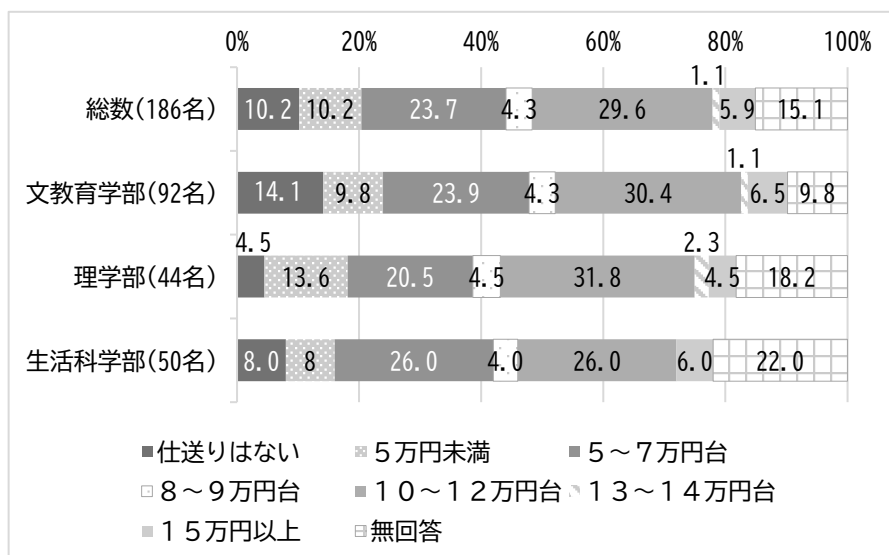
図表 4-3 に、1 か月の家賃（管理費込み）の予算（千円未満は四捨五入）について、「賃貸アパートやマンション」に居住予定の者に尋ねた結果を示す³。例年と同様に「5～7 万円」が 51.4%と最も多く、「8～9 万円」28.2%と続き、両カテゴリーを合わせるとほぼ 8 割であった。令和 3 年度は、「5～7 万円」が 47.5%、「8～9 万円」が 29.7%であった。令和 3 年度 4 月に新設された学生寮（音羽館）の 1 か月あたり家賃は約 6 万円⁴であることを合わせて考えると、音羽館に居住することで 1 か月あたりの家賃支出は抑制できる可能性がある。



図表 4-3 1 か月の家賃（管理費込み）の予算

④ 1 か月あたりの仕送り予定金額

図表 4-4 に、1 か月あたりの仕送り予定額（万円未満は四捨五入）について、「実家」以外に居住予定の者に尋ねた結果を示す⁵。「10～12 万円台」が 29.6%と最も多く、次に「5～7 万円台」が 23.7%となっている。令和 3 年調査では「5～7 万円台」が最も多く、次いで「10～12 万円台」であったことから例年に比べると仕送り額が例年よりも多い者の割合が増えている。



図表 4-4 1 か月あたりの仕送り予定額

3 本分析の対象者数は 101 名である。

4 賃料、共益費、インターネット使用料、上下水道料、電気使用料、保険料の諸経費を含んだ金額である

5 本分析の対象者数は 150 名である。

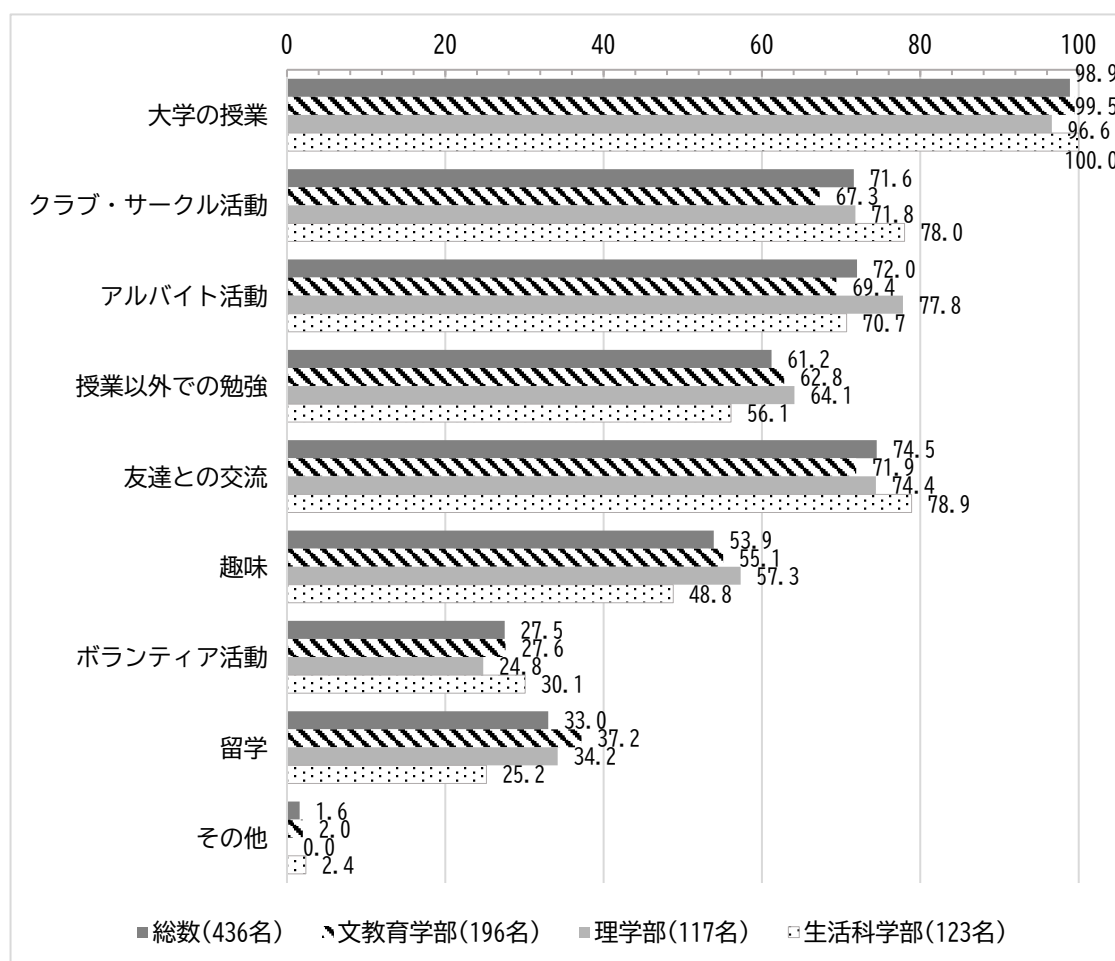
学部による分布を見ると、「仕送りがない」割合がもっとも多いのが文教育学部 14.1%であり、10 万円未満の者が半分を超えている。しかし、仕送り額に関する質問は未回答者が多いことから、この回答を実態ととらえてよいかどうかには検討が必要である。

なお、「第 56 回 学生生活実態調査の概要報告」（全国大学生生活協同組合連合会 2022）によれば、下宿生のうち、仕送り金額が 5～10 万円の学生の割合は 34.3%、仕送り 10 万円以上は 27.9%、仕送り 0 の割合は 7.5%、5 万円未満は 16.0%である。この調査との比較において、仕送り金額が 10 万円程度までの本学学生の割合は全国の大学生の平均的な水準とほぼ同等であると考えられる。

⑤ 大学に入学後、特にこの 1 年で頑張ろうと思う活動

図表 4-5 に、入学後、特にこの 1 年で頑張ろうと思う活動について、複数回答可として尋ねた結果を示す。「大学の授業」が 98.9%とどの学部でも例年通り最も高い。続いて、「友達との交流」74.5%、「アルバイト活動」72.0%、「クラブ・サークル活動」71.6%である。

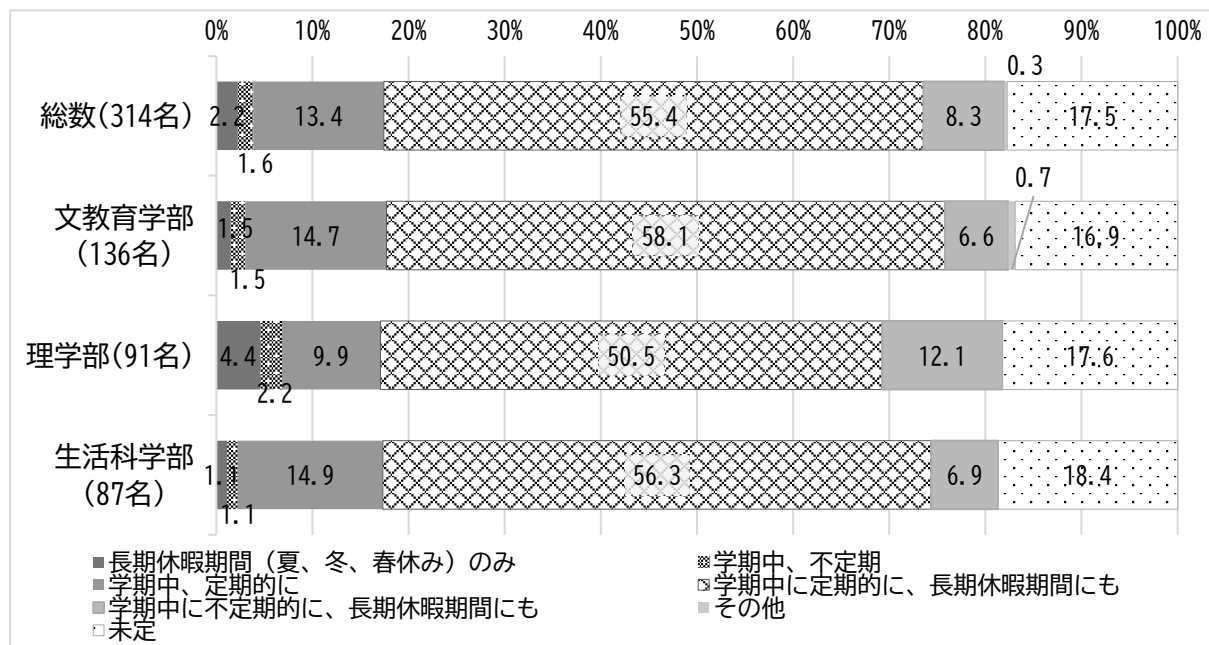
平成 29 年度の調査から加えた「留学」は、平成 29 年度 25.2%、平成 30 年度 35.4%、平成 31 年度 36.3%、令和 2 年度 38.4%と上昇傾向にあった。しかし、令和 3 年度調査では、31.8%と前回から 6.6 ポイント減少し、本年度も 33.0%と昨年度と比べて微増に留まっている。一方、「友達との交流」や「趣味」の回答割合の増加傾向がみられる。「趣味」は令和 2 年度調査で 44.4%、令和 3 年度調査で 50.8%、本年度は 53.9%である。「友達との交流」は令和 3 年度 72.1%で本年度 74.5%と 2.4 ポイントではあるが増えている。本調査からのみでは判断が難しいものの、ここで指摘した留学、趣味、友達との交流などの増減の傾向は新型コロナウイルスの感染拡大に伴う影響の可能性が考えられる。学生の活動ニーズをとらえ、適切にサポートすることが求められよう。



図表 4-5 大学に入学後、特にこの 1 年で頑張ろうと思う活動

⑥ アルバイト活動の予定

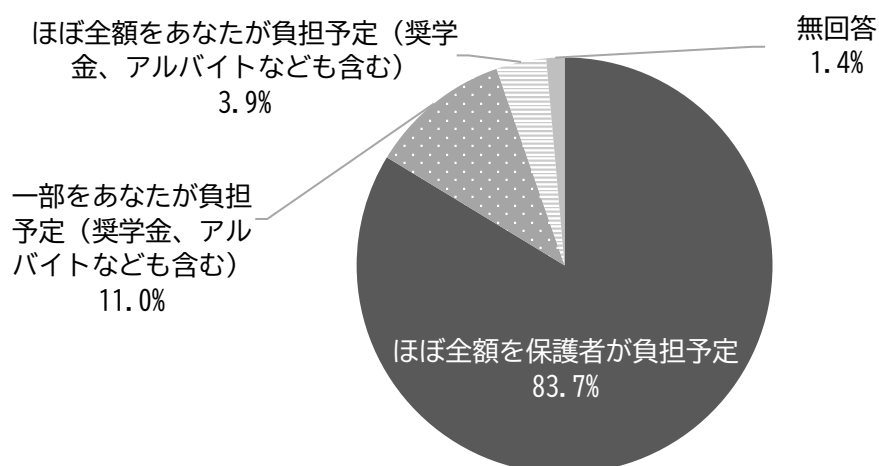
図表 4-6 に、入学後にアルバイト活動を予定している者に対して、具体的な活動時期や仕方を尋ねた結果を示す。最も多いのは「学期中に定期的に、長期休暇期間にも」との回答で 55.4%であり、「学期中に定期的に」13.4%と合わせると 68.8%である。つまり、授業がある期間中に定期的にアルバイトをする予定と回答した割合は 7 割近くである。



図表 4-6 アルバイト活動をする予定の時期や頻度

⑦ 授業料の負担予定

図表 4-7 に、授業料の負担予定について尋ねた結果を示す。「ほぼ全額を保護者が負担予定」が 83.7%である。この「ほぼ全額を保護者が負担予定」を回答する割合は、前年度と比較すると 0.4 ポイントの増加に過ぎないが調査開始時(平成 23 年度調査では 74.0%)と比較すると増加している。ただし、「ほぼ全額をあなたが負担予定」との回答は調査開始以降はつきがあるものの、令和 2 年度 1.5%、令和 3 年度は 3.1%、本年度 3.9%と近年は漸増している。回答人数にすると昨年度 10 名、本年度 17 名が授業料の「ほぼ全額を負担」していると回答している。



図表 4-7 授業料の負担予定

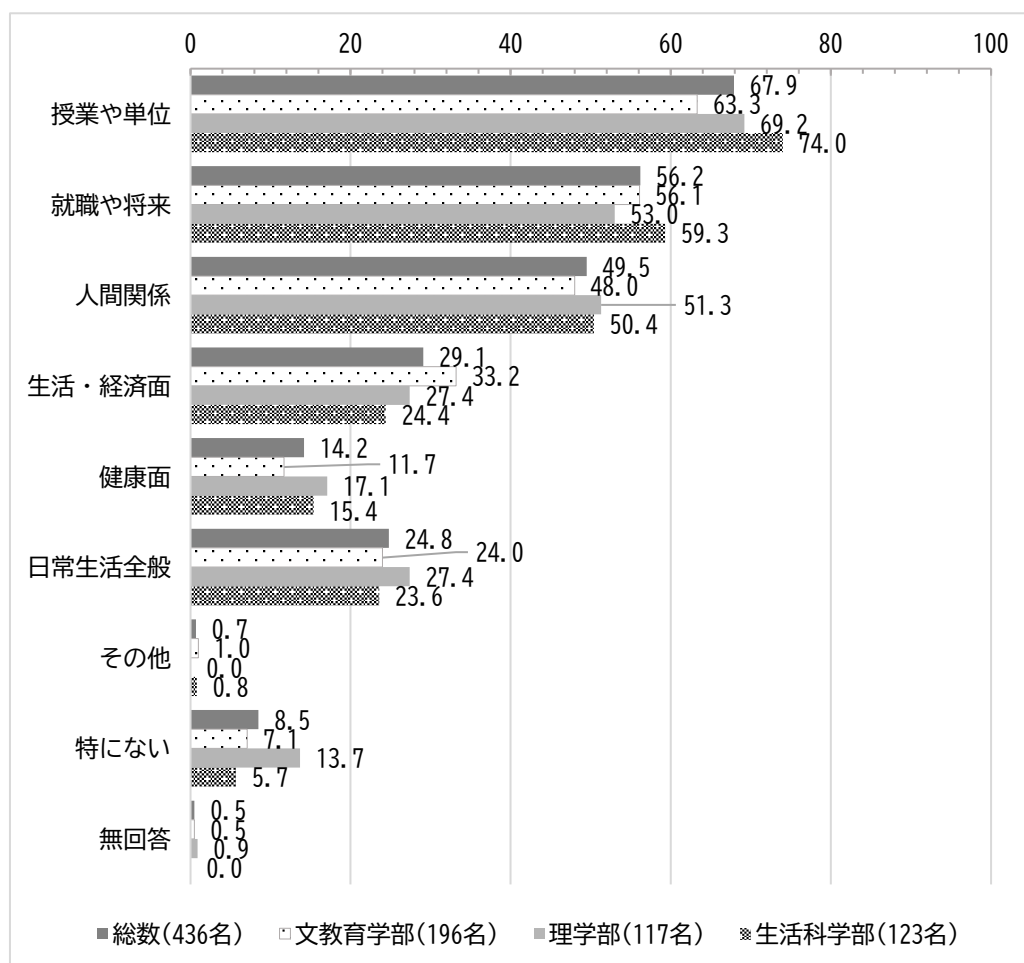
⑧ 大学生活での不安・心配事

図表 4-8 に、全国大学生生活協同組合連合会が実施している「保護者に聞く新入生調査」の調査項目を参考に、大学生活が始まって心配なことについて複数回答可として尋ねた結果を示す。

最も高い割合を示したのは「授業や単位」67.9%で、「就職や将来」56.2%、「人間関係」49.5%が続く。この上位3項目の内容は平成30年度以降と同様である。「就職や将来」に不安・心配に感じる割合は令和2年度と令和3年度では2.7ポイント、さらに本年度は3.4ポイント増加している。顕著な差とは言えないが、コロナ禍において将来に対する不安が高まっている可能性もある。

学部別では、理学部において「就職や将来」が低く「授業や単位」が高くなる傾向があったが、本年度はそのような傾向は見られない。一方、生活科学部は昨年度「生活・経済面」をあげる割合が比較的高かった（37.4%）が、本年度は3学部の中で割合は最も低かった。

図表 4-8 には示していないものの、学科別にみると学部の中でもばらつきがみられることがわかった。具体的には、情報科学科は「授業や単位」について心配をしている割合が多い（80.0%）一方で、「就職や将来」について心配する割合は低め（42.9%）である。心配事として「就職や将来」をあげる割合は、文教育学部人間社会学科（46.3%）、理学部数学科（29.4%）、理学部情報科学科（42.9%）、生活科学部食物栄養学科（48.7%）で半数を下回っており、同じ学部内でもばらつきが大きいことがわかる。



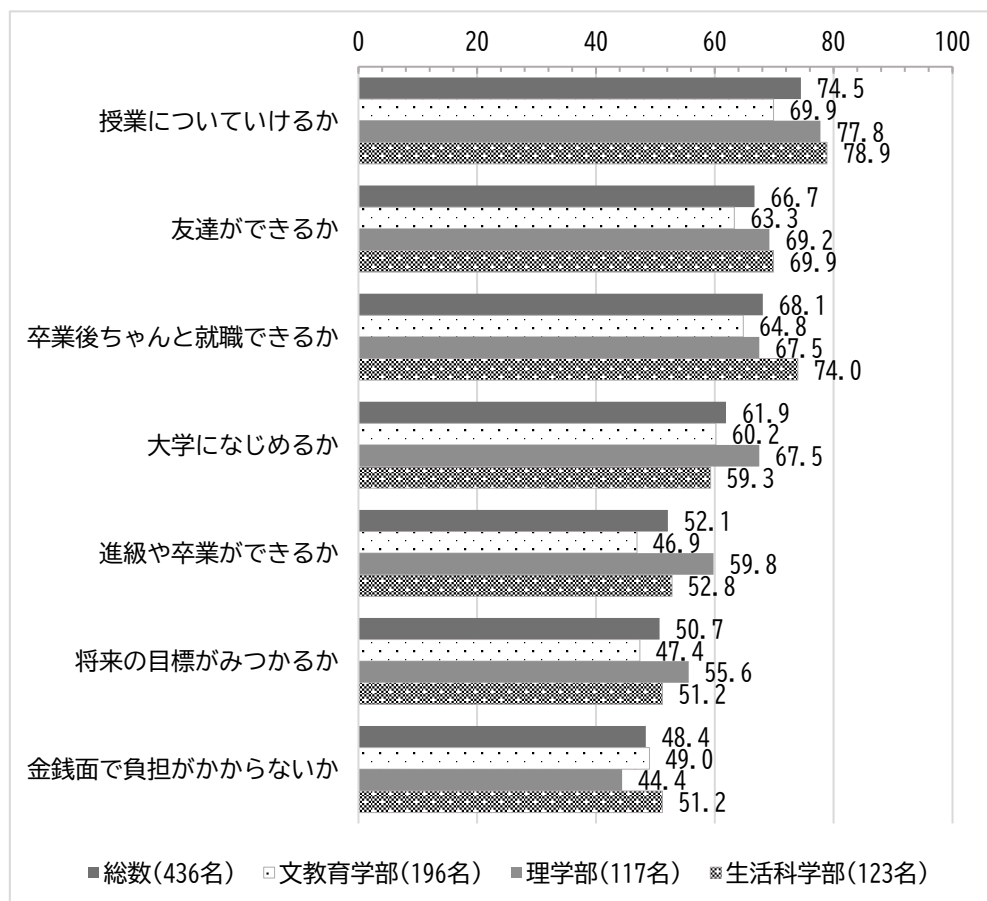
図表 4-8 大学生活が始まって心配なこと

さらに図表 4-9 は大学入学後の不安・心配事に対する今の気持ちについて尋ねた結果を示す。

今の気持ちは「あてはまる」「ある程度あてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の 4 件法で尋ねているが、本分析は「あてはまる」と「ある程度あてはまる」と回答した者の割合を合算した割合（以下、「不安に感じている割合」と表記）を項目別・学部別に示す。

まず、令和 3 年度調査の全体の特徴を確認する。「不安に感じている割合」がもっとも多いのが「授業についていけるか」で 74.5%、次いで「卒業後ちゃんと就職ができるか」の 68.1%、「友達ができるか」の 66.7%であった。「金銭面での負担」を除くすべての項目で「不安に感じている割合」は 5 割を超えていた。

次に令和 3 年度調査との比較したところ、顕著に差がみられる項目はなかった。



図表 4-9 大学生活での不安・心配事

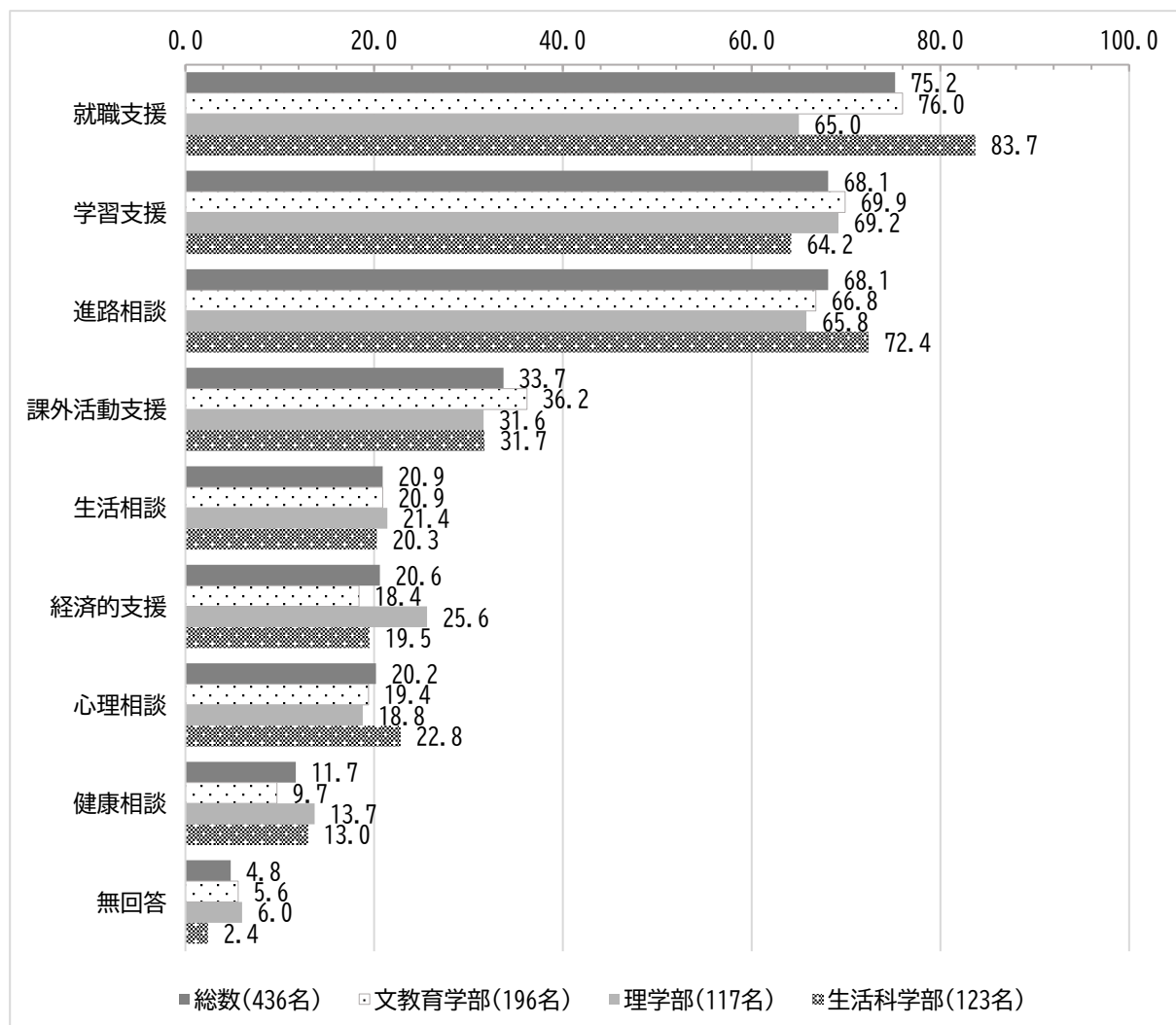
最後に令和 4 年度調査の結果を学部別に比較する。「授業についていけるか」不安に感じている割合について、文教育学部では 69.9%に対し、理学部は 77.8%、生活科学部は 78.9%と差がみられる。理学部では「大学になじめるか」「進級や卒業ができるか」「将来の目標が見つかるか」についても文教育学部に比べると不安を感じる割合が高めである。

何に不安を感じているかについては、学科によっても異なる傾向がみられる。図表には示していないが、学科ごとの特徴を簡単に述べる。「卒業後就職できるか」は文教育学部の中でも人文科学科の新入生において不安に感じている割合が多く（79.6%）、人間社会科学科（51.2%）、芸術・表現行動学科（45.8%）は比較的低い。「将来の目標が見つかるか」については、理学部化学科（70.0%）、生活科学部人間生活学科（70.2%）の新入生は不安に感じている割合が多い。

⑨ 本学の学生支援活動への期待

図表 4-10 は、本学の学生支援活動に期待することについて、複数回答可として尋ねた結果である。まず、令和 4 年度調査全体の傾向について確認する。全体では「就職支援」が例年と同様に 75.2%と最も高く、次いで「進路相談」68.1%、「学習支援」68.1%となっている。この 3 つの支援に対する回答が多いことは例年の傾向と同様である。

令和 4 年度調査の結果を学部別に比較する。生活科学部は「生活相談」「心理相談」「健康相談」と【相談】に期待する割合が多くなっている。、理学部が「進路相談」「学習支援」の割合が高いこと、文教育学部と生活科学部は「就職支援」が高いことは例年と同じ傾向であった。なお、令和 3 年度調査と比較した際に顕著な差が認められる項目はなかった。



図表 4-10 本学の学生支援活動への期待

(5) 将来の進路

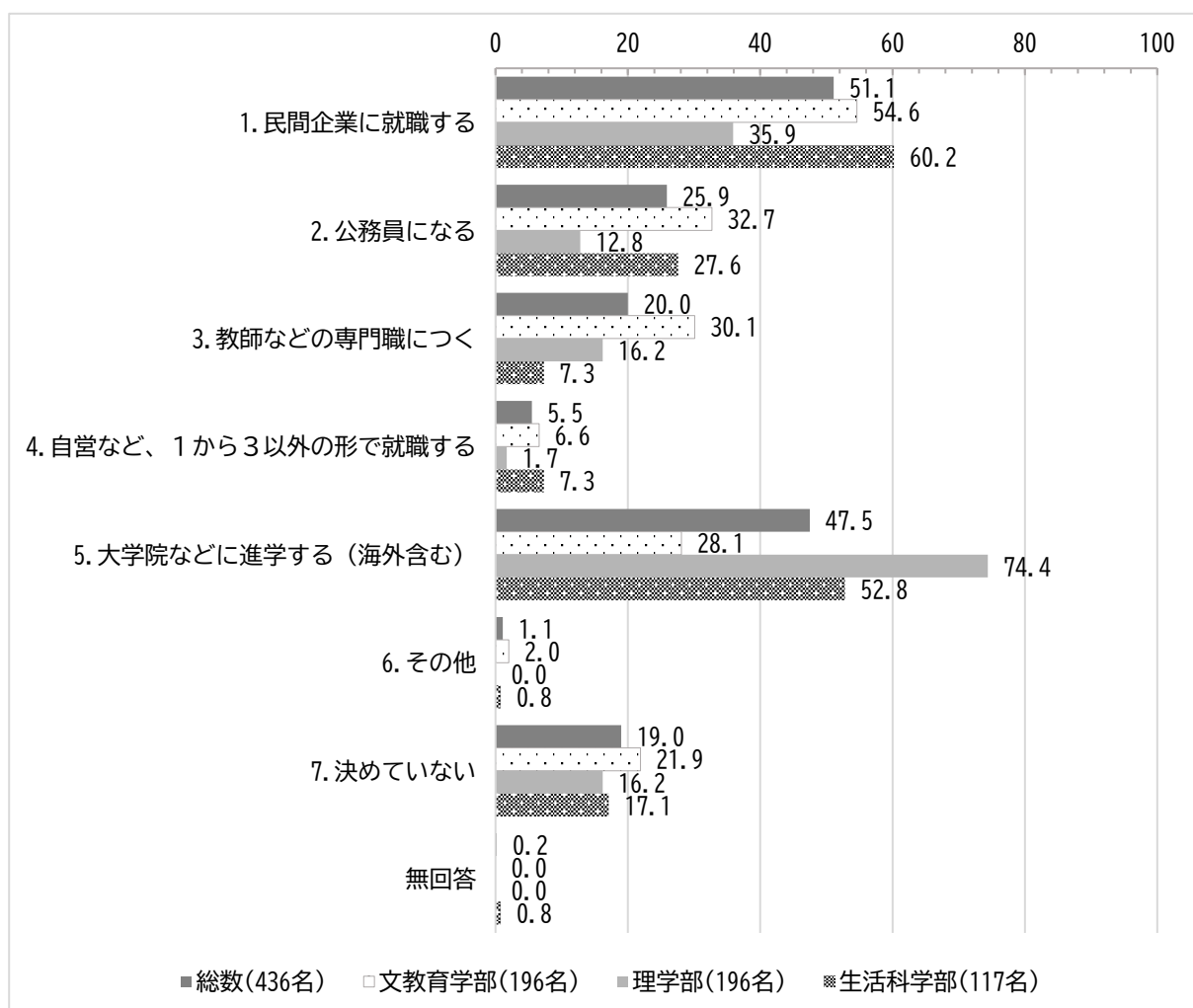
本節では、新入生の将来の進路について①大学卒業後の進路希望、②大学卒業後のキャリアについての考え、③就職や将来に関する親の関与について示す。

① 大学卒業後の進路希望

図表 5-1 に、大学卒業後の進路希望について複数回答可として尋ねた結果を示す。

全体でみると、「民間企業」への就職希望者が最も多く 51.1%、「大学院など（海外含む）」が続いて 47.5%であった。令和 3 年度調査と比較してもこの傾向に顕著な差はなかった。ただし、令和 4 年度の「民間企業」への就職希望者の 51.1%という割合は、令和 3 年度（56.4%）令和 2 年度（55.9%）など近年調査と比べると漸減している。

令和 4 年度調査結果を学部別に比較する。文教育学部では、「民間企業」への就職希望が 54.6%と半数を超えているものの、「公務員」および「教師などの専門職」を希望する者がそれぞれ 32.7%、30.1%と 3 割を超えていることが特徴である。理学部は「大学院などに進学」を希望する割合が令和 3 年度調査でも 71.0%と 7 割を超えていたが、令和 4 年度は 74.4%とより多くの者が入学時点から大学院への進学を希望していることがわかる。生活科学部では「民間企業」就職希望者が 60.2%と最も多く、「大学院進学」希望者が 52.8%、「公務員」希望者が 27.6%である。これは学部内に文系と理系が存在し、特に心理学科と人間・環境科学科の大学院進学希望が増えていることに起因していると考えられる。



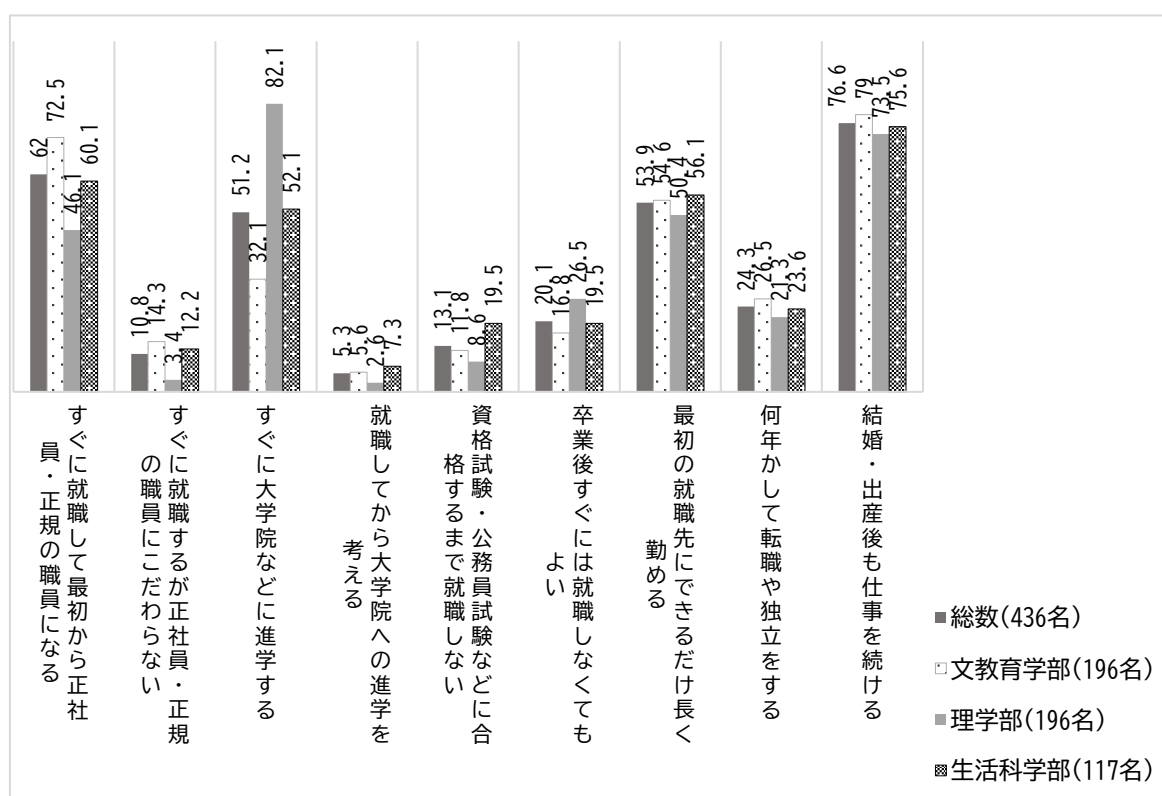
図表 5-1 大学卒業後の進路希望

② 大学卒業後のキャリアについての考え

図表 5-2 に「大学卒業後のキャリアについての考え」に関する 9 項目について尋ねた結果を示す⁶。図表に示す割合は、「そう思う」「ある程度思う」を合計したものである。

「すぐに就職して正社員・正規の職員になる」は全体で 62.0%である。「最初の就職先にできる限り長く勤める」が 53.9%と半数を占めており、「何年かして転職や独立をする」に対して「そう思わない」と回答した割合が 3 割程度であることから、卒業後に正規就業をして、長期勤続するという進路を希望する学生は比較的多いと考えられる。一方で「すぐに就職して正社員・正規の職員になる」に対して「今はまだわからない」と回答した割合は全体で 19.5%、理学部や生活科学部では 2 割を超えており、就職か進学など大学入学時点では決め切れていない状況であることがわかった。

「結婚・出産後も仕事を続ける」については、「そう思わない」と回答した割合は全体の 1.6%であり、「今はまだわからない」と回答した割合は 21.6%であり、結婚出産を経ても働きたいと明確に考えている学生が多い。



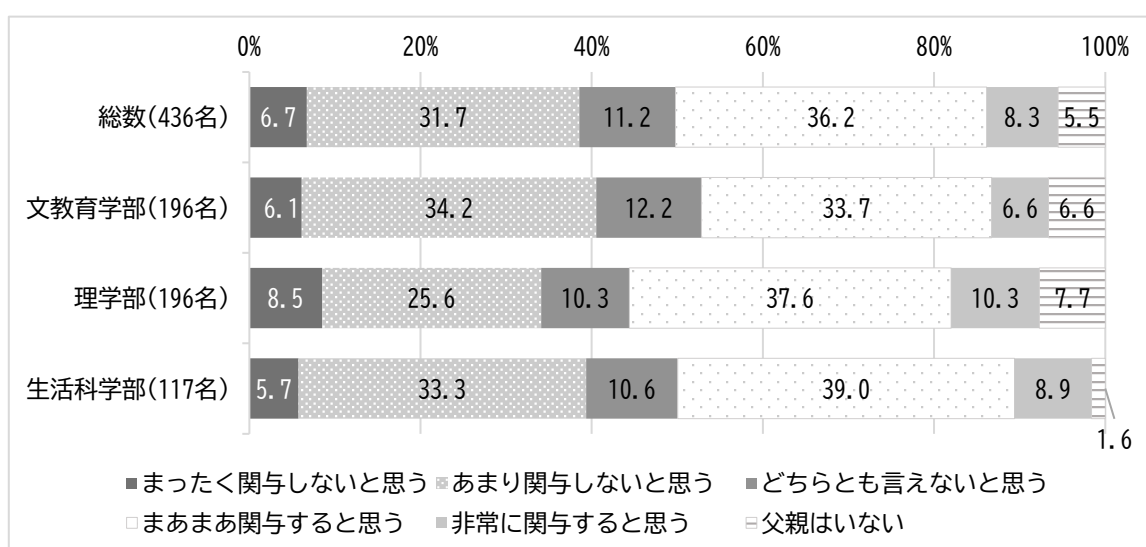
図表 5-2 大学卒業後のキャリアについての考え（全体）

⁶ 令和 4 年度調査では、「そう思う」「ある程度思う」「そう思わない」だけでなく「今はわからない」を選択肢に加えた。回答傾向の変化は選択肢の追加に起因するものと考えられる。

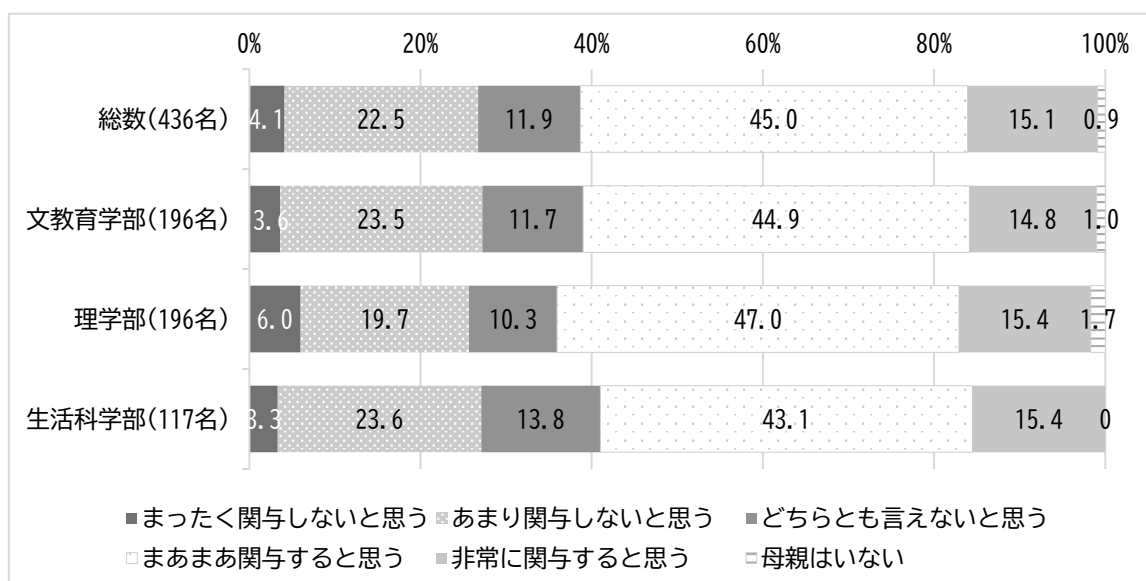
③ 就職や将来に関する親の関与

就職や将来に関する親の関与について「あなたのご両親は、あなたの就職や将来のことにに関して、どれくらい関与しますか」について、「まったく関与しないと思う」「あまり関与しないと思う」「どちらとも言えない」「まあまあ関与すると思う」「非常に関与すると思う」の5件法で尋ねた。図表5-3に父親の関与について尋ねた結果を、図表5-4に母親の関与について尋ねた結果を示す。

はじめに父親の関与について、令和4年度の新入生は、就職や将来のことにに関して全体の44.5%が将来に対して父親の「関与がある」（「非常に関与すると思う」＋「まあまあ関与すると思う」の合算）と考えている。同様に母親に関しては、全体の60.1%が「関与がある」と考えていることがわかった。このように、就職や将来のことにに関する親の関与があると感じている新生入生が半数程度存在すること、父親より母親からの関与があるという傾向は例年と同様である。学部別では、理学部が父親・母親ともに「関与がある」の割合が他学部より多いように見えるが、統計的な差は認められなかった。



図表 5-3 就職や将来のことにに関する父親の関与



図表 5-4 就職や将来のことにに関する母親の関与

第2章 「新入生の保護者調査」の結果

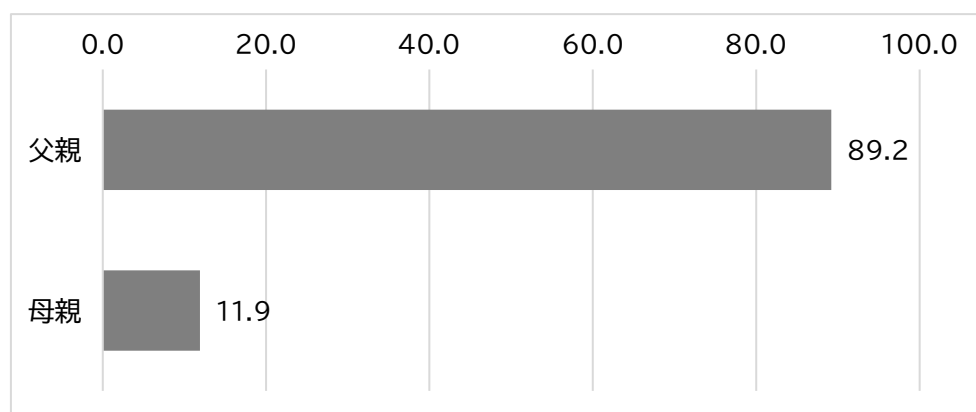
第2章では、新入生の保護者に対する調査結果について報告する。回答者は427名であり、学部別の内訳は、文教育学部191名、理学部115名、生活科学部121名である。

(1) 家庭の暮らし向き

はじめに、新入生の家庭の暮らし向きについて、①主な家計支持者、②家計支持者の職業、③家計支持者および世帯の年収、④大学入学後の家庭の暮らし向きについて示す。

① 主な家計支持者

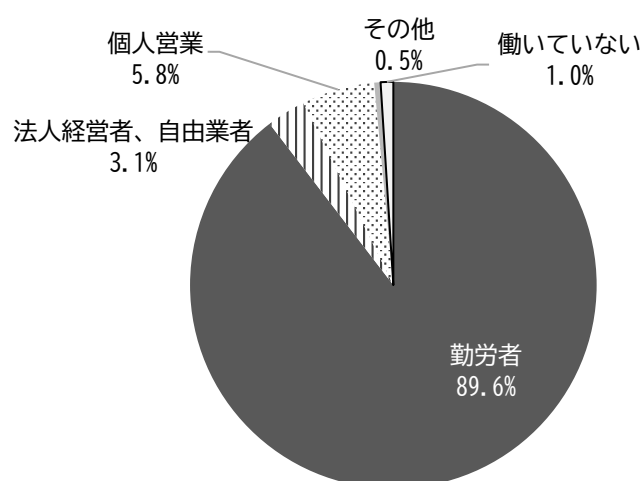
図表 1-1 に、新入生の主な家計支持者について尋ねた結果を示す⁷。主な家計支持者は、全体の89.2%が「父親」、11.9%が「母親」である。学部による顕著な差は認められなかった。



図表 1-1 家計支持者

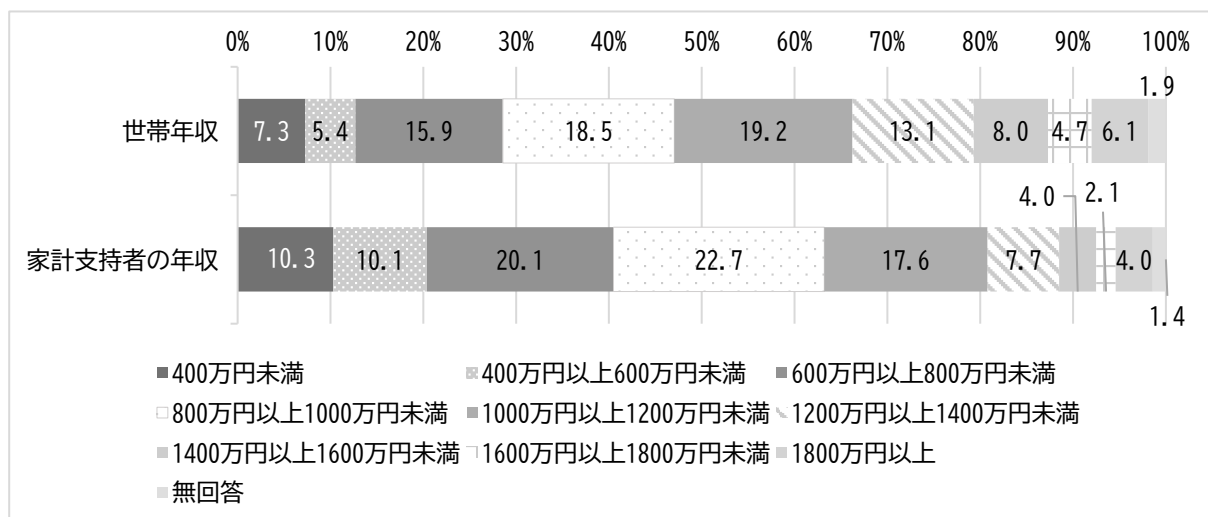
② 家計支持者の職業

図表 1-2 に主な家計支持者の職業について示す。家計支持者の職業は「勤労者」が全体の89.6%を占め、次いで「個人営業」5.8%、「法人経営者・自由業者」3.1%である。勤労者が9割程度である傾向は例年と変わらない。



図表 1-2 家計支持者の職業

⁷ この設問は複数選択を認めている。複数選択されているケースがあったため、父親と母親を合計すると100%を超える。



図表 1-3 家計支持者の年収

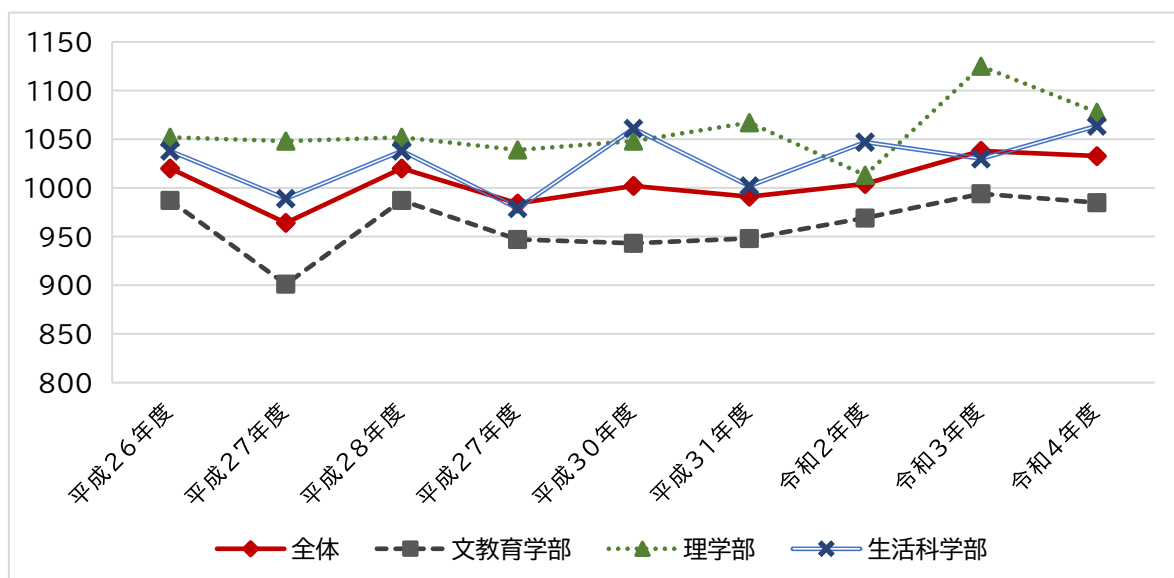
③ 家計支持者および世帯の年収

図表 1-3 に家計支持者および世帯の年収に尋ねた結果を示す。家計支持者については、最大カテゴリーが 22.7%の「800 万円以上 1000 万円未満」、次いで 20.1%の「600 万円以上 800 万円未満」、「1000 万円以上 1200 万円未満」が 17.6%と続く。

世帯年収については、「800 万円以上 1000 万円未満」18.5%、「1000 万円以上 1200 万円未満」19.2%が多く、合わせると 4 割程度である。家計維持者・世帯の年収とも、例年と同様の傾向である。

『令和 2 年度 学生生活調査』（日本学生支援機構 2022）によると、世帯年収が 1000 万円を超える家庭は全体の 27.9%、国立大学・女子では 31.4%である。それに対して、本学の新入生の家庭では、世帯年収が 1000 万円を超えている家庭が全体の 50%を占めており、全国水準に比べて高い方に偏っている。これも例年の新入生と同様の傾向である。

図表 1-4 に、各カテゴリーの中央値に基づき、2014 年（平成 27 年）度以降の新入生の家庭の世帯年収平均（推計）の推移を示す。年度による差異はあるが、この 5 年の平均世帯年収は 1000 万円前後となっている。国立大学昼間部の家庭の年間平均収入額は 856 万円であることから（日本学生支援機構 2022）、図表 1-3 でも確認したように本学の学生の家庭の収入水準は高いと考えられる。

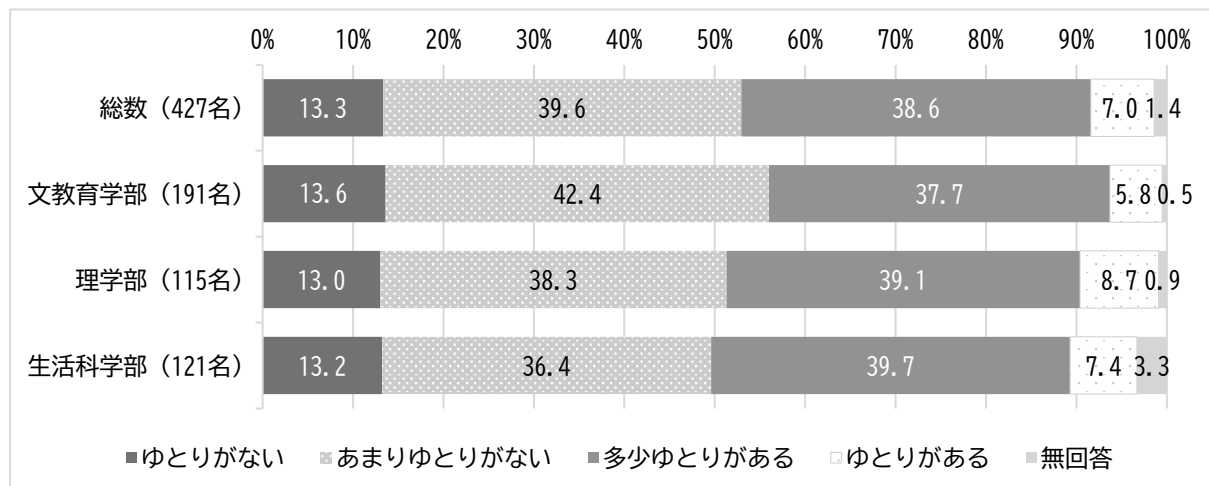


図表 1-4 世帯年収平均（推計）

④ 大学入学後の家庭の暮らし向き

図表 1-5 に、新入生が大学に入学した後の家庭の暮らし向きについて尋ねた結果を示す。

全体でみると「あまりゆとりがない」と回答した割合が 39.6%と最も多いが「多少ゆとりがある」との回答も 38.6%とほぼ同等の割合であった。しかしながら「ゆとりがない」「あまりゆとりがない」という家庭が半数程度存在している。



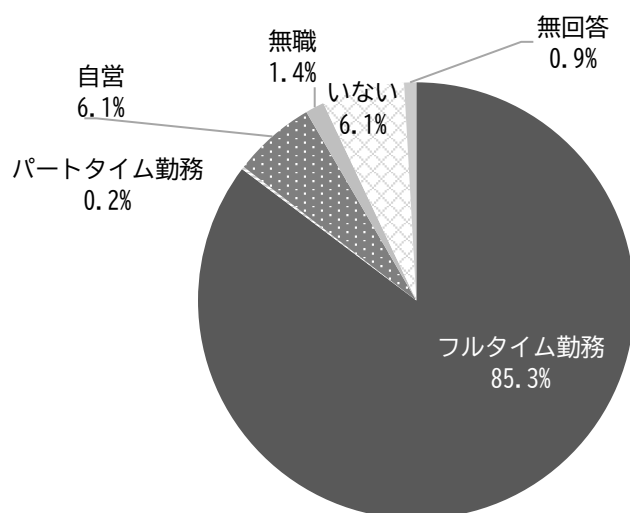
図表 1-5 入学した後の家庭の暮らし向き

(2) 親の職業・学歴

本節では新入生の親の職業や学歴について、①親の勤務形態および職種、②親の学歴について示す。

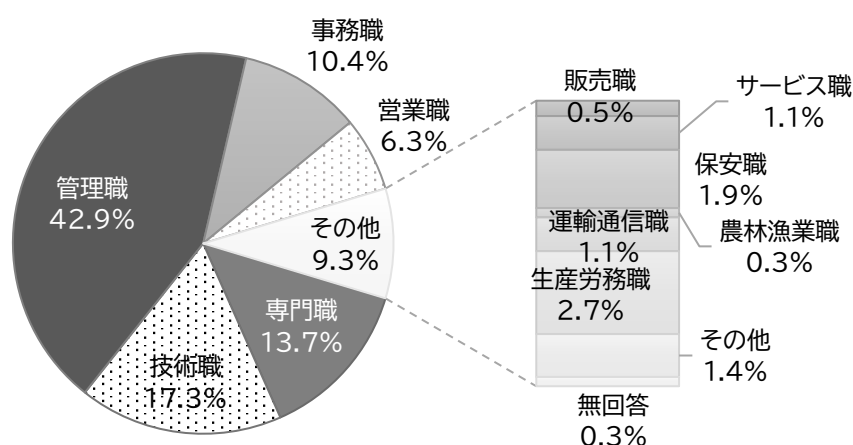
① 親の勤務形態および職種

図表 2-1 に、新入生の父親の勤務形態（「フルタイム勤務」「パートタイム勤務」「自営」「無職」「いない」）を尋ねた結果を示す。新入生の父親の勤務形態は「フルタイム勤務」が 85.3%を占めている。、次いで「自営」が 6.1%である。



図表 2-1 父親の勤務形態

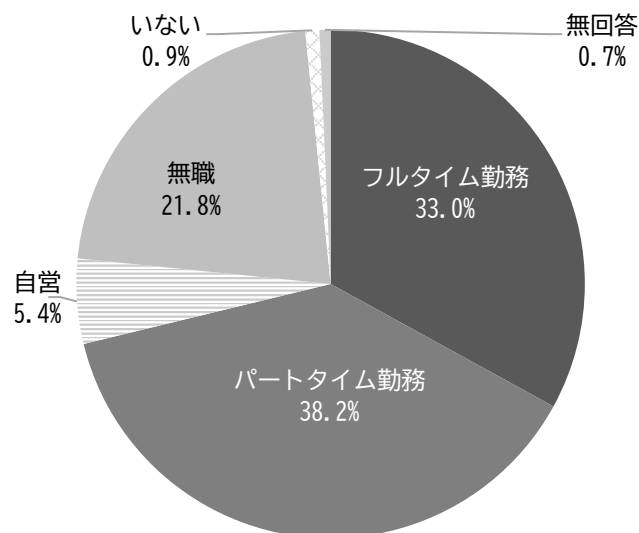
次に、図表 2-2 にフルタイムで勤務する父親に対して職種を尋ねた結果⁸を示す。最も多い職種は、管理職（会社・団体の役員、部課長・工場長・支店長など）42.9%である。次いで、技術職（エンジニア・情報処理技術者など）17.3%、専門職（医師・弁護士・研究者・教師など）13.7%、である。例年と類似する結果である。



図表 2-2 父親の職種

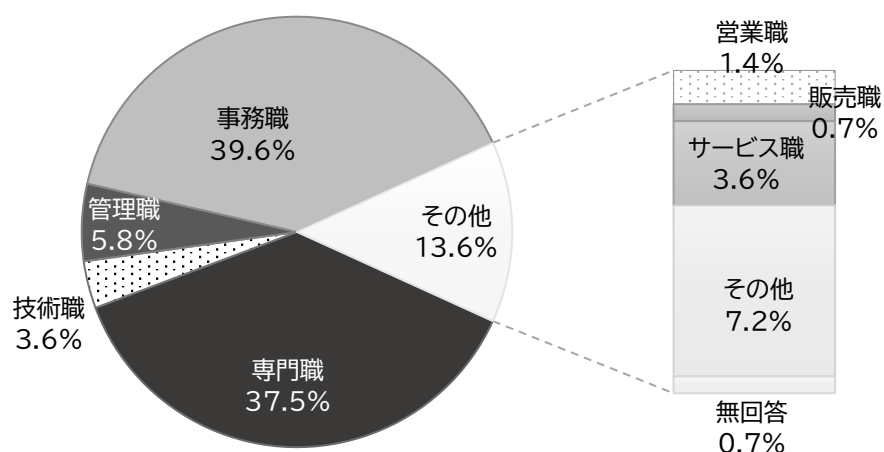
⁸ 回答者は 364 名である。

同様に、新入生の母親の勤務形態について尋ねた結果が図表 2-3 である。例年、「パートタイム勤務」、「フルタイム勤務」、「無職」の順に回答割合が高かったものの昨年度は、「フルタイム勤務」と「パートタイム勤務」の回答割合が同割合になった。本年度は例年と同様「パートタイム勤務」と回答した割合が 5.2 ポイントとわずかながら多かった。「フルタイム勤務」と「パートタイム勤務」を合わせると就業者は 7 割であり、新入生の母親の 7 割が就業しており、2 割程度が「無職」であることは、この数年のトレンドである。



図表 2-3 母親の勤務形態

次にフルタイムで勤務する母親に対し職種について尋ねた結果を図表 2-4 に示す⁹。最も多い職種は、事務職（庶務・人事・経理・調査・企画・秘書・受付など）39.6%で、専門職（医師・弁護士・研究者・教師など）37.5%が続く。この事務職と専門職の割合が同等で他に比べて多いのはこの数年同傾向である。

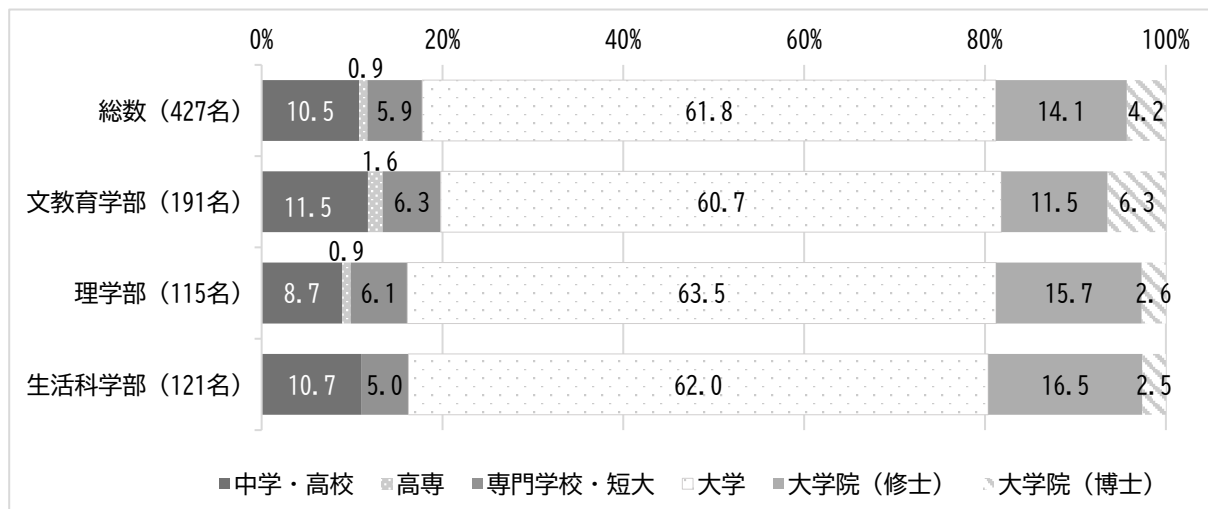


図表 2-4 母親の職種

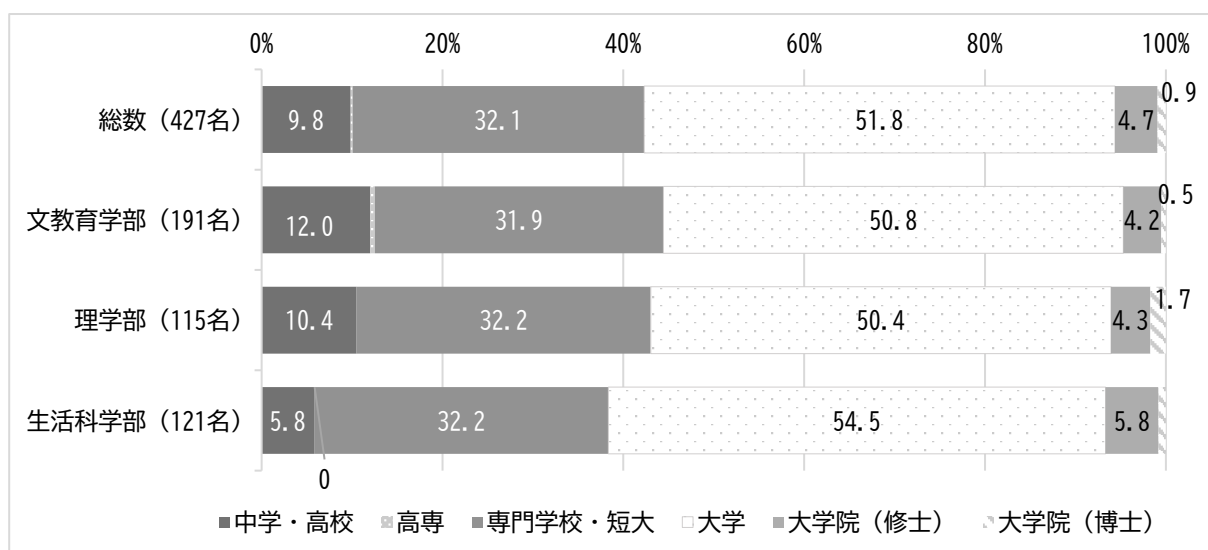
⁹ 回答者は 141 名である。

② 親の学歴

図表 2-5 に、新入生の父親の最終学歴を尋ねた結果を示す。全体で見ると、「大学」が 61.8%と最も高く、続いて「大学院」14.1%、「中学・高校」10.5%である。大卒以上（大学と大学院）の学歴を持つ父親の割合が 80.1%である。令和 4 年度の新入生の父親も例年と同様に学歴が高いほうに偏っている。



図表 2-5 父親の最終学歴



図表 2-6 母親の最終学歴

図表 2-6 に新入生の母親の最終学歴について尋ねた結果を示す。全体で「大学」51.8%、「専門学校・短大」32.1%、「中学・高校」が 9.8%である。「大学」が半数を超えた一方で「中学・高校」が 1 割を切った。令和 4 年度新入生の母親の学歴は、父親の学歴と同様に高いと言える。

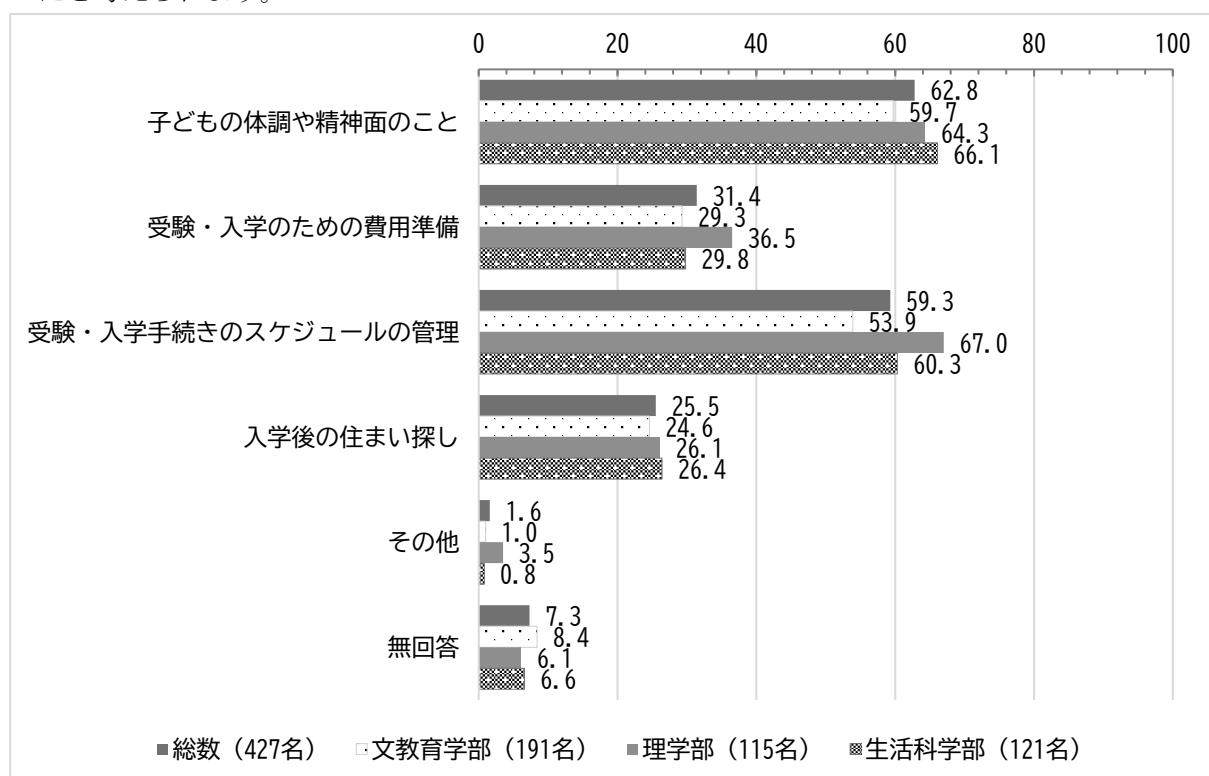
(3) 大学生生活の不安・心配事・学生支援活動への期待

本節では保護者から見た子女の大学生生活の不安・心配事について、①受験から入学までに困ったこと、②大学生活が始まって心配なこと、③本学の学生支援活動で期待するものを示す。

① 受験から入学までに困ったこと

図表 3-1 に、受験から入学までに困ったことについて、複数回答可として尋ねた結果を示す。

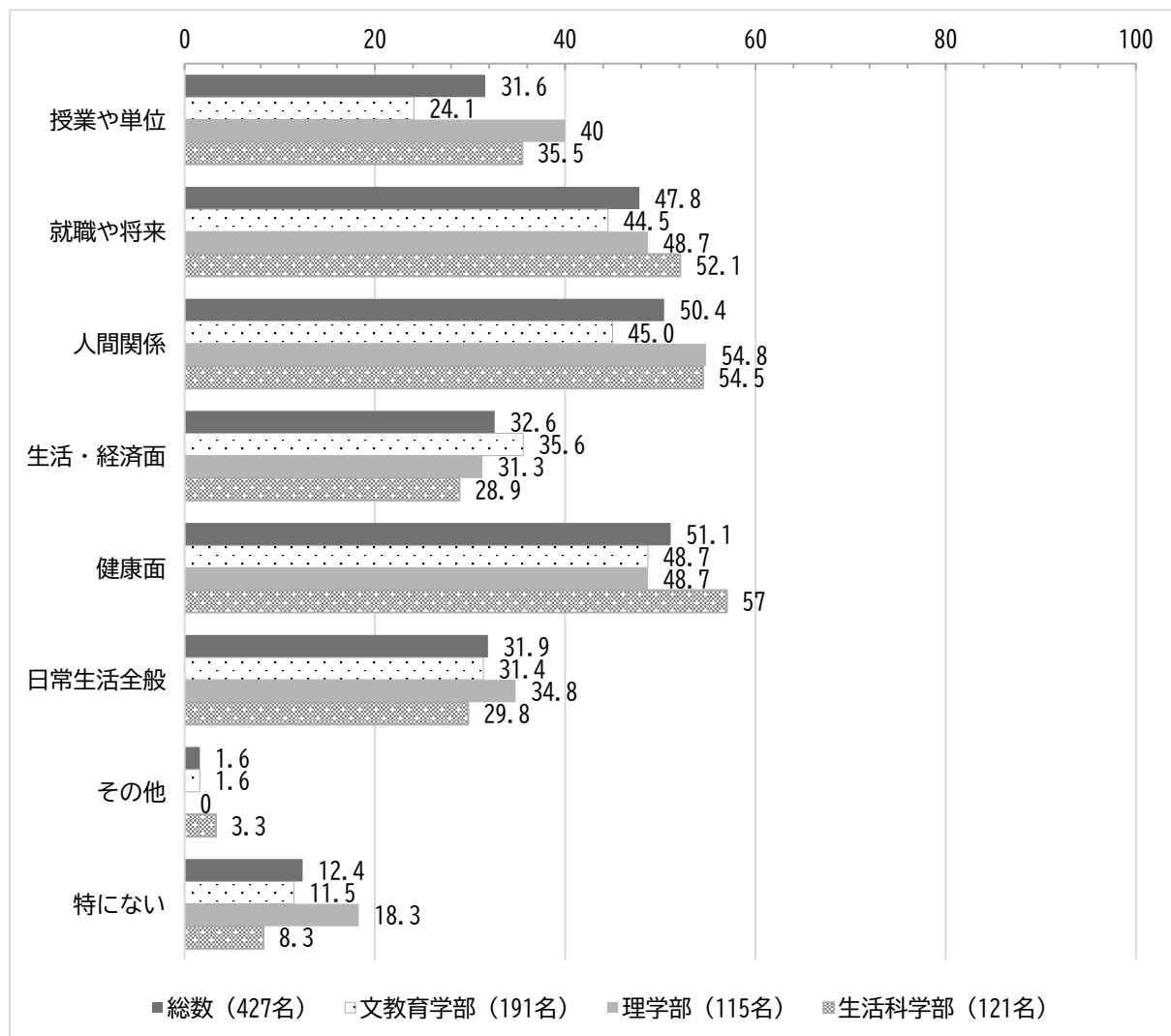
困ったこととして「子どもの体調や精神面」が全体の 62.8%と最も高く、「受験・入学手続きのスケジュールの管理」が 59.3%と続いており、この項目が他の項目と比べて困ったこととして回答される割合が多いのは例年と同様である。しかし、「受験・入学手続きのスケジュールの管理」について令和 2 年度調査は 44.2%、令和 3 年度調査は 52.2%と増加傾向である。いわゆる「コロナ禍」における不安だけでなく、大学入試センター試験から大学入学共通テストへの変更に伴う不安もあったと考えられよう。



図表 3-1 受験から入学までに困ったこと

② 大学生活が始まって心配なこと

図表 3-2 に、大学生活が始まって心配なことについて、複数回答可として尋ねた結果を示す。心配なこととして、全体で「人間関係」50.4%「健康面」51.1%、「就職や将来」47.8%が高かった。この3つの項目が「大学生活が始まって心配なこと」として回答される割合が高いことは、例年と同じ傾向である。

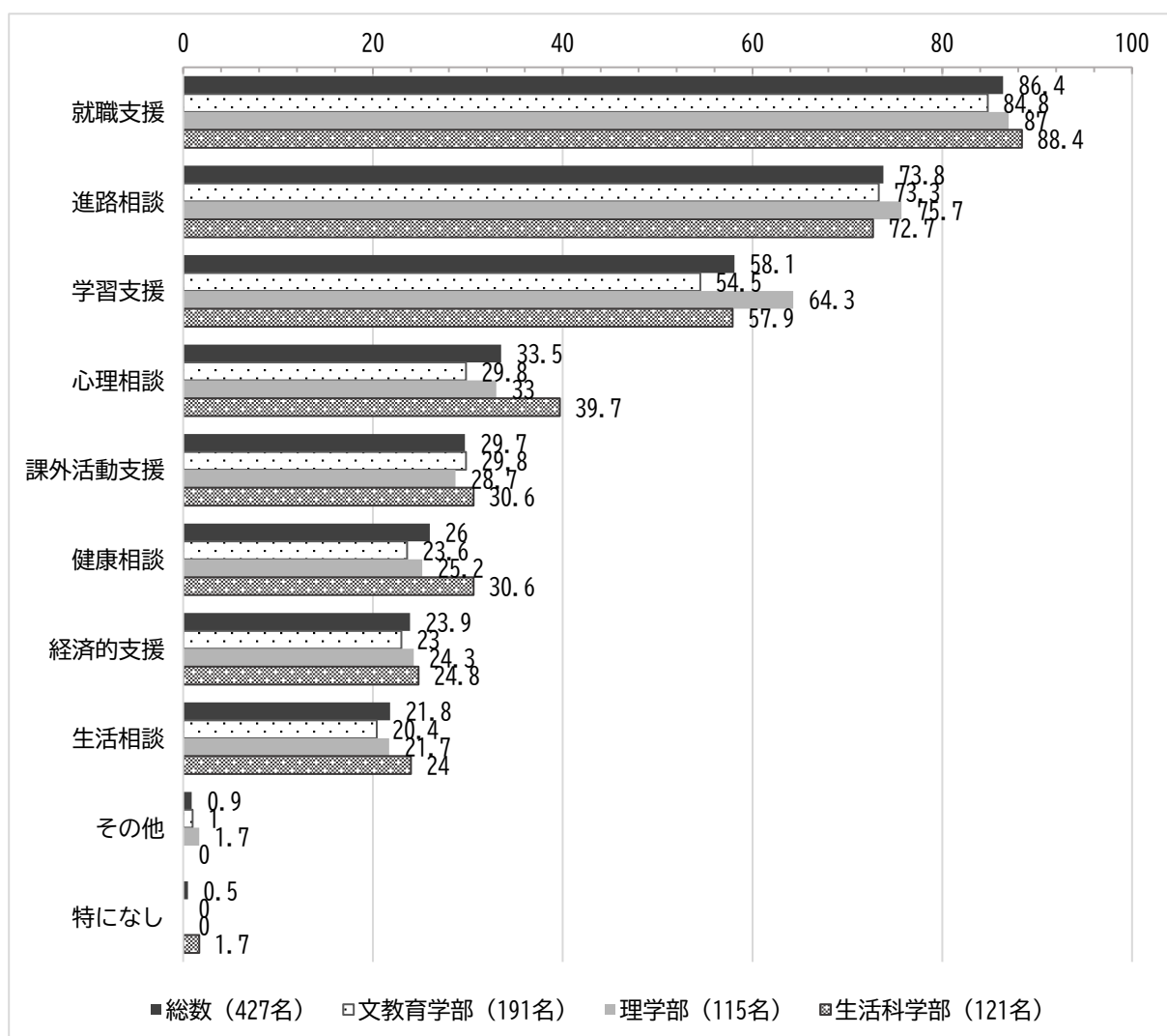


図表 3-2 大学生活が始まって心配なこと

③ 本学の学生支援活動で期待するもの

図表 3-3 に、「お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」の調査項目を参考に、本学の学生支援活動に期待するものについて、複数回答可として尋ねた結果を示す。

全体としては「就職支援」が86.4%で最も高く、「進路相談」73.8%と続く。例年同様、保護者が学生支援として、キャリアや進路支援に期待を寄せている様子が見て取れる。



図表 3-3 本学の学生支援活動で期待するもの

第3章 新入生および保護者調査の結果—奨学金・学生寮に関するクロス集計—

第3章では、新入生436名、新入生の保護者427名に対する調査結果について報告する。

(1) 問題・目的

本章では、新入生および保護者を対象とした調査の中から、奨学金制度および学生寮に関する調査項目を中心に、それぞれの現状を明らかにし、主に昨年度の結果と比較しながら、学生生活支援における今後の課題や展開を示唆することを目的とする。具体的には、以下の2点を明らかにする。

1. 新入生のうち、どのような学生が奨学金を認知しているのか、奨学金の受給経験があるのか、学生寮を認知しているのかを明らかにし、本学の奨学金制度および学生寮の今後の課題や展開を示唆する。

2. 保護者のうち、どのような保護者が奨学金を希望しているのか、学生寮への入寮を希望しているのかを明らかにし、本学の奨学金制度および学生寮の今後の課題や展開を示唆する。

(2) 奨学金に関する結果

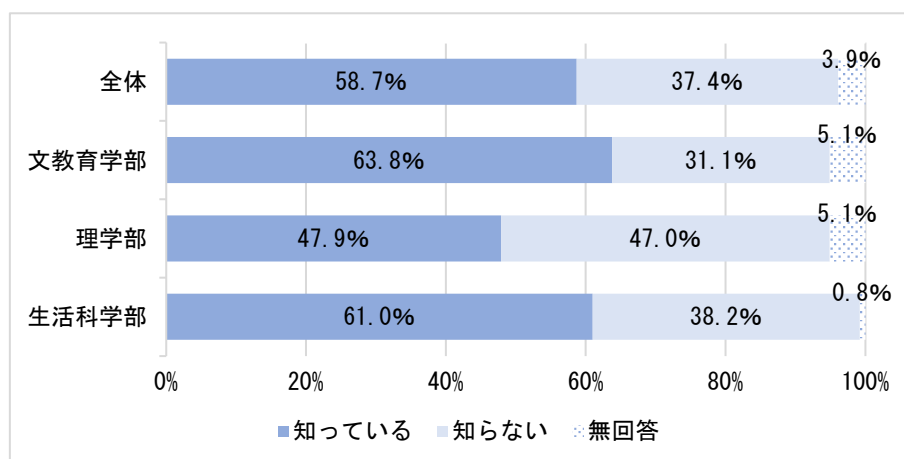
① 新入生の結果

＜奨学金等制度の認知と受給経験＞

新入生の奨学金等制度の認知と受給経験について示したものが図表1-1～1-3である。

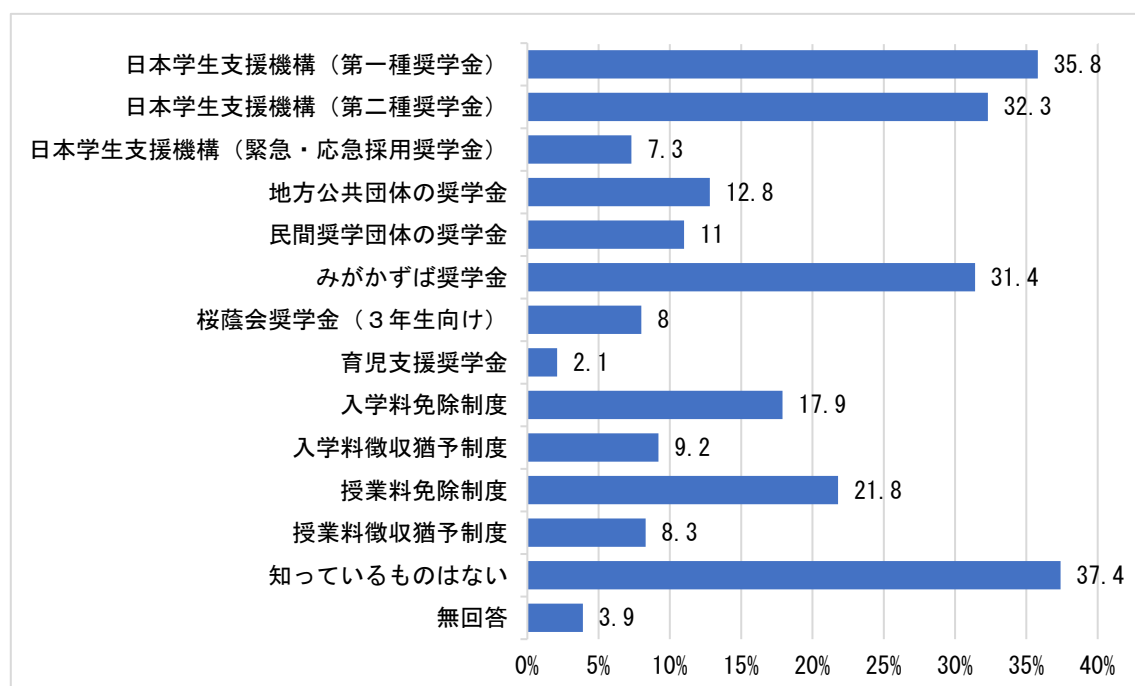
図表1-1は奨学金等制度の認知について、学部別に示している。奨学金等制度について、1つでも認知していれば「知っている」とした。

全体では58.7%の新入生が奨学金等制度について認知しており、昨年度の63.6%に比べ4.9%低下している。学部別にみると、理学部での認知度が最も低く47.9%であり、これは昨年度と同様の傾向である。



図表 1-1 学部別奨学金等制度の認知

図表1-2は、奨学金等制度の認知について、本学独自の制度も含め複数回答可として尋ねた結果である。今年度最も認知度が高いものは、例年の「みがかずば奨学金」から日本学生支援機構の奨学金の第一種・第二種に変わり、それぞれ35.8%、32.3%である。それらに次いで、本学独自の奨学金である「みがかずば奨学金」が31.4%であり、昨年度の43.8%と比べ、12.4%低下した。また、「知っているものはない」が37.4%で、一昨年度の27.9%、昨年度の30.8%に続き上昇傾向である。



図表 1-2 奨学金等制度の認知

図表1-3は、これまで受けたことのある奨学金等制度について、複数回答可として尋ねた結果である。昨年度の1、2位は「特待生」3.1%、「学費免除」2.6%であったのに対し、今年度は「特待生」が3.9%に上昇し依然最も多く、「日本学生支援機構」が2.8%と第2位になった。ほかの奨学金等制度の受給経験は昨年度同様1～2%程度の割合を示している。

図表 1-3 制度別奨学金・学費免除等制度の受給経験

奨学金等 制度名称	日本学生 支援機構	地方公共 団体	学校独自	民間奨学 団体	新聞社	その他	学費免除	特待生
受けた ことがある	2.8%	2.1%	1.6%	1.6%	0.0%	0.9%	2.3%	3.9%

＜奨学金等制度の認知と属性などの項目とのクロス表＞

次に、どのような学生が奨学金等制度を認知しているのかを明らかにするため、「奨学金の認知」と各項目のクロス表を作成し、カイ二乗検定を行った。「奨学金の認知」は、それぞれの選択肢の中で一つでも認知していれば「知っている」として分析した。結果を図表1-4～1-9に示す。

図表1-4は「きょうだい数」と「奨学金認知」のクロス表である。きょうだい数と奨学金認知については昨年度同様有意な関連は見られなかった。

図表 1-4 きょうだい数と奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
きょうだい数	1人っ子	度数	49	26	75
		%	65.3%	34.7%	100.0%
	2人きょうだい	度数	154	101	255
		%	60.4%	39.6%	100.0%
	3人以上	度数	70	36	106
		%	66.0%	34.0%	100.0%
合計		度数	273	163	436
		%	62.6%	37.4%	100.0%

n.s. 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表1-5は「出身高校設置者」と「奨学金認知」のクロス表である。昨年度は出身高校の設置者と奨学金の認知について有意な関連が見られたが、今年度は見られなかった。

図表 1-5 出身高校設置者と奨学金認知の クロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
出身高校設置者	公立	度数	156	93	249
		%	62.7%	37.3%	100.0%
	私立	度数	96	61	157
		%	61.1%	38.9%	100.0%
	国立	度数	16	5	21
		%	76.2%	23.8%	100.0%
	海外	度数	4	4	8
		%	50.0%	50.0%	100.0%
合計		度数	273	163	436
		%	62.6%	37.4%	100.0%

n.s. 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 1-6 は「奨学金受給経験」と「奨学金認知」のクロス表である。奨学金の受給経験がある場合には、奨学金等制度についても認知している割合が高く、有意な関連が見られた。

図表 1-6 奨学金受給経験と奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
奨学金受給経験	経験なし	度数	228	156	384
		%	59.4%	40.6%	100.0%
	経験あり	度数	47	7	54
		%	87.0%	13.0%	100.0%
合計		度数	275	163	438
		%	62.8%	37.2%	100.0%

*** 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 1-7 は「入学後の予定住居」と「奨学金認知」のクロス表である。奨学金等制度について、入学後に予定している住居が実家以外（賃貸マンション・アパート、学生寮）の新入生のほうが認知の割合が高く、昨年度同様有意な関連が見られた。

図表 1-7 入学後の予定住居と奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
入学後の予定住居	実家以外	度数	124	47	171
		%	72.5%	27.5%	100.0%
	実家	度数	151	116	267
		%	56.6%	43.4%	100.0%
合計		度数	275	163	438
		%	62.8%	37.2%	100.0%

** 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 1-8 は「仕送り額」と「奨学金認知」のクロス表である。図表 1-8 での「仕送り額」は、入学後の予定住居を「実家以外（賃貸マンション・アパート、学生寮）」と回答した新入生の仕送り額を示している。仕送り額と奨学金認知との間に有意な関連は見られなかった。昨年度までは大体仕送り額が高いほど奨学金の認知率が下がる傾向が見られたが、今年度は仕送り額が 5 万円未満である場合の奨学金認知率が一番高く、仕送りがない場合もしくは 5 万円以上の場合の奨学金認知率がほぼ同じぐらい比較的に低かった。

図表 1-8 仕送り額と奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
仕送り額	仕送りなし	度数	13	6	19
		%	68.4%	31.6%	100.0%
	5万円未満	度数	16	3	19
		%	84.2%	15.8%	100.0%
	5万円以上10万円未満	度数	36	16	52
		%	69.2%	30.8%	100.0%
	10万円以上	度数	47	21	68
		%	69.1%	30.9%	100.0%
合計		度数	112	46	158
		%	70.9%	29.1%	100.0%

n.s. 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 1-9 は「学生寮認知」と「奨学金認知」のクロス表である。昨年度と同様に、学生寮について認知している場合は、奨学金等制度についても認知している割合が高い結果であり、昨年度同様有意な関連が見られた。

図表 1-9 学生寮認知と奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
学生寮認知	知っている	度数	229	95	324
		%	70.7%	29.3%	100.0%
	知らない	度数	46	68	114
		%	40.4%	59.6%	100.0%
合計		度数	275	163	438
		%	62.8%	37.2%	100.0%

*** 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

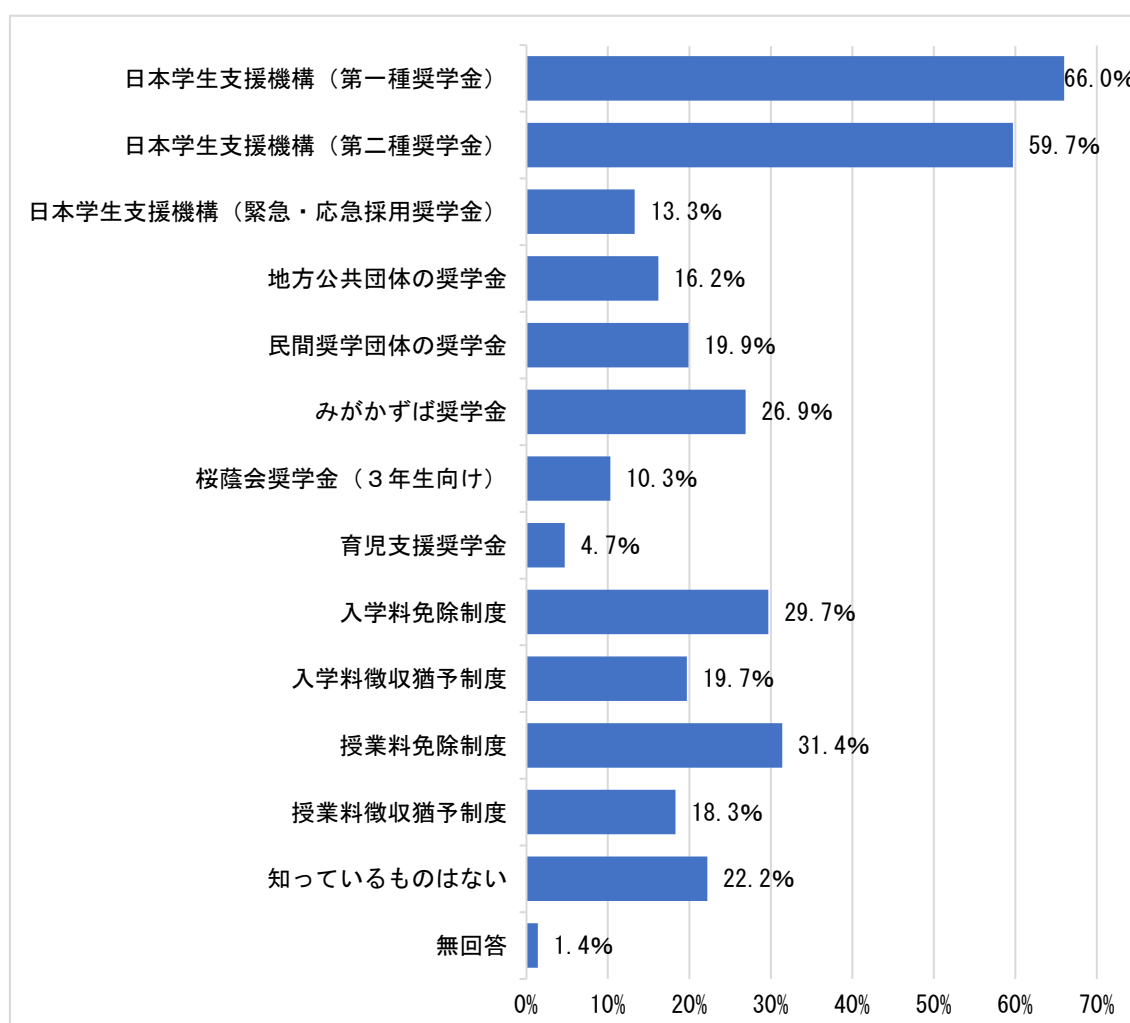
② 保護者の結果

＜奨学金等制度の認知・受給経験・利用希望＞

保護者票の奨学金等制度の認知、利用希望について示したものが図表 2-1～2-2 である。

図表2-1は、保護者の奨学金・学費免除等の制度の認知について、本学独自の制度も含め複数回答可として尋ねた結果である。

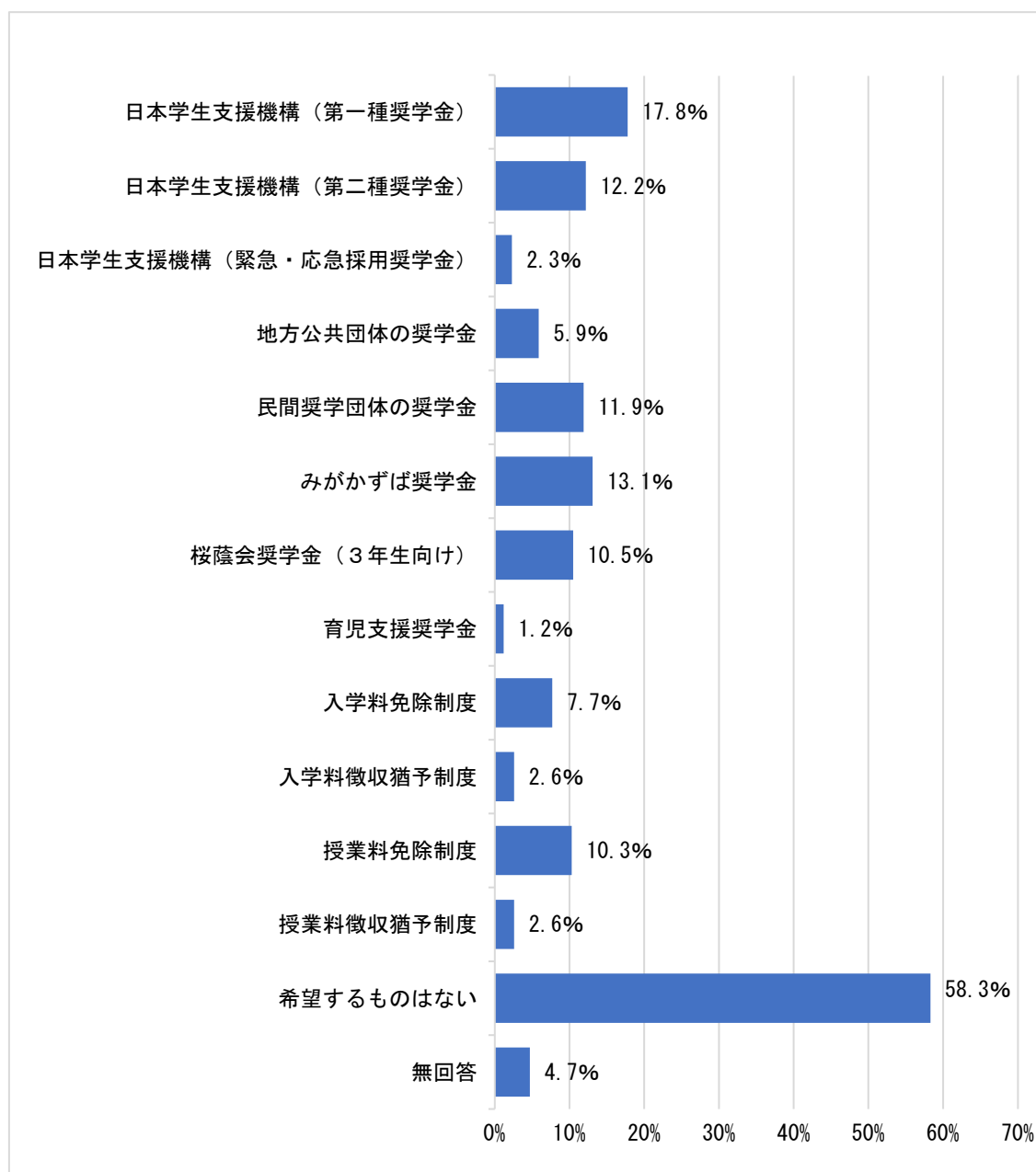
奨学金制度に関しては、最も認知率が高いのは日本学生支援機構第一種の66.0%であり、第二種が59.7%と続く。本学のみがかずば奨学金の認知率は、26.9%と昨年度に比べ5.1%低下している。ただ、「民間奨学団体の奨学金」、「桜蔭会奨学金（3年生向け）」、「育児支援奨学金」、入学料や授業料の免除制度、入学料や授業料の徴収猶予制度の認知率は昨年度に比べ上昇している。



図表 2-1 保護者の奨学金等制度の認知度

図表 2-2 では大学入学後の奨学金等制度利用希望について、複数回答可として尋ねた結果である。日本学生支援機構（第一種奨学金）は昨年度同様もっとも利用希望率が高かった。本学独自の奨学金である「みがかずば奨学金」は平成 30 年から利用希望率が減少していたが、4 年ぶりに 2 位に上昇した。日本学生支援機構（第二種奨学金）と「民間奨学団体の奨学金」は昨年度の第 2 位、第 3 位からそれぞれ第 3 位、第 4 位に低下している。

また、「希望するものはない」と回答した割合が 58.3%であり、昨年 to 比べ 0.3%増えている。



図表 2-2 奨学金等制度の利用希望

<奨学金希望と属性などの項目とのクロス表>

次に、どのような保護者が奨学金等制度の利用を希望しているか明らかにするため、「奨学金の希望」と各項目とのクロス表を作成した。それぞれの結果を図表 2-3～2-11 に示す。

図表 2-3 は「家計支持者」と「奨学金希望」のクロス表である。家計支持者が母親である場合や、父・母・入学予定者本人のいずれでもない場合、奨学金を希望する割合が高く、有意な関連が見られた。

図表 2-3 家計支持者と奨学金希望 のクロス表

			奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
家計支持者	父	度数	140	235	375
		%	37.3%	62.7%	100.0%
	母	度数	34	11	45
		%	75.6%	24.4%	100.0%
	入学予定者本人	度数	3	3	6
		%	50.0%	50.0%	100.0%
	その他	度数	12	0	12
		%	100.0%	0.0%	100.0%
合計		度数	189	249	438
		%	43.2%	56.8%	100.0%

*** 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 2-4 は、「父親の就労形態」と「奨学金の希望」のクロス表である。父親が「無職」や「いない」の場合、奨学金を希望する割合が高く、昨年度同様統計的に有意な関連が見られた。

図表 2-4 父親の就労形態と奨学金希望 のクロス表

			奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
父親の 就労形態	フルタイム勤務	度数	138	226	364
		%	37.9%	62.1%	100.0%
	パートタイム勤務	度数	1	0	1
		%	100.0%	0.0%	100.0%
	自営	度数	11	15	26
		%	42.3%	57.7%	100.0%
	無職	度数	4	2	6
		%	66.7%	33.3%	100.0%
	いない	度数	20	6	26
		%	76.9%	23.1%	100.0%
	不明	度数	4	0	4
		%	100.0%	0.0%	100.0%
合計		度数	178	249	427
		%	41.7%	58.3%	100.0%

*** 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 2-5 は、「母親の就労形態」と「奨学金の希望」のクロス表である。昨年度と同じような傾向が見られ、有職母親の就労形態は「フルタイム」、「パートタイム」、「自営」それぞれであるが、奨学金の希望率には大きな差はない。ただし、「母親の就労形態」と「奨学金希望」との間には昨年度同様有意な関連が見られなかった。

図表 2-5 母親の就労形態と奨学金希望 のクロス表

			奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
母親の 就労形態	フルタイム勤務	度数	61	80	141
		%	43.3%	56.7%	100.0%
	パートタイム勤務	度数	69	94	163
		%	42.3%	57.7%	100.0%
	自営	度数	7	16	23
		%	30.4%	69.6%	100.0%
	無職	度数	37	56	93
		%	39.8%	60.2%	100.0%
	いない	度数	2	2	4
		%	50.0%	50.0%	100.0%
	不明	度数	2	1	3
		%	66.7%	33.3%	100.0%
合計		度数	140	178	427
		%	39.1%	41.7%	100.0%

n.s. 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表2-6は「入学後の暮らし向き」と「奨学金希望」のクロス表である。昨年度同様、入学後の暮らし向きにゆとりがないと感じている場合には奨学金を希望する割合が高く、有意な関連が見られた。

図表2-6 入学後の暮らし向きと奨学金希望 のクロス表

			保護者の奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
入学後の暮らし向き	ゆとりがない	度数	137	89	226
		%	60.6%	39.4%	100.0%
	ゆとりがある	度数	40	155	195
		%	20.5%	79.5%	100.0%
	不明	度数	12	5	17
		%	70.6%	29.4%	100.0%
合計		度数	189	249	351
		%	43.2%	56.8%	100.0%

*** 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表2-7は「世帯年収」と「奨学金希望」のクロス表である。「1200万円以上」の選択肢を合算してクロス表を作成した。2019年度以来同じ傾向で、世帯年収が800万円未満の場合には奨学金を希望する割合が高く、世帯年収が800万円以上の場合には奨学金を希望する割合が低く、有意な関連が見られた。

図表 2-7 世帯年収と保護者の奨学金希望 のクロス表

			保護者の奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
世帯年収	400万円未満	度数	28	3	31
		%	90.3%	9.7%	100.0%
	400万円以上600万円未満	度数	20	3	23
		%	87.0%	13.0%	100.0%
	600万円以上800万円未満	度数	46	22	68
		%	67.6%	32.4%	100.0%
	800万円以上1000万円未満	度数	27	52	79
		%	34.2%	65.8%	100.0%
	1000万円以上1200万円未満	度数	23	59	82
		%	28.0%	72.0%	100.0%
	1200万円以上	度数	32	104	136
		%	23.5%	76.5%	100.0%
	合計	度数	176	243	419
		%	42.0%	58.0%	100.0%

*** 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表2-8は「家計支持者年収」と「奨学金希望」のクロス表である。「1200万円以上」の選択肢は合算してクロス表を作成した。家計支持者の年収が600万円未満の場合には奨学金を希望する割合が高く、家計支持者の年収が600万円以上の場合には奨学金を希望する割合が低く、有意な関連が見られた。2017年度からの分水嶺が800万円だったのに対し、今年度は600万円に低下し、やや異なる結果を見せている。

図表 2-8 家計支持者年収と奨学金希望 のクロス表

			奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
家計支持者年収	400万円未満	度数	40	4	44
		%	90.9%	9.1%	100.0%
	400万円以上600万円未満	度数	31	12	43
		%	72.1%	27.9%	100.0%
	600万円以上800万円未満	度数	38	48	86
		%	44.2%	55.8%	100.0%
	800万円以上1000万円未満	度数	33	64	97
		%	34.0%	66.0%	100.0%
	1000万円以上1200万円未満	度数	20	55	75
		%	26.7%	73.3%	100.0%
	1200万円以上	度数	15	61	76
		%	19.7%	80.3%	100.0%
合計		度数	177	244	421
		%	42.0%	58.0%	100.0%

*** 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表2-9は「本人の奨学金受給経験」と「保護者の奨学金希望」のクロス表である。これまでに奨学金受給経験がある場合には奨学金を希望する割合が高いことが示された。これは従来と同様の結果で、両者の間には有意な関連が見られた。

図表 2-9 奨学金受給経験と奨学金希望 のクロス表

			保護者の奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
本人の奨学金受給 経験	経験なし	度数	153	231	384
		%	39.8%	60.2%	100.0%
	経験あり	度数	36	18	54
		%	66.7%	33.3%	100.0%
合計		度数	189	249	438
		%	43.2%	56.8%	100.0%

*** 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 2-10 は「保護者の学生寮認知」と「保護者の奨学金希望」のクロス表である。学生寮を知っている場合、奨学金を希望する割合が高く、有意な関連が見られた。これは従来と同様の結果である。

図表 2-10 学生寮認知と奨学金希望 のクロス表

			保護者の奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
保護者の学生寮の認知	知っている	度数	163	148	311
		%	52.4%	47.6%	100.0%
	知らない	度数	26	101	127
		%	20.5%	79.5%	100.0%
合計		度数	189	249	438
		%	43.2%	56.8%	100.0%

*** 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表2-11は「保護者の学生寮希望」と「保護者の奨学金希望」のクロス表である。学生寮を希望している場合、奨学金を希望する割合が高いことが示され、有意な関連が見られた。これは従来と同様の傾向である。

図表 2-11 学生寮希望と奨学金希望 のクロス表

			保護者の奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
保護者の学生寮希望	希望する	度数	114	70	184
		%	62.0%	38.0%	100.0%
	希望しない	度数	75	179	254
		%	29.5%	70.5%	100.0%
合計		度数	189	249	438
		%	43.2%	56.8%	100.0%

*** 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

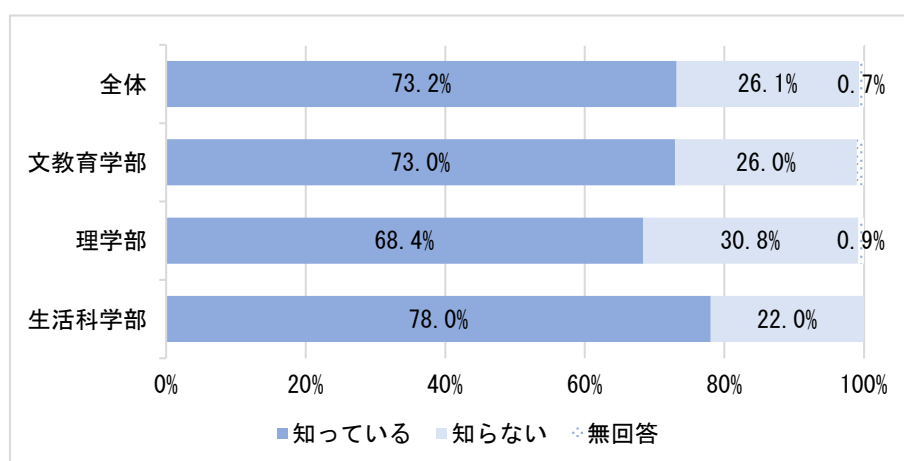
(3) 学生寮に関する結果

① 新入生の結果

<学生寮の認知>

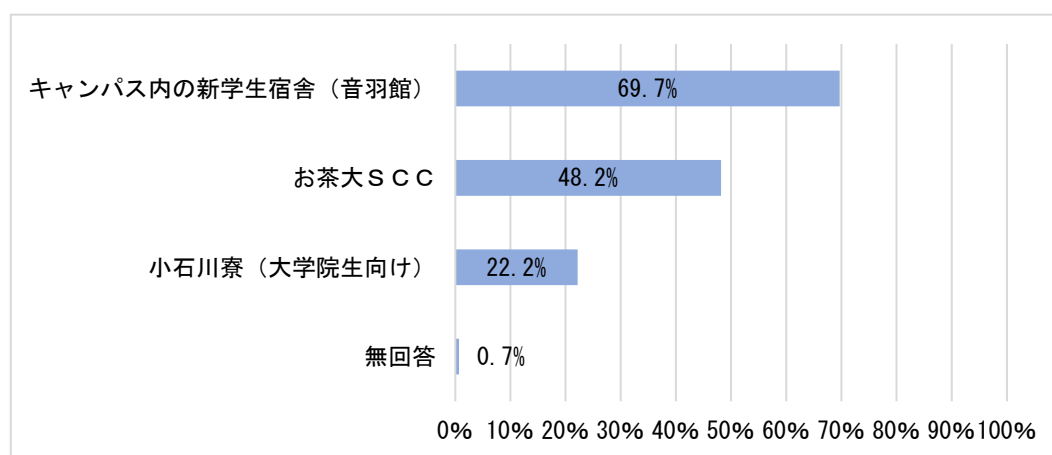
図表3-1は本学の学生寮の認知について、複数回答可として尋ね、学部別に集計した結果である。1つでも認知している学生寮があれば「知っている」とした。全体では73.2%の新入生が学生寮について認知しており、平成29年度以来の最高値に達している。

学部別にみると、理学部が他学部に比べて低い結果となっており、これは従来と同様の結果である。ただ、一昨年度までは40%台であった理学部の認知率が、昨年度は51.0%に、今年度は68.4%に上昇したのは大きな変化であろう。



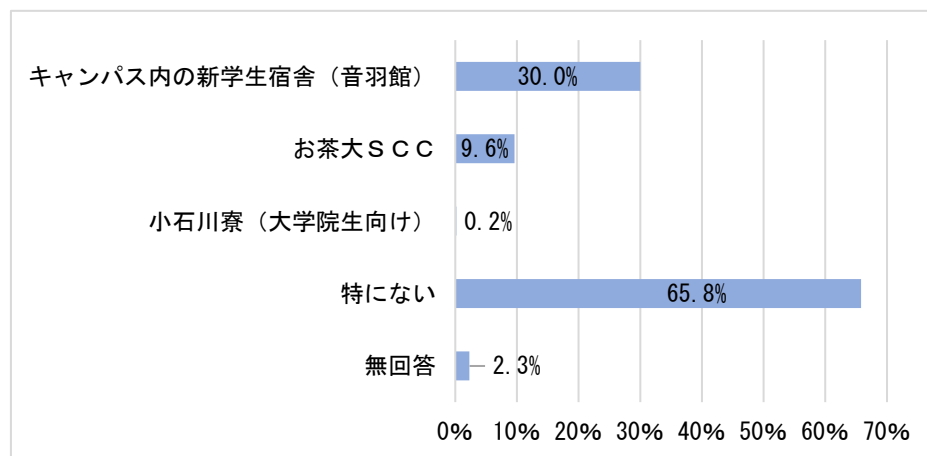
図表 3-1 本学の学生寮に対する認知（学部別）

図表 3-2 では本学の学生寮に対する認知を複数回答可として尋ね、寮の種類別に集計した結果である。本学にはキャンパス内の新学生宿舎である音羽館、教育寮であるお茶大 SCC（学部1・2年生対象）、自治寮である小石川寮（大学院生対象）の3つの学生寮がある。認知率は、音羽館が69.7%と最も高く、次いでお茶大 SCC が48.2%、小石川寮が22.2%であった。昨年度の認知率と比較すると、お茶大 SCC は57.7%から9.5%低下し、小石川寮は30.5%から8.3%低下している。



図表 3-2 本学の学生寮に対する認知（寮別）

入寮を希望する学生寮を複数回答可として尋ねた結果が図表 3-3 である。希望する学生寮を「特になし」と回答した新入生が最も多く 65.8%であり、昨年度の 79.5%からは 13.7%低下した。音羽館を希望する学生は 30.0%で、お茶大 SCC を希望する学生は 9.6%、小石川寮は 0.2%であった。昨年度の希望率と比較すると、お茶大 SCC は 0.9%低下し、小石川寮は 1.1%低下した。



図表 3-3 本学の学生寮への入寮希望（寮別）

<学生寮の認知と属性などの項目とのクロス表>

次に、どのような新入生が本学の学生寮について認知しているか明らかにするため、「学生寮の認知」と各項目とのクロス表を作成した。それぞれ結果を図表 3-4～3-8 に示す。「学生寮の認知」は、本学の学生寮のうち、1つでも知っているものがあれば「知っている」とした。

図表3-4では「きょうだい数」と「学生寮認知」のクロス表である。きょうだい数と学生寮認知の間には有意な関連は見られなかった。これは昨年度と同様の結果である。

図表 3-4 きょうだい数と学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知っている	知らない	
きょうだい数	1人っ子	度数	56	19	75
		%	74.7%	25.3%	100.0%
	2人きょうだい	度数	191	64	255
		%	74.9%	25.1%	100.0%
	3人以上	度数	75	31	106
		%	70.8%	29.2%	100.0%
合計		度数	322	114	436
		%	73.9%	26.1%	100.0%

n.s. 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表3-5は「出身高校設置者」と「学生寮認知」のクロス表である。「出身高校設置者」と「学生寮認知」との間には昨年度同様有意関連は見られなかった。

図表 3-5 出身高校設置者と学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知っている	知らない	
出身高校設置者	公立	度数	193	56	249
		%	77.5%	22.5%	100.0%
	私立	度数	106	51	157
		%	67.5%	32.5%	100.0%
	国立	度数	15	6	21
		%	71.4%	28.6%	100.0%
	海外	度数	7	1	8
		%	87.5%	12.5%	100.0%
	不明	度数	1	0	1
		%	100.0%	0.0%	100.0%
合計		度数	322	114	436
		%	73.9%	26.1%	100.0%

n.s. 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 3-6 は「奨学金受給経験」と「学生寮の認知」のクロス表である。「奨学金受給経験」と「学生寮認知」の間には昨年度同様有意な関連は見られなかった。

図表 3-6 奨学金受給経験と学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知っている	知らない	
奨学金受給経験	経験なし	度数	285	99	384
		%	74.2%	25.8%	100.0%
	経験あり	度数	39	15	54
		%	72.2%	27.8%	100.0%
合計		度数	324	114	438
		%	74.0%	26.0%	100.0%

n.s. 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表3-7では「入学後の予定住居」と「学生寮認知」のクロス表である。入学後の住居が実家以外（賃貸マンション・アパート、寮など）の場合には、学生寮について認知している割合が高く、有意な関連が見られた。

図表 3-7 居住予定の住居と学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知っている	知らない	
入学後の居住予定	実家以外	度数	159	12	171
		%	93.0%	7.0%	100.0%
	実家	度数	165	102	267
		%	61.8%	38.2%	100.0%
合計		度数	324	114	438
		%	74.0%	26.0%	100.0%

*** 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 3-8 は「仕送り額」と「学生寮の認知」のクロス表である。図表 3-8 での「仕送り額」は、入学後の予定住居を「実家以外（賃貸マンション・アパート、寮など）」と回答した新入生の仕送り額を示している。「仕送り額」と「学生寮の認知」の間には昨年度同様有意な関連は見られなかった。

図表 3-8 仕送り額と学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知っている	知らない	
仕送り額	仕送りなし	度数	18	1	19
		%	94.7%	5.3%	100.0%
	5万円未満	度数	17	2	19
		%	89.5%	10.5%	100.0%
	5万円以上10万円未満	度数	45	7	52
		%	86.5%	13.5%	100.0%
	10万円以上	度数	66	2	68
		%	97.1%	2.9%	100.0%
合計		度数	146	12	158
		%	92.4%	7.6%	100.0%

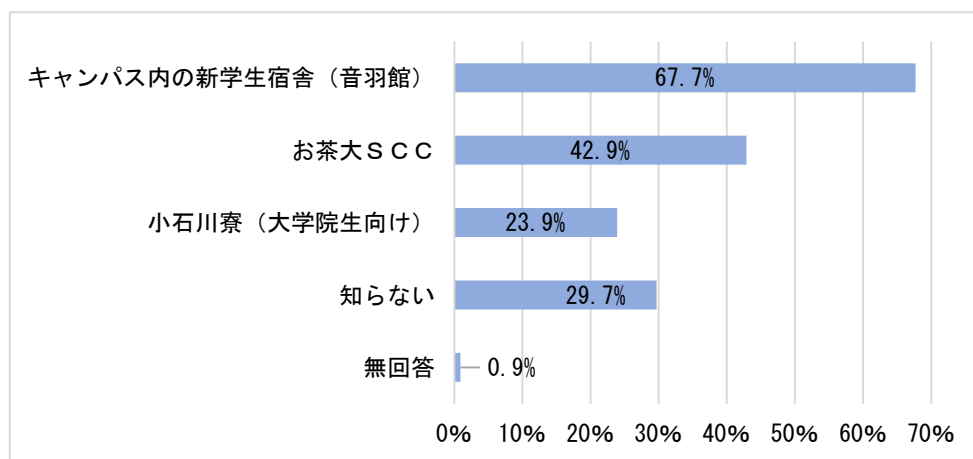
n.s. 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

② 保護者の結果

＜学生寮の認知と利用希望＞

図表 4-1 では、新入生の保護者に本学の学生寮に対する認知を複数回答可として尋ねた結果である。

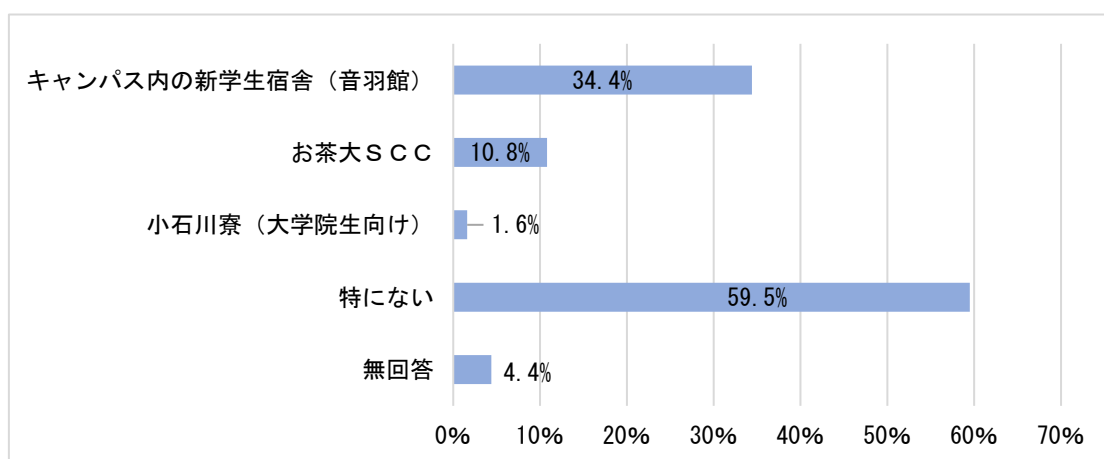
認知率が最も高かったのは、音羽館で 67.7%である。次いでお茶大 SCC が 42.9%、小石川寮が 23.9%であるが、昨年度に比べ、それぞれ 8.8%、2.3%減少している。「知らない」と回答した割合は 29.7%で、昨年度の 44.9%から大幅に下がった。



図表 4-1 保護者の学生寮認知

図表 4-2 は、本学の学生寮への入寮希望について複数回答可として尋ねた結果である。

音羽館への入寮希望が 34.4%、次いでお茶大 SCC が 10.8%、小石川寮が 1.6%であり、入寮希望について「特にない」が 59.5%であった。昨年度の入寮希望率と比べて見ると、国際学生宿舎 18.1%に代わり、音羽館が 34.4%となっている。また、「特にない」は 75.6%から 59.5%へと低下したことより、全体的な入寮希望が増加したことが確認できる。一方で、お茶大 SCC と小石川寮はそれぞれ 3.9%、0.5%低下している。



図表 4-2 本学の学生寮への入寮希望

＜学生寮入寮希望と属性などの項目とのクロス表＞

次に、どのような保護者が学生寮への入寮を希望しているか明らかにするために「入寮希望」のクロス表を作成した。それぞれ結果を図表 4-3～4-10 に示す。

図表 4-3 では「家計支持者」と「入寮希望」のクロス表である。家計支持者が「その他」である場合、すなわち、入学者の両親や入学者本人でない場合に、保護者の入寮希望は最も高く、有意な関連が見られた。また、家計支持者が父親よりは入学者である場合、入学者よりは母親である場合に、保護者が学生寮を希望する割合が高い。

図表 4-3 家計支持者と入寮希望 のクロス表

			入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
家計支持者	父親	度数	153	222	375
		%	22.2%	77.8%	100.0%
	母親	度数	18	27	45
		%	40.0%	60.0%	100.0%
	入学者	度数	2	4	6
		%	33.3%	66.7%	100.0%
	その他	度数	11	1	12
		%	91.7%	8.3%	100.0%
合計		度数	184	254	438
		%	42.0%	58.0%	100.0%

** 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 4-4 では「父親の就労形態」と「入寮希望」のクロス表である。父親の就労形態が「フルタイム勤務」よりも、「パートタイム勤務」、「自営」などの場合には学生寮を希望する割合がやや高い傾向が見られた。ただし、「父親の就労形態」と「入寮希望」には昨年度同様有意な関連は見られなかった。

図表 4-4 父親の就労形態と入寮希望 のクロス表

			保護者の入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
父親の就労形態	フルタイム勤務	度数	148	216	364
		%	40.7%	59.3%	100.0%
	パートタイム勤務	度数	1	0	1
		%	100.0%	0.0%	100.0%
	自営業	度数	8	18	26
		%	30.8%	69.2%	100.0%
	無職	度数	3	3	6
		%	50.0%	50.0%	100.0%
	いない	度数	11	15	26
		%	42.3%	57.7%	100.0%
合計		度数	171	252	423
		%	40.4%	59.6%	100.0%

n.s.

注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表4-5は「母親の就労形態」と「入寮希望」のクロス表である。母親の就労形態は「フルタイム勤務」、「パートタイム勤務」、「自営業」などそれぞれであるが、学生寮を希望する割合には大きな差がみられず、「母親の就労形態」と「入寮希望」との間にも有意な関連は昨年度同様見られなかった。

図表 4-5 母親の就労形態と入寮希望 のクロス表

			保護者の入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
母親の就労形態	フルタイム勤務	度数	58	83	141
		%	41.1%	58.9%	100.0%
	パートタイム勤務	度数	68	95	163
		%	41.7%	58.3%	100.0%
	自営業	度数	9	14	23
		%	39.1%	60.9%	100.0%
	無職	度数	34	59	93
		%	36.6%	63.4%	100.0%
	いない	度数	2	2	4
		%	50.0%	50.0%	100.0%
合計		度数	171	253	424
		%	40.3%	59.7%	100.0%

n.s.

注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 4-6 は「入学後の暮らし向き」と「入寮希望」のクロス表である。入学後の暮らし向きについて「ゆとりがない」と回答している場合、学生寮を希望する割合が高く、有意な関連が見られた。

図表 4-6 入学後の暮らし向きと入寮希望 のクロス表

			保護者の入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
入学後の暮らし向き	ゆとりがない	度数	122	104	226
		%	54.0%	46.0%	100.0%
	ゆとりがある	度数	49	146	195
		%	25.1%	74.9%	100.0%
合計		度数	171	250	421
		%	40.6%	59.4%	100.0%

注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 4-7 は「世帯年収」と「入寮希望」のクロス表である。質問票では、世帯年収に対して、400 万円未満から 1800 万円以上までを回答項目としていたが、「1200 万円以上」の回答数が少ないため「1200 万円以上 1400 万円未満」「1400 万円以上 1600 万円未満」「1600 万円以上 1800 万円未満」「1800 万円以上」は合算してクロス表を作成した。

もっとも入寮希望率が高かったのは「400 万円以上 600 万円未満」の世帯年収のもので 52.2%であり、ついで「400 万円未満」の 48.4%であったが、有意な関連は見られなかった。

図表 4-7 世帯年収と入寮希望 のクロス表

			保護者の入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
世帯年収	400万円未満	度数	15	16	31
		%	48.4%	51.6%	100.0%
	400万円以上600万円未満	度数	12	11	23
		%	52.2%	47.8%	100.0%
	600万円以上800万円未満	度数	31	37	68
		%	45.6%	54.4%	100.0%
	800万円以上1000万円未満	度数	34	45	79
		%	43.0%	57.0%	100.0%
	1000万円以上1200万円未満	度数	27	55	82
		%	32.9%	67.1%	100.0%
	1200万円以上	度数	51	85	136
		%	37.5%	62.5%	100.0%
合計		度数	170	249	419
		%	40.6%	59.4%	100.0%

n.s.

注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 4-8 は「家計支持者の年収」と「保護者の入寮希望」のクロス表である。質問票では、家計支持者の年収に対して、400 万円未満から 1800 万円以上までを回答項目としていたが、「1200 万円以上」の回答数が少ないため「1200 万円以上 1400 万円未満」「1400 万円以上 1600 万円未満」「1600 万円以上 1800 万円未満」「1800 万円以上」は合算してクロス表を作成した。

家計支持者の年収が 400 万円から 1200 万円未満の場合、家計支持者の年収が高くなるほど、学生寮を希望する割合が低くなる傾向である。また、昨年度は家計支持者の年収と入寮希望との間に有意な関連が見られたが、今年度は有意な関連が見られなかった。

図表 4-8 家計支持者年収と入寮希望 のクロス表

			保護者の入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
家計支持者年収	400万円未満	度数	20	24	44
		%	45.5%	54.5%	100.0%
	400万円以上600万円未満	度数	21	22	43
		%	48.8%	51.2%	100.0%
	600万円以上800万円未満	度数	39	47	86
		%	45.3%	54.7%	100.0%
	800万円以上1000万円未満	度数	40	57	97
		%	41.2%	58.8%	100.0%
	1000万円以上1200万円未満	度数	22	53	75
		%	29.3%	70.7%	100.0%
	1200万円以上	度数	28	48	76
		%	36.8%	63.2%	100.0%
合計		度数	170	251	421
		%	40.4%	59.6%	100.0%

n.s. 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表4-9は「学生の奨学金受給経験」と「保護者の入寮の希望」のクロス表である。今年度の調査でも昨年度同様に、奨学金の受給経験がある場合、学生寮を希望する割合が高い結果を示したが、さほど大きな差とは言えない。また、両者の間に有意な関連は見られなかった。

図表 4-9 奨学金受給経験と入寮希望 のクロス表

			保護者の入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
学生の奨学金受給経験	経験なし	度数	159	225	384
		%	41.4%	58.6%	100.0%
	経験あり	度数	25	29	54
		%	46.3%	53.7%	100.0%
合計		度数	184	254	438
		%	42.0%	58.0%	100.0%

n.s. 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 4-10 は「保護者の学生寮認知」と「保護者の入寮希望」のクロス表である。学生寮について認知している場合には、学生寮を希望する割合が高く、昨年度同様に有意な関連がみられた。

図表 4-10 学生寮認知と入寮希望 のクロス表

			保護者の入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
保護者の学生寮の認知	知っている	度数	180	131	311
		%	57.9%	42.1%	100.0%
	知らない	度数	4	123	127
		%	3.1%	96.9%	100.0%
合計		度数	184	254	438
		%	42.0%	58.0%	100.0%

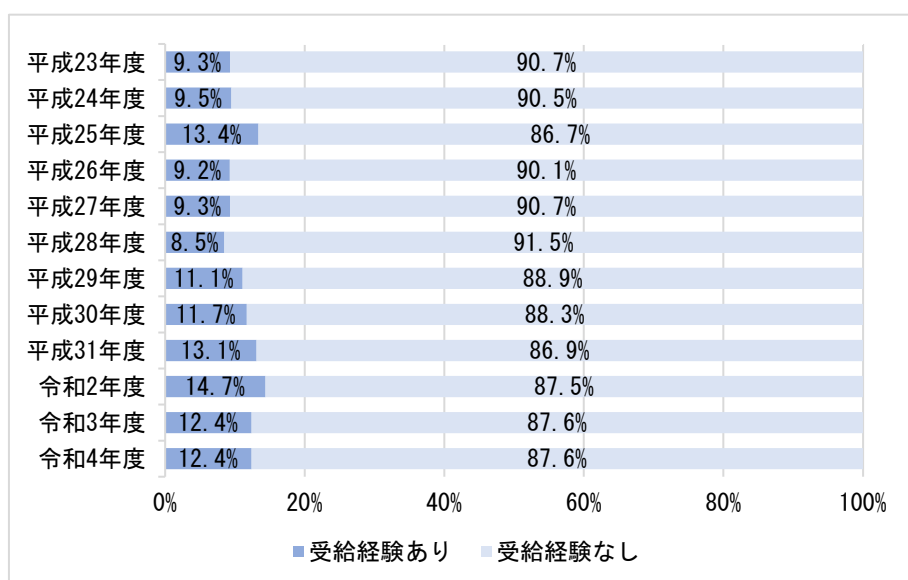
*** 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

(4) 奨学金と学生寮について、過年度との比較

① 新入生

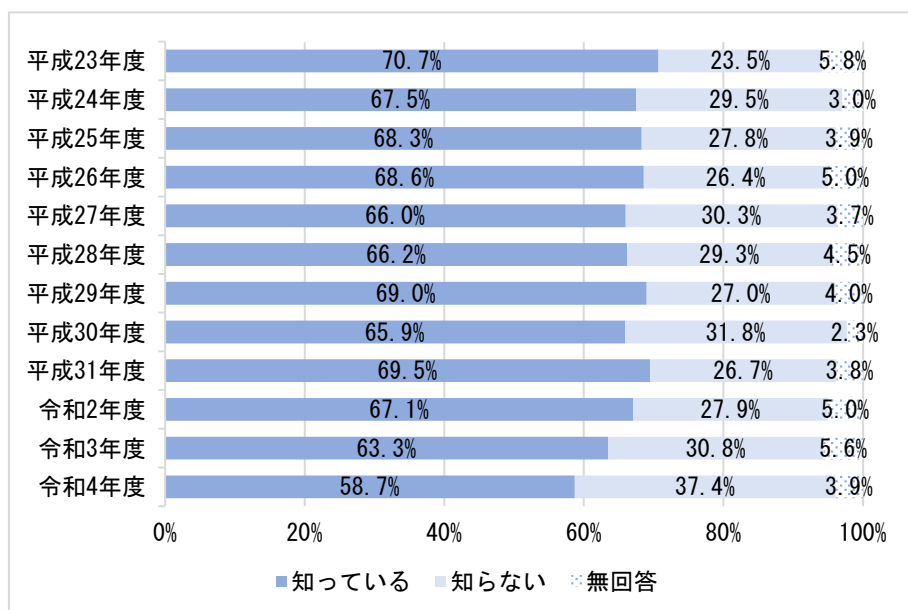
新入生の奨学金等制度受給経験、奨学金等制度の認知、学生寮の認知について過去 11 年間の結果と今年度の結果とを比較したものを図表 5-1～5-3 に示す。

図表 5-1 は新入生のこれまでの奨学金等制度の受給経験について過去 11 年間の結果と比較したものである。今年度は、奨学金受給経験が「ある」と回答した割合が 12.4%であり、昨年度と同じで、全 12 年間の結果の中で 4 番目に高い割合である。



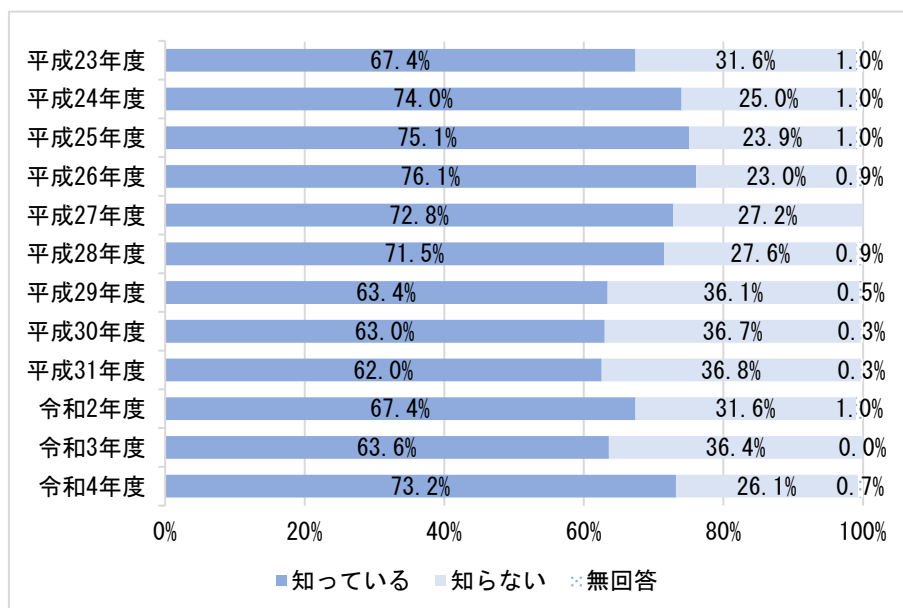
図表 5-1 新入生の奨学金等制度受給経験 過年度比較

図表 5-2 は新入生の奨学金等制度の認知について過去 11 年間の結果と比較したものである。今年度の調査において、奨学金等制度について認知している割合は、「知っている」が 58.7%であり、全 12 年間の結果において、最も低い割合を示している。



図表 5-2 新入生の奨学金等制度の認知 過年度比較

図表 5-3 は新入生の学生寮の認知について、過去 11 年間の結果と比較したものである。新入生の学生寮認知率は、平成 29 年度より低下していたが、6 年ぶりに 70% 台に上昇した。

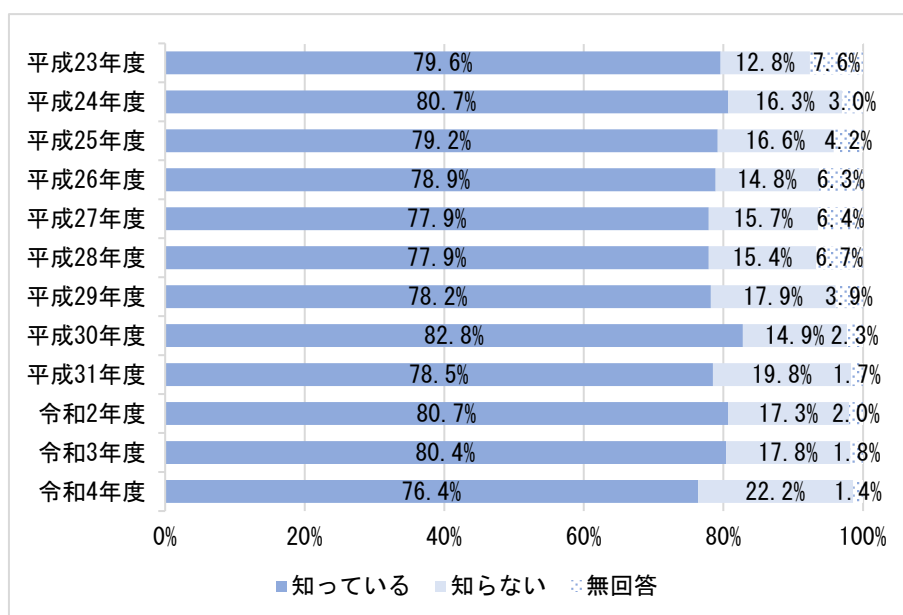


図表 5-3 新入生の学生寮の認知 過年度比較

② 保護者

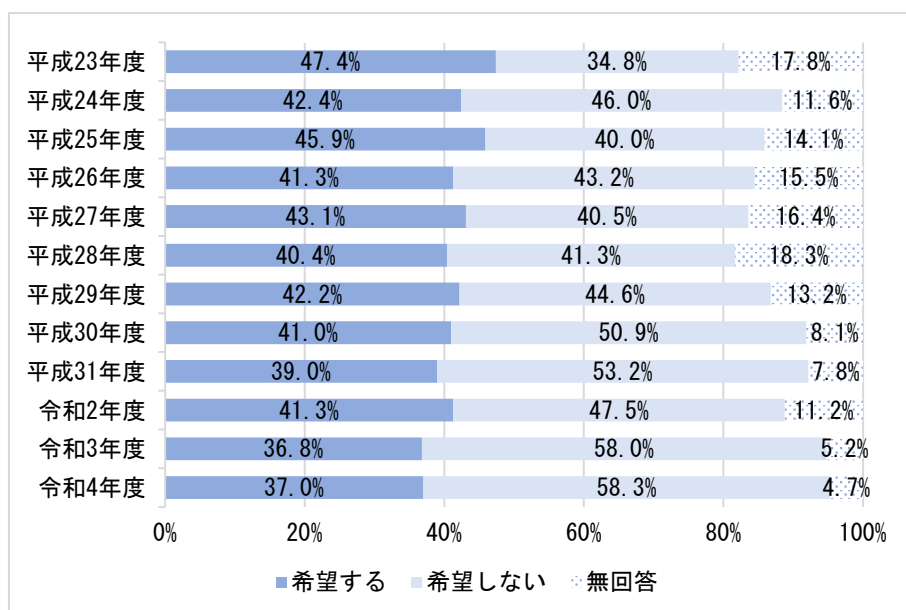
保護者の奨学金等制度の認知・希望、学生寮の認知・希望について過去 11 年間の結果と比較したものを図表 6-1～6-4 に示す。

図表 6-1 は保護者の奨学金等制度の認知について過去 11 年間の結果と比較したものである。今年度の調査においては、「知っている」が 76.4%であり、大きな変動とはいえないが、全 12 年間の結果においては、最も低い割合を示している。



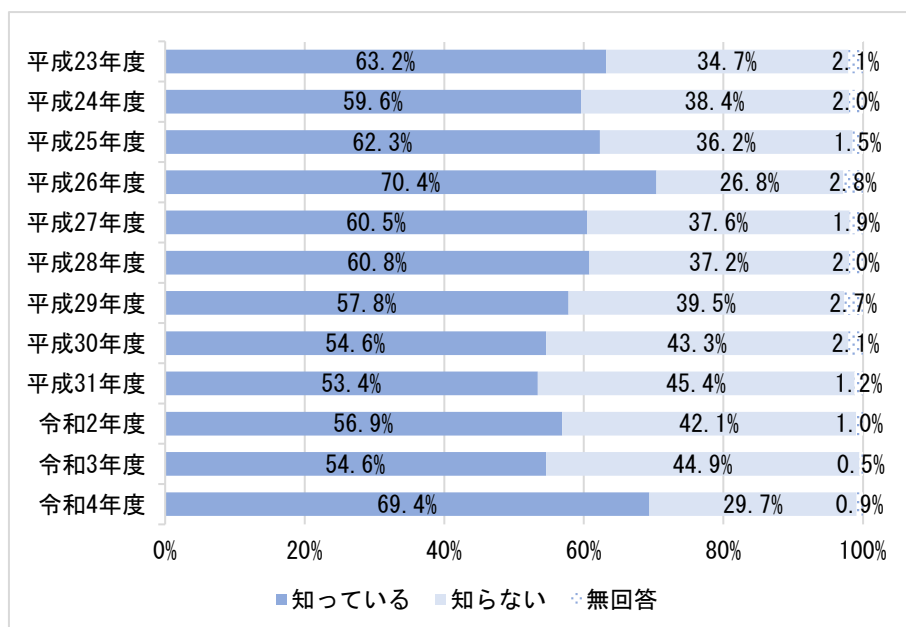
図表 6-1 保護者の奨学金等制度の認知 過年度比較

図表 6-2 は保護者の奨学金等制度の利用希望について過去 11 年間の結果と比較したものである。今年度は、「奨学金を希望しない」と回答した割合が 58.3%であり、過去の調査と比べて最も高い結果となった。奨学金の希望率は過去の調査の中で最も低い比率を示した昨年度の比率より僅かに上昇している。



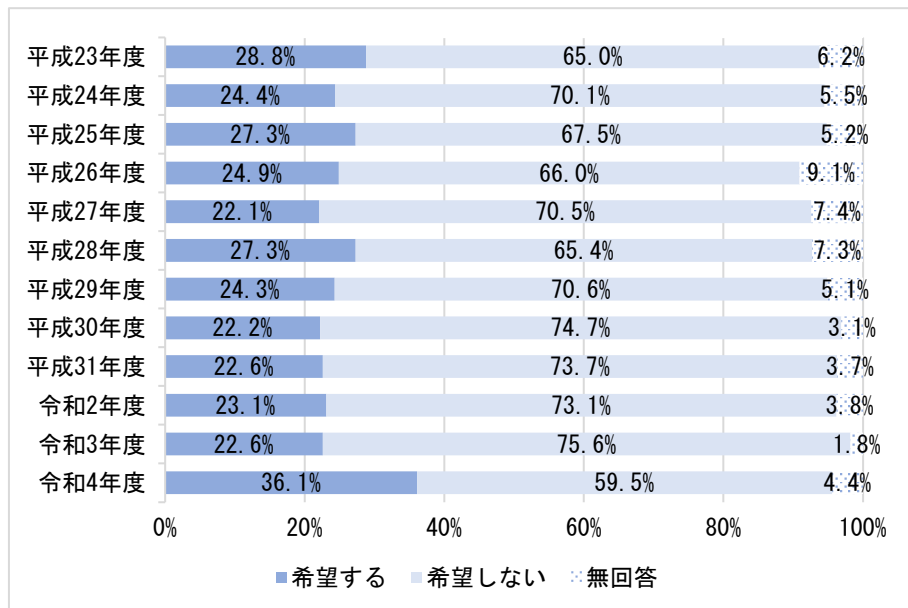
図表 6-2 保護者の奨学金等制度利用希望 過年度比較

図表 6-3 は保護者の学生寮の認知について過去 11 年間の結果と比較したものである。今年度の認知率は昨年度の 54.6%から 69.4%と急増し、全 12 年間で二番目に高い割合を示した。



図表 6-3 保護者の学生寮の認知 過年度比較

図表 6-4 は保護者の学生寮希望について過去 11 年間の結果と比較したものである。今年度は、学生寮への入寮を「希望する」と回答した割合が 36.1%で、過去最高を記録した。



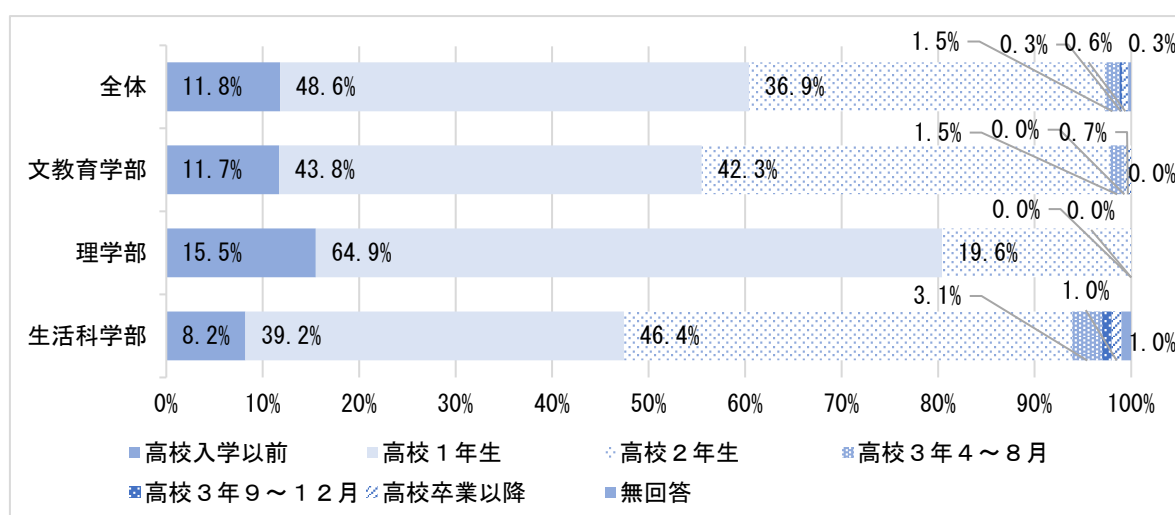
図表 6-4 保護者の学生寮利用希望 過年度比較

第4章 高校時代進路選択の分析結果

本章では、一般入試合格者411名（内、回答者331名）にこれまでの進路選択にかかわる質問や、高校時代の進路指導、お茶の水女子大学を選んだ理由等について尋ねた結果を報告する。

図表1-1は、高校時代にコース（文系・理系）を決めた時期について尋ねたものである。全体では「高校1年生」に文理のコース選択をしたと回答した割合が48.6%と最も多い割合を示しており、次いで「高校2年生」が36.9%、「高校入学以前」が11.8%と続く。全体の97%以上が、高校3年生になる前に文理の選択を終了している。

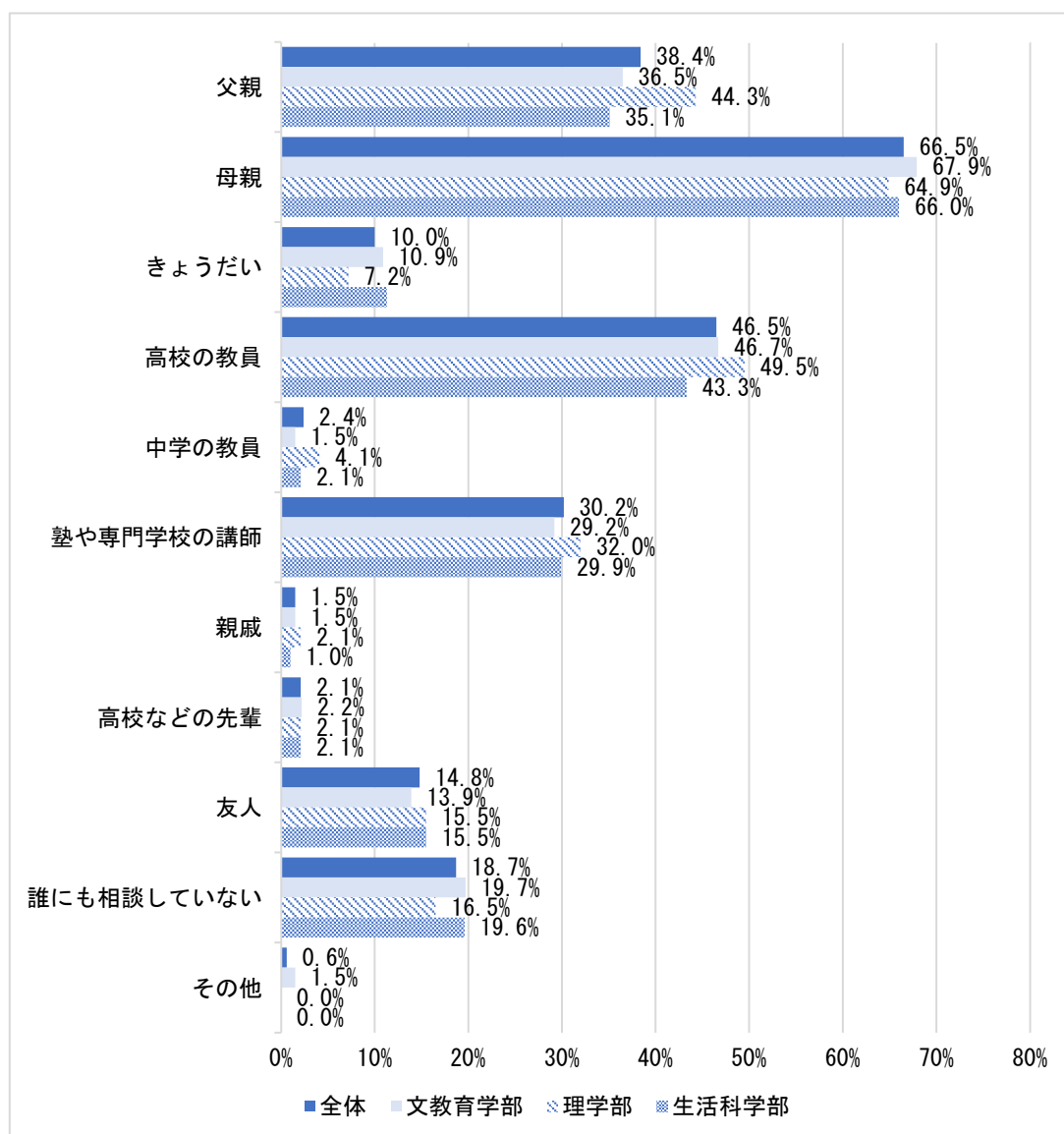
学部別に見ると、高校入学前に進路選択が行われている割合が最も高いのは、理学部で15.5%、次に文教育学部11.7%であった。昨年度の調査結果と比べて見ると、どの学部においても高校入学以前に進路選択を行った割合が低下している。文教育学部と生活科学部は高校1年生の時期に進路選択を行った割合も低下し、高校2年生の時期に進路選択を行った割合が増加した。それに対し、理学部は高校1年生の時期に進路選択を行った割合が昨年度より13%増加し、高校2年生で進路選択を行った割合が低下した。



図表1-1 文理選択の時期

図表1-2では、専門（学科）を選ぶ際に、相談した人について、複数回答可として尋ねた結果である。全体で最も多い割合を示しているのは、「母親」の66.5%であり、次に「高校の教員」46.5%、「父親」38.4%であった。「誰にも相談していない」と回答した割合も18.7%と一定数あることが示された。

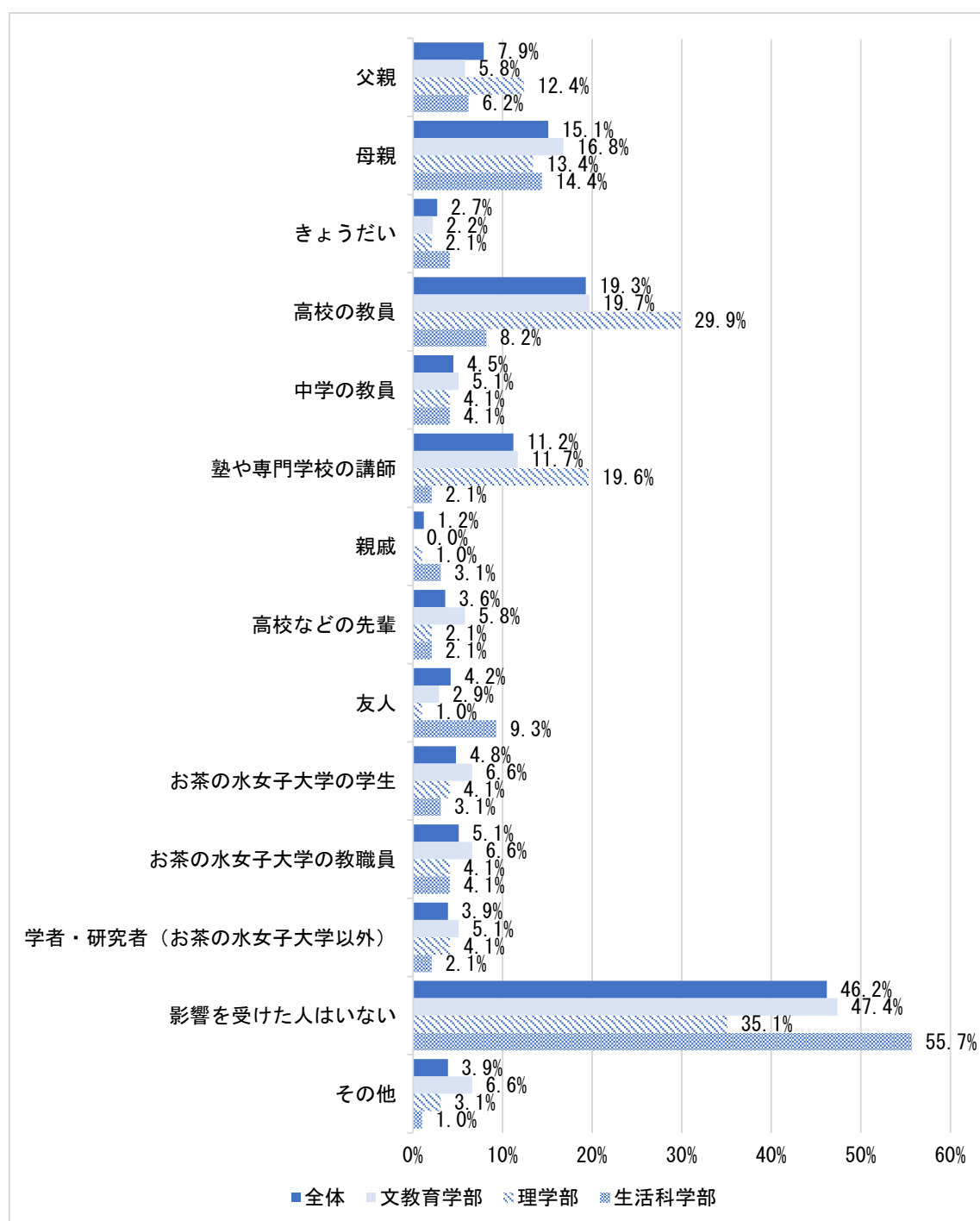
学部別に見ても、どの学部においても、相談した人の最も高い割合を示したのは「母親」であり、次いで「高校の教員」、「父親」という結果であった。



図表 1-2 専門（学科）を選ぶ際に相談した人

図表 1-3 では、専門（学科）を選ぶに当たって影響を受けた人について、複数回答可として尋ねた結果である。最も多いものは「影響を受けた人はいない」で 46.2%であった。影響を受けた人がいると回答した中では全体では「高校の教員」が最も多く 19.3%、次に「母親」が 15.1%、「塾や専門学校の講師」が 11.2%であった。平成 30 年度から令和 3 年度までは割合が多い順に「高校の教員」、「母親」、「父親」であったが、今年度は「塾や専門学校の講師」が 3 番目になり、「父親」が 4 番目になった。

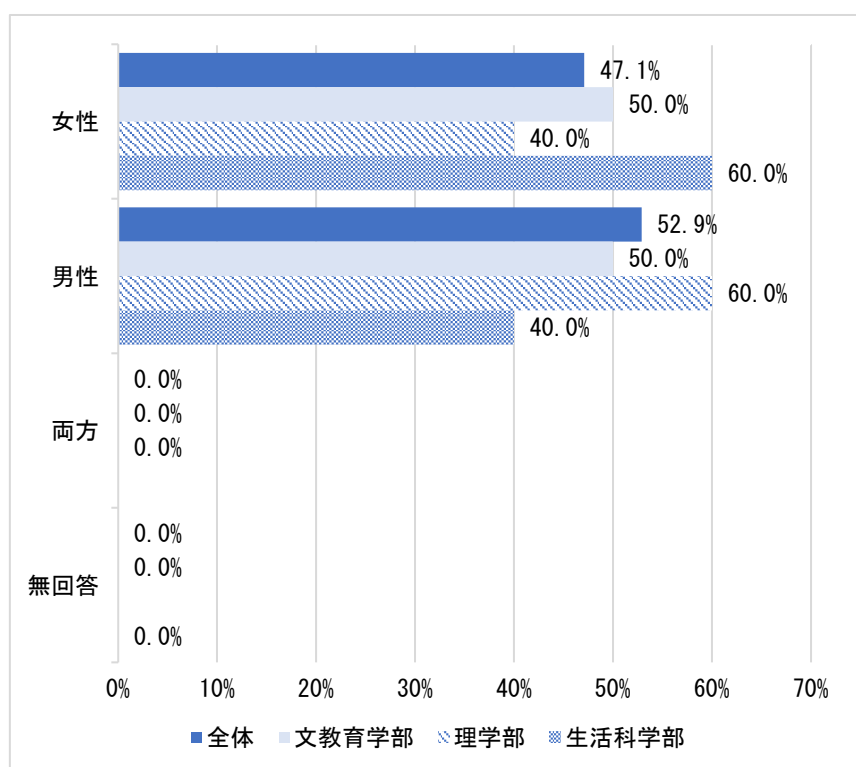
学部別にみると、文教育学部及び理学部では、最も影響を受けたのは「高校の教員」であり、生活科学部の場合は「母親」である。



図表 1-3 専門（学科）を選ぶ際に影響を受けた人

図表 1-4～1-7 では、専門（学科）を選ぶにあたって、「中学の教員」もしくは「高校の教員」から影響を受けたと回答した新入生 70 名に、その教員について尋ねた結果である。図表 1-4 では影響を受けた教員の性別、図表 1-5 では教員の専門科目、図表 1-6、1-7 では教員の卒業大学について尋ねた結果を示している。

昨年度はどの学部においても女性教員より男性教員から影響を受けたと回答する割合が高かったが、今年度は女性教員から影響を受けたと回答した割合が全体的に約 15% 上昇し、47.1% になっている。学部別に見ると、文教育学部は各 50% で、理学部は男性教員から影響を受けた割合が 60% に対し、生活科学部は女性教員から影響を受けた割合が 60% である。



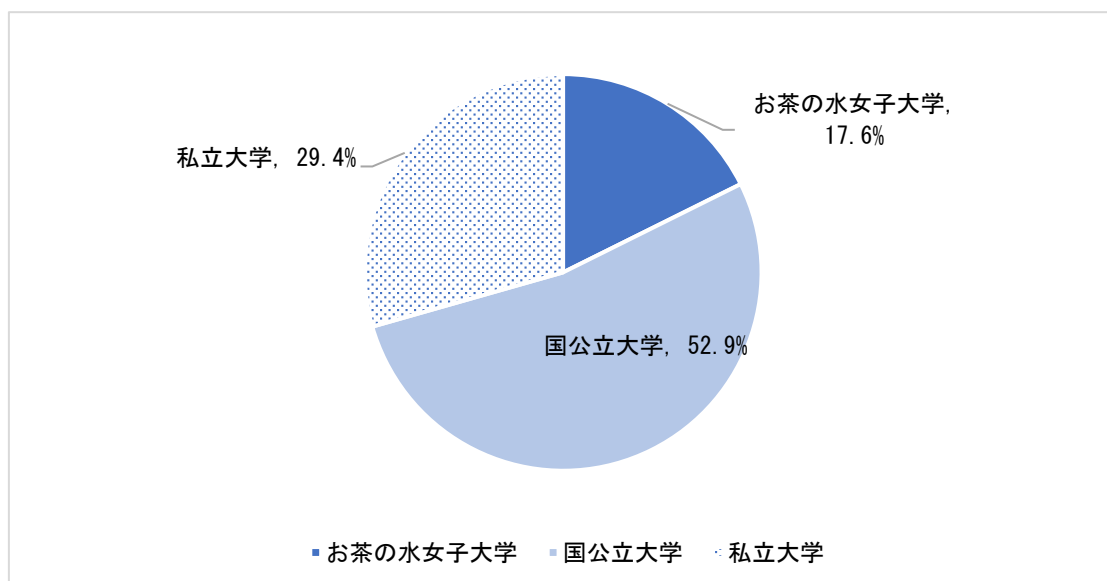
図表 1-4 影響を受けた教員（中学/高校）の性別

図表 1-5 では、影響を受けた教員の専門科目が、自身の入学学科と深くかかわりを持つものである場合が多いことが示された。これは、昨年度の新入生調査でも同じ結果であった。

図表 1-5 影響を受けた教員（中学/高校）の専門

入学学部	入学学科	影響を受けた先生の専門
文教育学部	人文科学科	世界史(2)、英語(1)、倫理(1)、地理(1)、日本文学(1)
	言語文化学科	国語(6)、英語(4)、日本文学(1)、世界史(1)、フランス語(1)
	人間社会科学科	教育学(2)、社会学(1)、数学(1)、国語(1)、理科(1)
	芸術・表現行動学科	音楽(3)、国語(1)
理学部	数学科	数学(3)、日本史(1)
	物理学科	物理(5)
	化学科	化学(2)、有機化学(1)
	生物学科	生物(12)
	情報科学科	数学(2)、機械(1)
生活科学部	食物栄養学科	数学(1)
	人間・環境科学科	
	人間生活学科	政治経済(1)、社会学(1)、地理公民(1)
	心理学科	英語(2)、倫理(1)、災害(1)、国語(1)

図表 1-6 では、影響を受けた教員の卒業大学について回答のあった 34 名の結果を、お茶の水女子大学、その他の国公立大学、私立大学の割合を示したものである。また、図表 1-7 ではその卒業大学名を一覧で示している。影響を受けた教員の卒業大学について回答があったうち、17.6%がお茶の水女子大学を卒業した教員であることが示され、昨年度の 16.7%からやや上昇している。

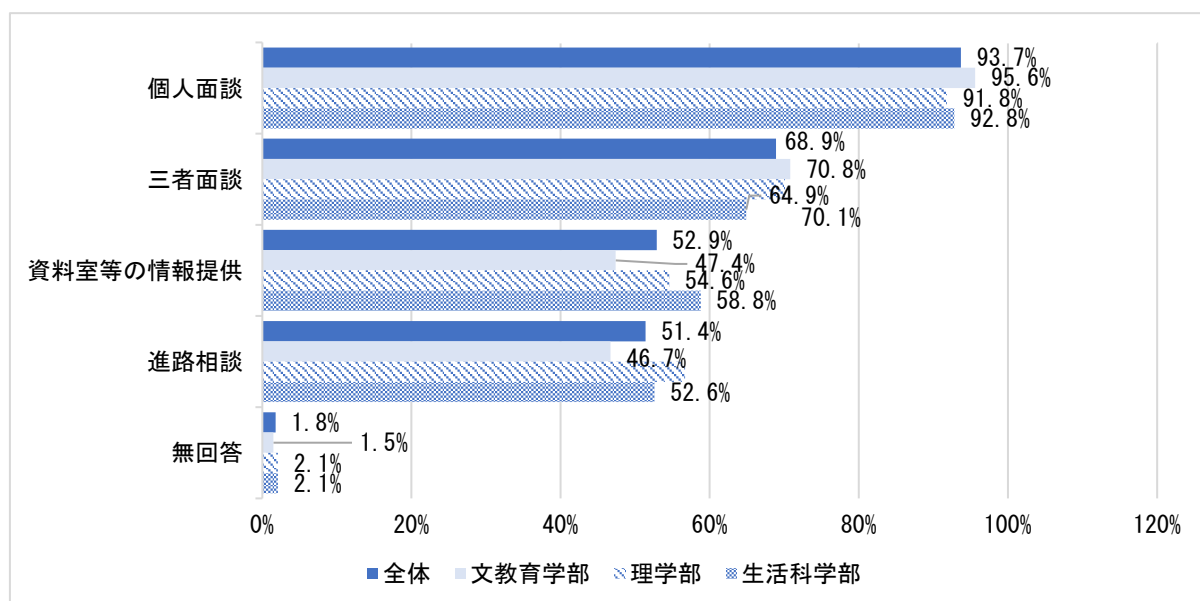


図表 1-6 影響を受けた教員（中学/高校）の卒業大学

図表 1-7 影響を受けた教員（中学/高校）の卒業大学名一覧

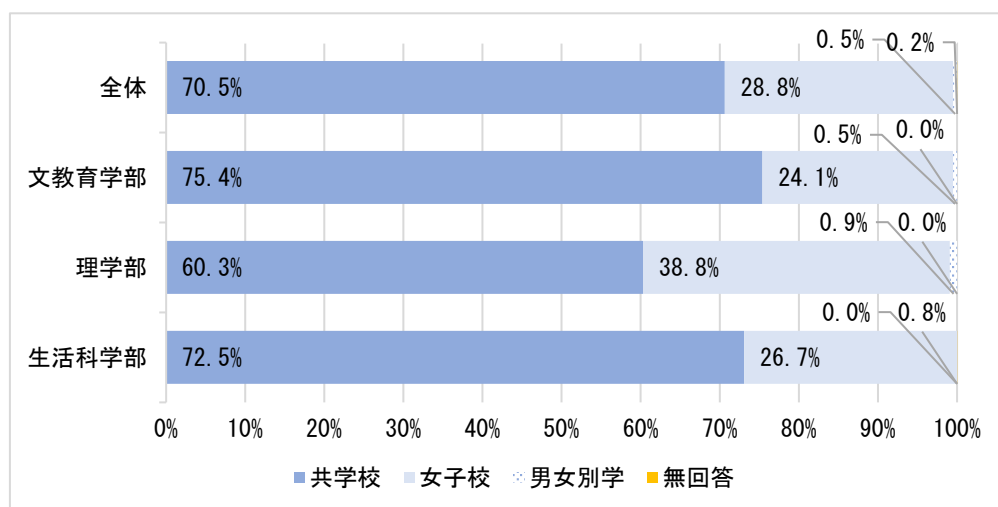
国公立大学	お茶の水女子大学(6)、東京大学(2)、名古屋大学(2)、東京外国語大学(2)、東京学芸大学(2)、横浜市立大学(1)、京都大学(1)、京都教育大学(1)、金沢大学(1)、群馬大学(1)、広島大学(1)、山形大学(1)、神戸大学(1)、東京都立大学(1)、東北大学(1)
私立大学	早稲田大学(4)、上智大学(2)、東京理科大学(2)、フェリス学院大学(1)、慶応義塾大学(1)

図表 1-8 では、高等学校で受けた進路指導がどのようなものだったかについて、「個人面談」、「三者面談」、「資料室等の情報提供」、「進路相談」の4つから複数回答可として尋ねた結果である。全体で最も高い割合を示していたものは「個人面談」で93.7%であり、「三者面談」が第二位を占めている。文教育学部と生活科学部は第三位が「資料室などの情報提供」であるのに対し、理学部の場合第三位は「進路相談」になっている。



図表 1-8 高等学校で受けた進路指導

図表 1-9 では、出身高等学校について尋ねた結果である。全体では高等学校が「共学校」であると回答した割合が 70.5%、「女子校」として回答した割合は 28.8%であった。学部別にみると、理学部では、「共学校」と回答した割合が他 2 学部と比べて低い結果であった。



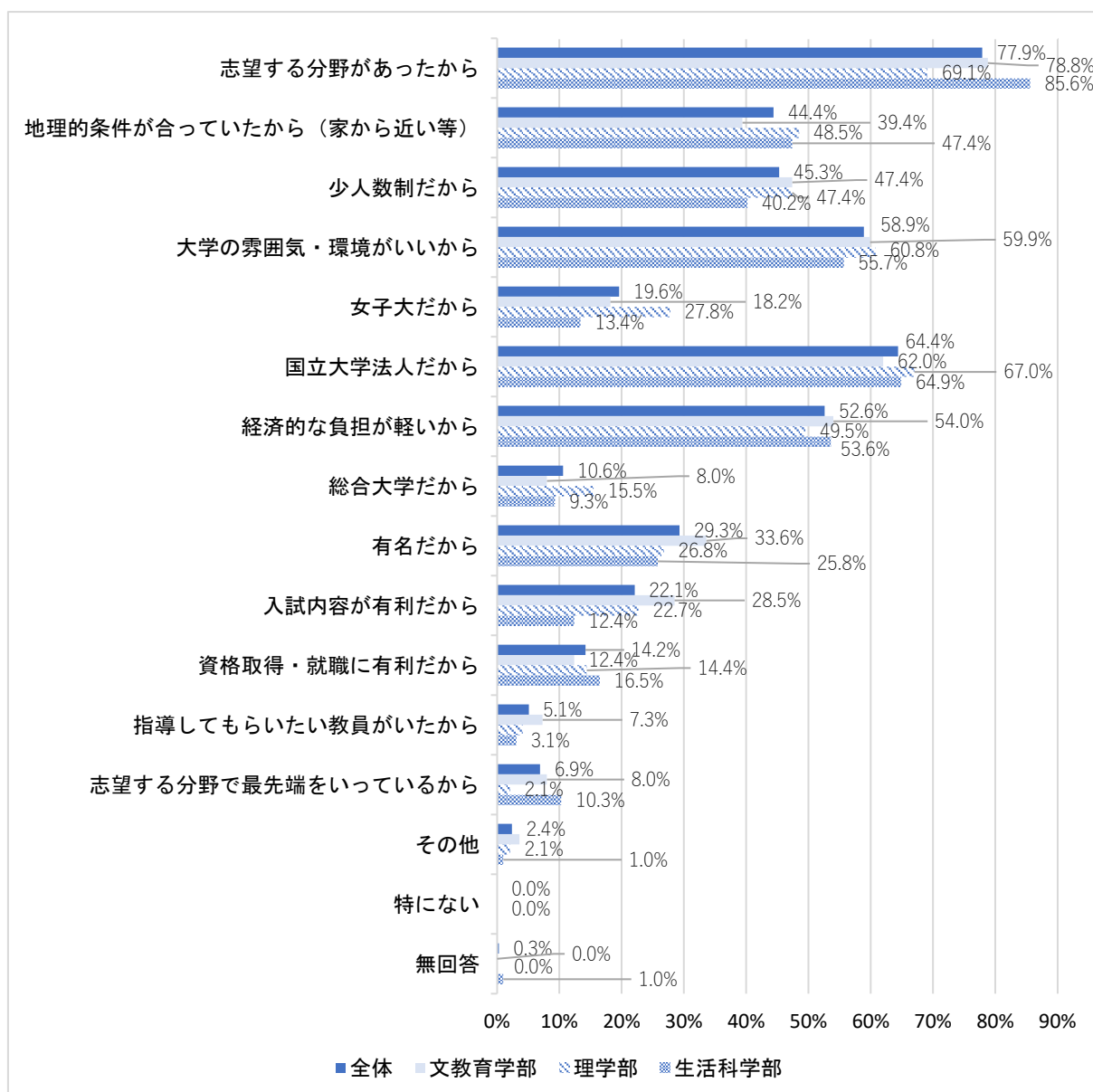
図表 1-9 出身高等学校について（共学/女子校/男女別学）

図表 1-10 では、お茶の水女子大学を選んだ理由について、自分の学力や入試の難易度以外に重視したものを複数回答で尋ねた結果である。

全体で最も高い割合を示しているのは、「志望する分野があったから」で 77.9%であり、昨年度の結果と同様に高い水準を維持しているが、昨年度の 84.1%よりはやや低下している。次に「国立大学法人だから」64.4%（昨年度 71.3%）、「大学の雰囲気・環境がいいから」58.9%（昨年度 68.6%）が続く。学部別にみると、文教育学部・理学部・生活科学部で最も高い割合を示しているのは「志望する分野があったから」で同じである。

一方で、「地理的条件が合っているから（家から近い等）」は 44.4%で全体的に昨年度の 38.8%からある程度上昇した。学部別に見ると、実は理学部は昨年度の 55.3%から 48.5%へと低下したが、文教育学部と生活科学部が上昇し、特に生活科学部は昨年度の 26.1%から 47.4%まで 21.3%も増加している。

全体で最も大きく上昇したのは「経済的な負担が軽いから」である。こちらは学部に関わらず、それぞれ 10%程度上昇し、全体としては昨年度の 40.9%から 52.6%に増加した。



図表 1-10 お茶の水女子大学を選んだ理由（自分の学力や入試難易度以外）

第5章 考察および今後の課題

(1) 令和4年度新入生とその保護者に関する考察

第1章、第2章、第4章に示した令和4年度新入生調査結果を踏まえ、令和4年度新入生に関する考察を行う。

① 本学の受験を決めた時期と「【受験時には】お茶大を第一志望」であることの関連

令和4年度新入生の87.4%が「受験時にはお茶大を第一志望」として入学している。「受験時にはお茶大を第一志望としていたか」に対して「はい」と回答した割合が85%を下回ったのは、平成23(2011)年度に本調査が開始されて以降、平成25(2013)年度の83.6%のみであり、調査を通じた平均値は87.1%と高い値で推移している。電通育英会(2019)では所属大学を「第一志望」と回答している割合が50%程度であるため、本学が第一志望であった新入生の割合は比較的高い水準にあると考えられる。

しかし、留意が必要な点が2点ある。1点目は「【受験時には】お茶大を第一志望」に「はい」と回答した割合の回答者属性による差異である。学部によって多少の差があることは本文(9ページ)で指摘したが、学科ではさらにばらつきがある。もう1点は、受験決定時期(図表3-2)と第一志望の関連についてである。高校2年生の終わりまで(高校入学前、高校1年生、高校2年生のいずれか)に本学の受験を決めたと回答した割合は、43.8%と5割に満たない。東進(2021)では難関23校合格者の4分の3が高校2年生の終わりまでに受験校を決定している指摘しており、高校2年生の12月をめどに志望校を決めることを推奨する受験情報サイトも見受けられる。これらと比較すると本学を受験することを決めた時期の傾向は、第一希望と考えて対策する時期としては遅いとも考えられる。さらに第1章(3)(8ページ)で指摘している通り、受験決定時期が比較的遅いこと、浪人生が多いことを踏まえると、理学部の学生は他学部よりも共通テストの結果などによって当初の志望校の変更がなされた結果、第一志望となったという可能性もある。この第一志望であったかどうかの差は、他学部の学生に比べて「大学になじめるか」といった不安を感じている割合が多いこととも関連している可能性がある。

② 大学院進学希望者の期待と不安

「大学に入学後、特にこの1年で頑張ろうと思う活動」について「大学の授業」と回答した学生が98.9%であり、入学時点での高い学習意欲が例年通り確認できた。また、理学部、生活科学部人間・環境科学学科および心理学科では、調査時点すなわち入学時から大学院進学を考えている学生の割合が8割に上る。この点も学習意欲や学習に対する期待の高さを示していると言えよう。

新入生全体に占める大学院進学希望者は昨年度45.6%であったのが本年度は47.5%とわずかなではあるが増加しており、大学院進学希望者の心配事、期待を把握する必要がある。大学院進学希望者は希望しない者に比べて、授業についていけるか、卒業できるかといった心配はあまりしていないものの、進路相談や学習支援に期待する割合が多い傾向が見られた。また、金銭面で負担がかかることを心配している割合も大学院進学を希望しない者に比べると多い傾向が

見られた。

③ 将来目標の曖昧さと卒業後に対する不安

大学卒業後の進路希望については、全体では「民間企業に就職する」51.1%、「大学院などに進学する（海外含む）」47.5%、「公務員」25.9%、「教師など専門職」20.0%であり、割合は例年と同様である。こういった希望があるものの、「卒業後ちゃんと就職できるか」について不安を感じている新入生も68.1%と7割近く、「将来の目標が見つかるか」について不安を感じている割合が50.7%と半数程度存在している。大学卒業後の進路希望（図表 5-1）において、「決めていない」と回答する割合が2割程度存在することも明らかになっている。この卒業後の進路を決めていない者の割合は近年増加傾向であり、今後も注視していく必要がある。

また、図表 4-9 に示した大学生活での不安・心配事において「将来の目標が見つかるか」という項目について詳細に見てみると、大きく4つのケースに分かれると考えられる。具体的には「将来の目標が見つかるか心配だが、民間企業に就職することは希望している」というケース、「将来の目標が見つかるか心配だが、大学院に進学することは希望している」ケース、「将来の目標がなく心配で進路も決めていない」ケース、「将来の目標が見つかるかは心配していない」ケースである。

(2) 奨学金と学生寮に関する考察

第3章で述べた学生支援における奨学金・学生寮の結果についてまとめ、考察する。

① 奨学金

まず、奨学金を期待する新入生像、保護者像をまとめる。第一に、新入生では、「奨学金の受給経験がある者」、「入学後に予定している住居が実家以外（賃貸マンション・アパート、学生寮）の者」、「学生寮について認知している者」には、奨学金等制度を認知している割合が高く、有意な関連が見られた。第二に、保護者では、「家計支持者が母親である者や、父・母・入学予定者本人のいずれでもない者」、「父親が『無職』や『いない』者、あるいはパートタイム勤務の者」、「入学後の暮らし向きにゆとりがないと感じている者」、「世帯年収が800万円未満の者」、「家計支持者の年収が600万円未満の者」、「奨学金受給経験がある者」、「学生寮を知っている者」、「学生寮を希望している者」に、奨学金を希望する割合が高く、有意な関連が見られた。

次に、新入生の奨学金等制度の認知について2点ほど課題をまとめる。第一に、全体では58.7%の新入生が奨学金等制度について認知しており、全12年間の結果において最も低い割合を示している。第二に、本学独自の奨学金である「みがかずば奨学金」の認知度は31.4%であり、昨年度に比べ12.4%低下している。

最後に、保護者票の奨学金制度の認知と利用希望についてまとめる。第一に、奨学金全体に対し、保護者による認知度と利用希望度が低下している。それらを裏付ける一つは、今年度「奨学金を希望しない」と回答した割合は58.3%であり、全12年間の結果において最も高い割合を示している。もう一つは、例年通り家計支持者の年収が低いほど奨学金を希望する割合が希望しない割合より高いが、平成29年度からの分水嶺が800万円だったのに対し、今年度は600万円

に低下した。第二に、本学独自の奨学金である「みがかずば奨学金」の認知度は低下しているが、平成30年から減少していた利用希望率は4年ぶりに全種類の奨学金の中で2位に上昇しているというギャップがある。第三に、奨学金全体に対する保護者の認知度と利用希望度が下がっている中、本学と関係のある一部の奨学金は認知度や利用希望が上昇している。具体的には、「桜蔭会奨学金（3年生向け）」、「入学料や授業料の免除制度」、「入学料や授業料の徴収猶予制度」の認知率は昨年度に比べ上昇した。

② 学生寮

まず、学生寮を認知している新入生像と、学生寮を希望する保護者像についてまとめる。新入生では、「入学後の住居が実家以外（賃貸マンション・アパート、寮など）の者」が、学生寮について認知している割合が高く、有意な関連が見られた。保護者では、「家計支持者が入学者の両親や入学者本人でない者」、「入学後の暮らし向きについて『ゆとりがない者』」、「保護者が学生寮について認知している者」の入寮希望が高く、有意な関連が見られた。

次に、新入生による学生寮の認知と入寮希望についてまとめる。第一に、今年度 73.2%の新入生が本学の学生寮について認知しており、平成 29 年度以来の最高値を記録した。その中で、音羽館が 69.7%と認知度が最も高く、次いでお茶大 SCC が 48.2%、小石川寮が 22.2%であった。第二に、音羽館が高い認知度を記録した一方で、お茶大 SCC と小石川寮の認知度と希望率は昨年度に比べともに低下し、今後の課題として挙げられる。

最後に、保護者による学生寮の認知と希望についてまとめる。第一に、保護者の認知度は音羽館の建設に伴い、全体で昨年度の 54.6%から 69.4%へと急増し、全 12 年間で二番目に高い割合を示した。また、学生寮への入寮を「希望する」と回答した割合が 36.1%で、過去最高を記録した。一方で、課題として挙げられるのは、新入生の結果同様、昨年度に比べお茶大 SCC と小石川寮の認知度と入寮希望は共に低下していることである。

(3) 学生・キャリア支援における課題とその対応

令和 4 年度新入生調査および保護者調査を通じて得られた令和 4 年度新入生の課題をまとめたうえで、期待される学生生活支援・キャリア支援について述べる。

令和 4 年度も、これまでと同様に 9 割近くの新入生が本学を第一志望として入学し、学業をがんばろうという気持ちをもっている。しかし、本学の受験を決めた時期は決して早くはないことから、本学が第一志望ではないと回答した 1 割強の学生だけでなく、他学への進学も考慮に入れつつも最終的には本学の受験を決めたという者がいないとは限らない。つまり、本学の本学への理解やエンゲージメントが高い新入生ばかりではないことに留意が必要である。

さらに、本学が第一志望でなかった学生にとってはもちろん、本学を早期から第一志望として準備をしてきた学生であっても、入学当時から本学に適応しているわけではない。実際に 6 割を超える新入生が「大学になじめるか」という心配をしていることから、入学時点から適応している学生は決して多くないことがわかる。大学の授業やクラブ・サークル活動、アルバイトなど入学時点で頑張ろうと思っている活動に取り組むためには、大学の仕組みやルールを

早期に周知し、不安を解消するなど、大学へのスムーズな適応を促す仕組みが求められる。大学への理解度やエンゲージメントのばらつきを考慮しつつ、無理なく適応できるような支援の仕組みを整えていく必要がある。

入学時に頑張ろうと思っている活動に取り組むためには大学生活にスムーズに適応することが必要であることは先に述べたが、経済面、健康面などの基本的な生活に対する不安の軽減はさらに優先して取り組む必要がある。経済的な支援を期待する新入生や保護者の中にも奨学金をはじめとする支援制度を「知らない」と回答しているケースが少なからず存在しており、学生寮や奨学金制度についての周知は十分でない可能性がある。さらに、入学時点で経済的な不安を感じていなくても大学院進学を希望する場合は、金銭面での負担を心配している者がいることが明らかになっている。本学は大学院進学を希望する者が多いことを踏まえると、金銭面での負担や不安を軽減し、学業に取り組めるようにすることが望ましいであろう。このように経済的な支援を必要とする学生だけでなく、経済的な支援によって、頑張ろうと思っている活動に積極的に取り組むことができ、大学生活の質を高められる学生も多い可能性がある。そういった学生が奨学金をはじめとした支援を受けるためには、支援制度の認知を高める必要がある。そのためにも適切かつ継続的に情報を発信していくことが求められている。

「将来の目標が見つかるか」について不安を感じている学生が半数程度存在する。この「将来の目標が見つかるか」についての不安をさらに細かく見ると、特に不安を感じていないが大学卒業後の進路希望について「決めていない」と回答している者、「将来の目標が見つかるか心配」と回答しながらも民間企業に就職することや大学院進学することは決めている者などが存在する。入学時点ではあるものの、将来の目標が曖昧なままとりあえず進学、とりあえず就職と考えている者が一定数存在していると考えられる。

学生・キャリア支援センターでは、公務員、教員、民間企業といった学生のニーズに合わせたキャリア支援を展開しているものの、学生は進路・キャリア希望があるということを前提とした支援だけでは、「将来の目標が見つかるか不安」「就職ができるか不安」といった学生の不安を軽減できていない可能性がある。進路を決めていない、将来の目標が見つかっていないという学生が少なからず存在することを受け止め、キャリア教育とキャリア支援のあり方を工夫・再考していくことが必要である。

付表 1

新入生生活調査

<入学予定者用>

(一般選抜合格者および私費外国人留学生特別選抜合格者)

お茶の水女子大学に入学を予定されているみなさまへ

この度は、お茶の水女子大学に合格おめでとうございます。お茶の水女子大学は、みなさんのご入学を歓迎し、今後の学生生活が実りあるものになるよう祈念しております。

さて、本学では、入学予定者およびその保護者の方にアンケートを実施いたします。これは、入学を予定している方の実情をふまえ、有益な学生支援の検討および実施を行うための資料とすることを目的としています。具体的には、

1. 新入生個々の大学教育や将来への多様なニーズを把握し、適切な学生支援事業を入学時から行うために、新入生個々の情報を得る。
2. 新入生の標準的な学生生活の状況を把握する。
3. 新入生の家庭状況からその経済的基盤を推定することにより、お茶の水女子大学における学生支援事業を改善するための基礎資料とする。
4. 国立大学入学者の学生生活・家庭状況・進路状況などに関する調査研究を行うための基礎資料とする。

上記4点を中心にするものです。

ご回答いただきました内容は、統計的に処理をします。個人としてのご回答が公表されることはありません。また、調査結果は上記の目的以外に使用することはありません。

調査票中、質問項目の左に＊がついている項目は、本学入学後も、新入生個人の情報として、学生支援を行うために利用しますが、回答に含まれる個人情報、お茶の水女子大学個人情報の管理に関する規則及び関係諸規定に基づき、厳格に管理いたします。

なお、アンケートにご協力いただけなかった場合でも、本学教育課程その他に不利益を被ることはありません。また、入学を辞退された方の個人情報は、入学辞退届を受理次第、破棄いたします。

どうかアンケートの趣旨をご理解賜り、ご協力いただけますよう、お願い申し上げます。

本調査の企画・実施に関する情報は以下の通りです。

【実施主体】 国立大学法人 お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター

【問い合わせ先】 新入生生活調査担当 (03-5978-2646)

【個人情報について】

お茶の水女子大学では、個人情報の管理に関する規程および個人情報の公開に関する取扱要項等の規定を定めて、本学が保有する個人情報の適正な管理に努めています。

<http://www.ocha.ac.jp/about/individual.html>

以下のご回答にあたってのご注意をお読みのうえ、ご回答願います。

ご回答にあたってのお願い

- ・お答えは、黒鉛筆または黒ボールペンで、あてはまる回答についている数字を○でかこんでいただく場合と、マスの中に数字を記入する場合があります。「その他」にあてはまる時は、数字を○でかこみ、() 内に具体的な内容を記入して下さい。() 内に書ききれない場合は、欄外にご記入下さい。
- ・質問番号順にお答え下さい。質問の中には、一部の方だけにだけおたずねするものがありますが、その場合は指示に従って下さい。
- ・「⑨⑩=01」や⑪などの記号は、コンピュータで処理するためのものですので、質問やお答えとは関係ありません。
- ・表紙依頼文にも一部記載いたしましたが、アンケートの最後に、ご回答内容の研究調査へのデータ使用および皆様個人への学生支援のためのご回答の管理・登録への許可をお伺いしております。許可いただけない場合は、使用することはありません。
- ・入学辞退をされた方は、入学辞退届を受理次第、調査票そのものを破棄いたします。
- ・アンケートは、大学で付けたID番号で管理をしております。**アンケート用紙には、あなたや保護者の方のお名前、住所などは記載せず**ご回答、ご返送ください。
- ・アンケートの回答及び返送をもって、個人情報の取り扱いに同意いただいたものといたします。回答後に同意を撤回されたい場合は、2022年4月9日までに、お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター新入生生活調査担当（03-5978-2646）へ、お知らせください。
- ・ご回答いただきました調査票は、同封いたしました調査票返送用封筒に入れていただき、**他の入学手続関係書類に同封し、締め切り期日までに返送をお願いいたします。**

それでは、よろしくお願いいたします。

I. まず、あなた自身およびご家族のことについて、お聞きします。

(1) 入学予定の学部学科に○をつけてください。

$$\textcircled{10}=1$$

・文教育学部

1. 人文科学科 2. 言語文化学科 3. 人間社会科学科 4. 芸術・表現行動学科

・理学部

5. 数学科 6. 物理学科 7. 化学科 8. 生物学科 9. 情報科学科

・生活科学部

10. 食物營養學科 11. 人間・環境科學科 12. 人間生活學科 13. 心理學科

(2) 大学入学前にお住まいの都道府県をご記入ください。高等学校卒業程度認定試験合格者は、受験時に住んでいた都道府県をご記入ください。

1. 都道府県（県名）

⑩

(3) あなたのご家族の構成について、同居を問わず、あてはまる方**すべて**に○をつけてください。

1. 父親 3. 兄 5. 弟 7. 祖父 9. 夫 11. 娘

2. 母親 4. 姉 6. 妹 8. 祖母 10. 息子 12. その他 ()

(4) あなたを含む兄弟姉妹の人数をご記入ください。同居を問わずお答えください。

--	--

人

②①

Ⅱ. これまでの進路選択や学生生活について、お聞きします。

(1) あなたの小学校についてお答えください。

① あなたは、小学校に入学するために受験をしましたか。あてはまるもの **1つ** に○をつけてください。

1. 受験をした 2. 受験をしていない 3. 覚えていない ②8

② あなたの小学校の設置者について、あてはまるもの **1つ** に○をつけてください。

転校している場合は、在学期間の最も長いものに○をつけてください。

1. 国立 2. 公立 3. 私立 4. 海外 ②9

(2) あなたの中学校についてお答えください。

① あなたは、中学校に入学するために受験をしましたか。あてはまるもの **1つ** に○をつけてください。

1. 受験をした 2. 受験をしていない 3. 覚えていない ③0

② あなたの中学校の設置者について、あてはまるもの **1つ** に○をつけてください。

転校している場合は、在学期間の最も長いものに○をつけてください。

1. 国立 2. 公立 3. 私立 4. 海外 ③1

(3) あなたの高校についてお答えください。

① あなたは、高校に入学するために受験をしましたか。あてはまるもの **1つ** に○をつけてください。

1. 受験をした 2. 受験をしていない 3. 覚えていない ③2

② あなたの高校について、それぞれあてはまるもの **1つずつ** に○をつけてください。

転校している場合は、在学期間の最も長いものに○をつけてください。

A. 設置者は → 1. 公立 2. 私立 3. 国立 4. 海外 5. 高等学校卒業程度認定試験 ③3

└─ (4) へ

B. 種類は → 1. 3年制 2. 中高一貫校 3. 中等教育学校 ③4

C. 共学かどうか → 1. 共学 2. 女子校 3. 男女別学 ③5

D. 学科は → 1. 普通科（理数科も含む） 2. 総合学科 ③6

3. 専門学科（商業・工業、家庭、農業科など） 4. その他（ ）

(4) あなたが高校時代にコース（文系・理系）を決めた時期について、あてはまるもの **1つ** に○をつけてください。

- | | | |
|-----------|--------------|----|
| 1. 高校入学以前 | 4. 高校3年4～8月 | |
| 2. 高校1年 | 5. 高校3年9～12月 | ③7 |
| 3. 高校2年 | 6. 高校卒業以降 | |

(5) あなたが進路を選ぶに当たって高等学校で受けた進学指導はどのようなものでしたか。
あてはまるもの**すべて**に○をつけてください。

1. 個人面談 2. 三者面談 3. 資料室等の情報提供 4. 進路相談

④⑥

(6) (5) で回答した進学指導に対して、考えた事があれば教えてください。

④⑦

(7) あなたがお茶の水女子大学を選んだ理由に、自分の学力や入試の難易度以外に重視したものはありますか。あてはまるもの**すべて**に○をつけてください。

- | | |
|--------------------------|---------------------------------|
| 1. 志望する分野があったから | 9. 有名だから |
| 2. 地理的条件が合っていたから（家から近い等） | 10. 入試内容が有利だから |
| 3. 少人数制だから | 11. 資格取得・就職に有利だから |
| 4. 大学の雰囲気・環境がいいから | 12. 指導してもらいたい教員がいたから |
| 5. 女子大だから | 13. 志望する分野で最先端をいつているから |
| 6. 国立大学法人だから | 14. その他（ ） |
| 7. 経済的な負担が軽いから | 15. 特にない |
| 8. 総合大学だから | |

④⑧

(8) 本学の受験を決めた時期について、あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。高等学校卒業程度認定試験合格者は、今回の受験前の1年間を高校3年としてお考えください。

- | | | |
|-----------|---------------|-------------|
| 1. 高校入学以前 | 4. 高校3年4～8月 | 7. 高校3年1・2月 |
| 2. 高校1年 | 5. 高校3年9・10月 | 8. 高校卒業以降 |
| 3. 高校2年 | 6. 高校3年11・12月 | |

(9) 受験時には、本学を第一志望としていましたか。

1. はい 2. いいえ

* (10) 高校卒業から現在までの間に経験したこと**すべて**に○をつけてください。

1. 高卒後、他の高等教育機関（高専、専門学校、短大、他の大学など）に入学した
2. 高卒後、フルタイムで働いた
3. 高卒後、浪人した
4. 高卒後、海外留学をした
5. この中にはない

Ⅲ. 大学入学後の学生生活について、お聞きます。

(1) 大学入学後に居住予定の都道府県 **1つ** に○をつけてください。

- | | |
|--------|--------------|
| 1. 東京都 | 4. 神奈川県 |
| 2. 埼玉県 | 5. その他の県 () |
| 3. 千葉県 | |

＊ (2) 大学入学後に予定している住居 **すべて** に○をつけてください。

- | | |
|----------------------------|-------------------|
| 1. 実家 | 4. 大学の寮 (お茶大 SCC) |
| 2. 実家以外の賃貸アパートやマンション | 5. 大学以外の寮 |
| 3. 大学の寮 (キャンパス内の新学生宿舎・音羽館) | 6. その他 () |

(3) 住居を考える際に、新型コロナウイルス (COVID-19) のことを考慮されましたか。

- | | |
|------------|-----------------------|
| 1. はい、考慮した | 2. いいえ、考慮しなかった→ (5) へ |
|------------|-----------------------|

(4) 【(3) で「1. はい、考慮した」と回答した方にお伺いします】

考慮したことの具体的な内容を教えてください。あてはまるもの **すべて** に○をつけてください。

1. 寮に住みたいが、感染が心配なのでやめるつもり
2. シェアハウスに住みたいが、感染が心配なのでやめるつもり
3. 感染対策の面で安心なので、大学の寮に住むつもり
4. 感染予防の視点で、賃貸マンションに住むつもり
5. 実家以外のところに住みたいが、感染が心配なので実家で暮らすつもり
6. その他 ()

(5) 【(2) で「賃貸アパートやマンション」に○をつけた方にお伺いします】

1 か月の家賃 (管理費込み) の予算をご記入ください。千円未満は四捨五入してください。

--	--

 万

 千円

(6) 【(2) で「2～6 (実家以外)」に○をつけた方にお伺いします】

1 か月あたりの仕送り予定額 (授業料を含まない) についてご記入ください。万円未満は四捨五入してください。

--	--

 万円 0 仕送りはない

【全員の方に】

⑩=2

(7) 大学に入学後、頑張ろうと思う活動として、あてはまるもの**すべて**に○をつけてください。

- | | | |
|---------------|-------------|-------------|
| 1. 大学の授業 | 4. 授業以外での勉強 | 7. ボランティア活動 |
| 2. クラブ・サークル活動 | 5. 友達との交流 | 8. 留学 |
| 3. アルバイト活動 | 6. 趣味 | 9. その他 () |
| | | 10. 特にない |

⑪

(8) 【(8) で「アルバイト活動」に○をつけた方にお伺いします】

アルバイト活動をどの程度する予定ですか。あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1. 長期休暇期間（夏、冬、春休み）のみ | 5. 学期中に不定期的に、長期休暇期間にも |
| 2. 学期中、不定期 | 6. その他 () |
| 3. 学期中、定期的に | 7. 未定 |
| 4. 学期中に定期的に、長期休暇期間にも | |

⑫

【全員の方に】

(9) 授業料の負担予定について、あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

1. ほぼ全額を保護者が負担予定
2. 一部をあなたが負担予定（奨学金、アルバイトなども含む）
3. ほぼ全額をあなたが負担予定（奨学金、アルバイトなども含む）

⑬

* (10) これまでに受けたことのある奨学金・学費免除などの制度がございましたら、その**すべて**について、該当の番号に○をして、具体的な名称および給付型・貸与型についてご記入ください。

	具体的な名称	給付・貸与
1. 日本学生支援機構の奨学金		1. 給付 2. 貸与
2. 地方公共団体の奨学金		1. 給付 2. 貸与
3. 学校独自の奨学金		1. 給付 2. 貸与
4. 民間奨学団体の奨学金		1. 給付 2. 貸与
5. 新聞社の奨学金		1. 給付 2. 貸与
6. その他の奨学金		1. 給付 2. 貸与
7. 学費免除		1. 給付 2. 貸与
8. 特待生		1. 給付 2. 貸与

⑭

⑮⑯

⑰⑱

⑲⑳

(11) 以下の奨学金などの制度について、知っているもの**すべて**に○をつけてください。

- | | |
|-------------------------|----------------|
| 1. 日本学生支援機構（第一種奨学金） | 8. 育児支援奨学金 |
| 2. 日本学生支援機構（第二種奨学金） | 9. 入学料免除制度 |
| 3. 日本学生支援機構（緊急・応急採用奨学金） | 10. 入学料徴収猶予制度 |
| 4. 地方公共団体の奨学金 | 11. 授業料免除制度 |
| 5. 民間奨学団体の奨学金 | 12. 授業料徴収猶予制度 |
| 6. みがかずば奨学金 | 13. 知っているものはない |
| 7. 桜蔭会奨学金（3年生向け） | |

(12) 本学の学生寮について、知っているもの**すべて**に○をつけてください。

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1. キャンパス内の新学生宿舎（音羽館） | 3. 小石川寮（大学院生向け） |
| 2. お茶大S C C | 4. 知らない |

(13) 以下の本学の学生寮について、入寮を希望するもの**すべて**に○をつけてください。

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1. キャンパス内の新学生宿舎（音羽館） | 3. 小石川寮（大学院生向け） |
| 2. お茶大S C C | 4. 特にない |

(14) 大学生活が始まるにあたって心配なこと**すべて**に○をつけてください。

- | | |
|-----------|-----------|
| 1. 授業や単位 | 5. 健康面 |
| 2. 就職や将来 | 6. 日常生活全般 |
| 3. 人間関係 | 7. その他（ ） |
| 4. 生活・経済面 | 8. 特にない |

(15) 今の気持ち（不安・心配事）について、以下の項目はどの程度あてはまると思いますか。

あてはまる番号にそれぞれ**1つ**○をつけてください。

	あてはまる	ある程度あてはまる	あてはまらないあまり	あてはまらない
・友達ができるか	1	2	3	4
・大学になじめるか	1	2	3	4
・金銭面で負担がかからないか	1	2	3	4
・授業についていけるか	1	2	3	4
・進級や卒業ができるか	1	2	3	4
・将来の目標がみつかるか	1	2	3	4
・卒業後ちゃんと就職できるか	1	2	3	4

(16) 本学の学生支援活動で、期待するもの**すべて**に○をつけてください。

- | | | |
|----------|-----------|------------|
| 1. 経済的支援 | 5. 学習支援 | 9. その他 () |
| 2. 生活相談 | 6. 進路相談 | 10. 特にな |
| 3. 健康相談 | 7. 就職支援 | 11. わからない |
| 4. 心理相談 | 8. 課外活動支援 | |

IV. 将来の進路について、お聞きします。

＊(1) 大学卒業後の進路について、どのような希望をもっていますか。

あてはまるもの**すべて**に○をつけてください。

- | | |
|---------------------------|----------------------|
| 1. 民間企業に就職する | 5. 大学院などに進学する (海外含む) |
| 2. 公務員になる | 6. その他 () |
| 3. 教師などの専門職につく | 7. 決めていない |
| 4. 自営など、1 から 3 以外の形で仕事をする | |

(2) 大学卒業後のキャリアについて、どのように考えていますか。

あてはまる番号にそれぞれ **1つ** に○をつけてください。

考えたことがなく、今の時点でどうしても回答できない項目については、「今はわからない」に○をつけてください。

	そう 思う	ある 程度 思う	そう 思わ ない	今 はわ から ない
・すぐに就職して最初から正社員・正規の職員になる	1	2	3	4
・すぐに就職するが正社員・正規の職員にこだわらない	1	2	3	4
・すぐに大学院などに進学する	1	2	3	4
・就職してから大学院への進学を考える	1	2	3	4
・資格試験・公務員試験などに合格するまで就職しない	1	2	3	4
・卒業後すぐには就職しなくてもよい	1	2	3	4
・最初の就職先にできるだけ長く勤める	1	2	3	4
・何年かして転職や独立をする	1	2	3	4
・結婚・出産後も仕事を続ける	1	2	3	4

(3) あなたのご両親は、あなたの就職や将来のことに、どれくらい関与すると思いますか。
あてはまるもの1つずつに○をつけてください。

- 父親は → 1. まったく関与しないと思う 4. まあまあ関与すると思う
2. あまり関与しないと思う 5. 非常に関与すると思う
3. どちらとも言えないと思う 6. 父親はいない
- 母親は → 1. まったく関与しないと思う 4. まあまあ関与すると思う
2. あまり関与しないと思う 5. 非常に関与すると思う
3. どちらとも言えないと思う 6. 母親はいない

・研究調査のために、個人が特定されないデータとして、本調査の回答を用いる許可をいただけますか。

1. はい 2. いいえ

・皆さん個人に対する適切な学生支援を行うために、*のついた質問に対する回答を個人の情報として登録・管理する許可をいただけますか。

1. はい 2. いいえ

・お茶の水女子大学に合格した際の受験番号をご記入ください。()

※受験番号はデータ整理の目的で使⽤します。本調査の回答は、個⼈が特定できるような形で公表することはありません。

ご協力、ありがとうございました。同封の返信用封筒に封入の上、
他の入学関係書類に同封して、ご返送をお願いいたします。

付表 2

新入生生活調査

<入学予定者の保護者用>

(一般選抜合格者および私費外国人留学生)

ご子女が、お茶の水女子大学に入学を予定されているみなさまへ

この度は、ご子女のお茶の水女子大学合格おめでとうございます。お茶の水女子大学は、ご子女のご入学を歓迎し、今後の学生生活が実りあるものになるよう祈念しております。

さて、本学では、入学予定者およびその保護者の方にアンケートを実施いたします。これは、入学を予定している方の実情をふまえ、有益な学生支援の検討および実施を行うための資料とすることを目的としています。具体的には、

1. 新入生個々の大学教育や将来への多様なニーズを把握し、適切な学生支援事業を入学時から行うために、新入生個々の情報を得る。
2. 新入生の標準的な学生生活の状況を把握する。
3. 新入生の家庭状況からその経済的基盤を推定することにより、お茶の水女子大学における学生支援事業を改善するための基礎資料とする。
4. 国立大学入学者の学生生活・家庭状況・進路状況などに関する調査研究を行うための基礎資料とする。

上記4点を中心にするものです。

ご回答いただきました内容は、統計的に処理をします。個人としてのご回答が公表されることはありません。また、調査結果は上記の目的以外に使用することはありません。

調査票中、質問項目の左に*がついている項目は、本学入学後も、新入生個人の情報として、学生支援を行うために利用しますが、回答に含まれる個人情報、お茶の水女子大学個人情報の管理に関する規則及び関係諸規定に基づき、厳格に管理いたします。

なお、アンケートにご協力いただけなかった場合でも、本学教育課程その他に不利益を被ることはありません。また、入学を辞退された方の個人情報は、入学辞退届を受理次第、破棄いたします。

どうかアンケートの趣旨をご理解賜り、ご協力いただけますよう、お願い申し上げます。

本調査の企画・実施に関する情報は以下の通りです。

【実施主体】 国立大学法人 お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター

【問い合わせ先】 新入生生活調査担当 (03-5978-2646)

【個人情報について】

お茶の水女子大学では、個人情報の管理に関する規程および個人情報の公開に関する取扱要項等の規定を定めて、本学が保有する個人情報の適正な管理に努めています。

<http://www.ocha.ac.jp/about/individual.html>

以下のご回答にあたってのご注意をお読みのうえ、ご回答願います。

ご回答にあたってのお願い

- ・お答えは、黒鉛筆または黒ボールペンで、あてはまる回答についている数字を○でかこんでいただく場合と、マスの中に数字を記入する場合があります。「その他」にあてはまる時は、数字を○でかこみ、() 内に具体的な内容を記入してください。() 内に書ききれない場合は、欄外にご記入ください。
- ・質問番号順にお答え下さい。質問の中には、一部の方だけにだけおたずねするものがありますが、その場合は指示に従って下さい。
- ・「⑨⑩=01」や⑪などの記号は、コンピュータで処理するためのものですので、質問やお答えとは関係ありません。
- ・表紙依頼文にも一部記載いたしましたが、アンケートの最後に、ご回答内容の研究調査へのデータ使用および皆様個人への学生支援のためのご回答の管理・登録への許可をお伺いしております。許可いただけない場合は、使用することはありません。
- ・入学辞退をされた方は、入学辞退届を受理次第、調査票そのものを破棄いたします。
- ・入学予定者の保護者不在の場合は保護者用調査票への回答は不要です。
- ・アンケートは、大学で付けたID番号で管理をしております。**アンケート用紙には、ご子女や保護者の方のお名前、住所などは記載せず**ご回答、ご返送ください。
- ・アンケートの回答及び返送をもって、個人情報の取り扱いに同意いただいたものといたします。回答後に同意を撤回されたい場合は、2022年4月9日までに、お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター新入生生活調査担当（03-5978-2646）へ、お知らせください。
- ・ご回答いただきました調査票は、同封いたしました調査票返送用封筒に入れていただき、**他の入学手続関係書類に同封し、締め切り期日までに返送をお願いいたします。**

それでは、よろしくお願いいたします。

* (1) あなたの世帯で、家計を主に支えている方は入学予定者から見てどなたですか。

$$\textcircled{10}=1$$

1. 父親 2. 母親 3. 入学予定者本人 4. その他 ()

⑪

* (2) 家計を主に支えている方のご職業について、あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

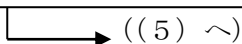
1. 勤労者 3. 法人経営者、自由業者 5. その他 ()
2. 個人営業 4. 農林水産業者 6. 働いていない

⑫

(3) ご子女の父親の方の現在の就労状況について、あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

1. フルタイム勤務 2. パートタイム勤務 3. 自営 4. 無職 5. いない

⑬



(4) どのような職種に就いていますか。あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

1. 専門職（医師・弁護士・研究者・教師など）
2. 技術職（エンジニア・情報処理技術者など）
3. 管理職（会社・団体の役員・部課長・工場長・支店長など）
4. 事務職（庶務・人事・経理・調査・企画・秘書・受付など）
5. 営業職（セールスマン・生命保険外交員など）
6. 販売職（デパート・スーパーの店員など）
7. サービス職（美容師・調理師・客室乗務員・旅行添乗員など）
8. 保安職（警察官・消防士・警備員など）
9. 農林漁業職（農業従事者・家畜飼育者・植木職・漁船船員など）
10. 運輸通信職（鉄道機関士・運転手・船舶や航空機の操縦士など）
11. 生産労務職（機械組立修理工・食料品製造工・土木作業者など）
12. その他（

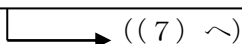
⑭

⑮

(5) ご子女の母親の方の現在の就労状況について、あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

1. フルタイム勤務 2. パートタイム勤務 3. 自営 4. 無職 5. いない

⑩



(6) どのような職種に就いていますか。あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

1. 専門職（医師・弁護士・研究者・教師など）
2. 技術職（エンジニア・情報処理技術者など）
3. 管理職（会社・団体の役員・部課長・工場長・支店長など）
4. 事務職（庶務・人事・経理・調査・企画・秘書・受付など）
5. 営業職（セールスマン・生命保険外交員など）
6. 販売職（デパート・スーパーの店員など）
7. サービス職（美容師・調理師・客室乗務員・旅行添乗員など）
8. 保安職（警察官・消防士・警備員など）
9. 農林漁業職（農業従事者・家畜飼育者・植木職・漁船船員など）
10. 運輸通信職（鉄道機関士・運転手・船舶や航空機の操縦士など）
11. 生産労務職（機械組立修理工・食料品製造工・土木作業者など）
12. その他（

⑪

⑮

【全員の方に】

(7) ご子女が大学に入学した後のご家庭の暮らし向きについて、あてはまるもの **1つ** に○をつけてください。

1. ゆとりがない 2. あまりゆとりがない 3. 多少ゆとりがある 4. ゆとりがある ⑲

* (8) ご家庭の世帯年収（学校に在学する者を除く同一世帯全員の年収。税込）について、あてはまるもの **1つ** に○をつけてください。

1. 400 万円未満 4. 800 万円以上 1000 万円未満 7. 1400 万円以上 1600 万円未満
2. 400 万円以上 600 万円未満 5. 1000 万円以上 1200 万円未満 8. 1600 万円以上 1800 万円未満 ⑳
3. 600 万円以上 800 万円未満 6. 1200 万円以上 1400 万円未満 9. 1800 万円以上

* (9) 家計を主に支えている方の年収（税込）について、あてはまるもの **1つ** に○をつけてください。

1. 400 万円未満 4. 800 万円以上 1000 万円未満 7. 1400 万円以上 1600 万円未満
2. 400 万円以上 600 万円未満 5. 1000 万円以上 1200 万円未満 8. 1600 万円以上 1800 万円未満
3. 600 万円以上 800 万円未満 6. 1200 万円以上 1400 万円未満 9. 1800 万円以上

(10) 本学に入学予定のご子女への、1 か月あたりの仕送り予定額についてご記入ください。
万円未満は四捨五入してください。

--

万円

0 仕送りはしない

(11) 授業料の負担予定について、あてはまるもの **1つ** に○をつけてください。

1. ほぼ全額を保護者が負担予定
2. 一部をご子女本人が負担予定（奨学金、アルバイトなども含む）
3. ほぼ全額をご子女本人が負担予定（奨学金、アルバイトなども含む）

(12) 以下の奨学金などの制度について、ご存知のもの**すべて**に○をつけてください。

- | | |
|-------------------------|----------------|
| 1. 日本学生支援機構（第一種奨学金） | 8. 育児支援奨学金 |
| 2. 日本学生支援機構（第二種奨学金） | 9. 入学料免除制度 |
| 3. 日本学生支援機構（緊急・応急採用奨学金） | 10. 入学料徴収猶予制度 |
| 4. 地方公共団体の奨学金 | 11. 授業料免除制度 |
| 5. 民間奨学団体の奨学金 | 12. 授業料徴収猶予制度 |
| 6. みがかずば奨学金 | 13. 知っているものはない |
| 7. 桜蔭会奨学金（3年生向け） | |

(13) 以下の奨学金などの制度について、希望されるもの**すべて**に○をつけてください。

- | | |
|-------------------------|---------------|
| 1. 日本学生支援機構（第一種奨学金） | 8. 育児支援奨学金 |
| 2. 日本学生支援機構（第二種奨学金） | 9. 入学料免除制度 |
| 3. 日本学生支援機構（緊急・応急採用奨学金） | 10. 入学料徴収猶予制度 |
| 4. 地方公共団体の奨学金 | 11. 授業料免除制度 |
| 5. 民間奨学団体の奨学金 | 12. 授業料徴収猶予制度 |
| 6. みがかずば奨学金 | 13. 希望するものはない |
| 7. 桜蔭会奨学金（3年生向け） | |

(14) 以下の本学の学生寮について、ご存知のもの**すべて**に○をつけてください。

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1. キャンパス内の新学生宿舎（音羽館） | 3. 小石川寮（大学院生向け） |
| 2. お茶大 S C C | 4. 知らない |

(15) 以下の本学の学生寮について、入寮を希望するもの**すべて**に○をつけてください。

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1. キャンパス内の新学生宿舎（音羽館） | 3. 小石川寮（大学院生向け） |
| 2. お茶大 S C C | 4. 寮に入りたいとは思わない |

* (16) 大学入学後に予定している住居**すべて**に○をつけてください。

- | | |
|---------------------------|--------------------------------|
| 1. 実家 | 4. 大学の寮（お茶大 SCC） |
| 2. 実家以外の賃貸アパートやマンション | 5. 大学以外の寮 |
| 3. 大学の寮（キャンパス内の新学生宿舎・音羽館） | 6. その他（ ） |

(17) ご子女の入学後の住居を考える際に、新型コロナウイルス（COVID-19）のことを考慮されましたか。

- | | |
|------------|------------------------|
| 1. はい、考慮した | 2. いいえ、考慮しなかった→ (19) へ |
|------------|------------------------|

(18) 【(17) で「1. はい、考慮した」と回答した方にお伺いします】

考慮したことの具体的な内容を教えてください。あてはまるもの**すべて**に○をつけてください。

1. 寮に住ませたいが、感染が心配なのでやめるつもり
2. シェアハウスに住ませたいが、感染が心配なのでやめるつもり
3. 感染対策の面で安心なので、大学の寮に住ませたい
4. 感染予防の視点で、賃貸マンションに住ませたい
5. 実家以外のところに住ませたいが、感染が心配なので実家から通ってもらうつもり
6. その他（ ）

(19) 受験から入学までに困ったこと・悩んだこと**すべて**に○をつけてください。

1. 子ども(入学予定のご子女)の体調や精神面のこと
2. 受験・入学のための費用準備
3. 受験・入学手続きのスケジュールの管理
4. 入学後の住まい探し
5. その他（ ）

(20) ご子女の大学生活が始まって心配なこと**すべて**に○をつけてください。

- | | |
|-----------|--------------------------------|
| 1. 授業や単位 | 5. 健康面 |
| 2. 就職や将来 | 6. 日常生活全般 |
| 3. 人間関係 | 7. その他（ ） |
| 4. 生活・経済面 | 8. 特にない |

(21) 本学の学生支援活動で、期待するもの**すべて**に○をつけてください。

- | | | |
|----------|---------|------------|
| 1. 経済的支援 | 4. 心理相談 | 7. 就職支援 |
| 2. 生活相談 | 5. 学習支援 | 8. 課外活動支援 |
| 3. 健康相談 | 6. 進路相談 | 9. その他 () |
| | | 10. 特になし |

(22) ご両親の最終学歴について、それぞれあてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

父親は

1. 中学・高校 2. 高専 3. 専門学校・短大 4. 大学
5. 大学院（修士） 6. 大学院（博士）

母親は

1. 中学・高校 2. 高専 3. 専門学校・短大 4. 大学
5. 大学院（修士） 6. 大学院（博士）

・研究調査のために、個人が特定されないデータとして、本調査の回答を用いる許可をいただけますか。

1. はい 2. いいえ

・皆様のご子女に対する適切な学生支援を行うために、*のついた質問に対する回答を個人の情報として登録・管理する許可をいただけますか。

1. はい 2. いいえ

・ご子女がお茶の水女子大学に合格した際の受験番号をご記入ください。

()

※受験番号はデータ整理の目的で使します。本調査の回答は、個人が特定できるような形で公表することはありません。

・ご回答者とご子女との関係について、あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

1. 父親 2. 母親 3. その他（続き柄は： ）

**ご協力、ありがとうございました。同封の返信用封筒に封入の上、
他の入学関係書類に同封して、ご返送をお願いいたします。**

付表 3

新入生調査 基礎集計表（入学予定者）1/6

			総数	学部			
				文教育学部	理学部	生活科学部	無回答
I.(1)		学部	436	196	117	123	0
				45.0%	26.8%	28.2%	0.0%
I.(2)	出身都道府県	総数	436	196	117	123	0
		国内	99.3%	98.5%	100.0%	100.0%	0.0%
		海外	0.7%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
I.(3)	家族構成	総数	436	196	117	123	0
		父親	93.1%	92.9%	89.7%	96.7%	0.0%
		母親	98.4%	97.4%	98.3%	100.0%	0.0%
		兄	20.2%	20.4%	17.9%	22.0%	0.0%
		姉	24.8%	21.4%	24.8%	30.1%	0.0%
		弟	27.5%	26.0%	27.4%	30.1%	0.0%
		妹	29.6%	30.6%	27.4%	30.1%	0.0%
		祖父	34.4%	34.2%	30.8%	38.2%	0.0%
		祖母	43.8%	45.9%	37.6%	46.3%	0.0%
		夫	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		息子	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		娘	0.2%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%
		その他	1.8%	2.0%	2.6%	0.8%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
I.(4)	兄弟姉妹人数	該当者	436	196	117	123	0
		1人	17.2%	18.9%	19.7%	12.2%	0.0%
		2人	58.5%	55.1%	60.7%	61.8%	0.0%
		3人	19.5%	19.9%	17.1%	21.1%	0.0%
		4人以上	4.8%	6.1%	2.6%	4.9%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
II.(1)①	小学校受験の有無	総数	436	196	117	123	0
		受験をした	9.6%	5.6%	15.4%	10.6%	0.0%
		受験をしていない	90.1%	94.4%	84.6%	88.6%	0.0%
		覚えていない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	0.2%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%
II.(1)②	小学校の設置者	総数	436	196	117	123	0
		国立	3.9%	2.6%	5.1%	4.9%	0.0%
		公立	89.2%	92.9%	86.3%	86.2%	0.0%
		私立	4.4%	2.6%	6.0%	5.7%	0.0%
		海外	2.1%	2.0%	2.6%	1.6%	0.0%
		無回答	0.5%	0.0%	0.0%	1.6%	0.0%
II.(2)①	中学校受験の有無	総数	436	196	117	123	0
		受験をした	47.2%	40.8%	56.4%	48.8%	0.0%
		受験をしていない	52.3%	58.7%	43.6%	50.4%	0.0%
		覚えていない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	0.5%	0.5%	0.0%	0.8%	0.0%
II.(2)②	中学校の設置者	総数	436	196	117	123	0
		国立	7.3%	5.6%	10.3%	7.3%	0.0%
		公立	64.0%	70.4%	52.1%	65.0%	0.0%
		私立	26.8%	22.4%	36.8%	24.4%	0.0%
		海外	1.4%	1.5%	0.9%	1.6%	0.0%
		無回答	0.5%	0.0%	0.0%	1.6%	0.0%
II.(3)	高校受験の有無	総数	436	196	117	123	0
		受験をした	64.4%	69.4%	58.1%	62.6%	0.0%
		受験をしていない	34.9%	30.6%	41.0%	35.8%	0.0%
		覚えていない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	0.7%	0.0%	0.9%	1.6%	0.0%
II.(8)	受験決定時期	該当者	436	196	117	123	0
		高校入学以前	4.8%	7.1%	2.6%	3.3%	0.0%
		高校1年	15.4%	17.3%	10.3%	17.1%	0.0%
		高校2年	23.6%	25.5%	12.0%	31.7%	0.0%
		高校3年4～8月	24.1%	26.0%	19.7%	25.2%	0.0%
		高校3年9・10月	9.4%	6.1%	14.5%	9.8%	0.0%
		高校3年11・12月	4.8%	3.1%	10.3%	2.4%	0.0%
		高校3年1・2月	11.5%	9.7%	21.4%	4.9%	0.0%
		高校卒業以降	5.7%	4.6%	9.4%	4.1%	0.0%
		無回答	0.7%	0.5%	0.0%	1.6%	0.0%

新入生調査 基礎集計表（入学予定者）2/6

				学部				
			総数	文教育学部	理学部	生活科学部	無回答	
Ⅱ.(9)	第一志望	総数	436	196	117	123	0	
		はい	87.4%	88.3%	81.2%	91.9%	0.0%	
		いいえ	12.4%	11.7%	18.8%	7.3%	0.0%	
		無回答	0.2%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	
Ⅱ.(10)	高校卒業から大学入学までの間に経験したこと	総数	436	196	117	123	0	
		高卒後、他の高等教育機関に入学した	1.1%	0.5%	1.7%	1.6%	0.0%	
		高卒後、フルタイムで働いた	0.2%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	
		高卒後、浪人した	9.4%	7.1%	15.4%	7.3%	0.0%	
		高卒後、海外留学をした	0.2%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	
		この中にはない	81.0%	80.6%	76.9%	85.4%	0.0%	
		無回答	9.2%	12.2%	6.8%	6.5%	0.0%	
Ⅲ.(1)	居住予定の都道府県	総数	436	196	117	123	0	
		東京都	63.8%	67.9%	61.5%	59.3%	0.0%	
		埼玉県	12.2%	8.2%	18.8%	12.2%	0.0%	
		千葉県	8.3%	8.7%	10.3%	5.7%	0.0%	
		神奈川県	12.6%	11.2%	8.5%	18.7%	0.0%	
		その他の県	3.0%	4.1%	0.9%	3.3%	0.0%	
		無回答	0.2%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	
Ⅲ.(2)	居住予定の住居	総数	436	196	117	123	0	
		実家	61.2%	57.7%	64.1%	64.2%	0.0%	
		実家以外の賃貸アパートやマンション	23.6%	24.5%	23.9%	22.0%	0.0%	
		大学の寮(国際学生宿舎)	28.2%	34.2%	24.8%	22.0%	0.0%	
		大学の寮(お茶大SCC)	10.1%	13.3%	8.5%	6.5%	0.0%	
		大学以外の寮	4.1%	5.1%	2.6%	4.1%	0.0%	
		その他	1.4%	1.0%	0.0%	3.3%	0.0%	
		無回答	0.5%	0.5%	0.9%	0.0%	0.0%	
Ⅲ.(3)	住居を考える際 COVID-19への考慮	総数	436	196	117	123	0	
		考慮した	11.7%	13.3%	13.7%	7.3%	0.0%	
		考慮しなかった	85.8%	83.7%	85.5%	89.4%	0.0%	
Ⅲ.(4)	COVID-19について考慮した内容	無回答	2.5%	3.1%	0.9%	3.3%	0.0%	
		該当者	51	26	16	9	0	
		寮に住みたいが、感染が心配なのでやめる	3.9%	3.8%	0.0%	11.1%	0.0%	
		シェアハウス型の寮に住みたいが、感染が心配なやめる	2.0%	3.8%	0.0%	0.0%	0.0%	
		感染対策の面で安心なので、大学の寮に住む	47.1%	53.8%	37.5%	44.4%	0.0%	
		感染予防の視点で、賃貸マンションに住む	11.8%	11.5%	18.8%	0.0%	0.0%	
		実家以外のところに住みたいが、感染が心配なので実家で暮らす	21.6%	23.1%	25.0%	11.1%	0.0%	
		その他	17.6%	15.4%	12.5%	33.3%	0.0%	
Ⅲ.(5)	家賃	無回答	2.0%	0.0%	6.3%	0.0%	0.0%	
		該当者	103	48	28	27	0	
		5万円未満	1.0%	0.0%	3.6%	0.0%	0.0%	
		5～7万円台	51.5%	56.3%	46.4%	48.1%	0.0%	
		8～9万円台	28.2%	20.8%	32.1%	37.0%	0.0%	
		10～12万円台	12.6%	12.5%	14.3%	11.1%	0.0%	
		13～14万円台	1.0%	0.0%	0.0%	3.7%	0.0%	
Ⅲ.(6)	仕送り額	15万円以上	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
		無回答	5.8%	10.4%	3.6%	0.0%	0.0%	
		該当者	186	92	44	50	0	
		仕送りはない	10.2%	14.1%	4.5%	8.0%	0.0%	
		5万円未満	10.2%	9.8%	13.6%	8.0%	0.0%	
		5～7万円台	23.7%	23.9%	20.5%	26.0%	0.0%	
		8～9万円台	4.3%	4.3%	4.5%	4.0%	0.0%	
		10～12万円台	29.6%	30.4%	31.8%	26.0%	0.0%	
Ⅲ.(7)	入学後の活動	13～14万円台	1.1%	1.1%	2.3%	0.0%	0.0%	
		15万円以上	5.9%	6.5%	4.5%	6.0%	0.0%	
		無回答	15.1%	9.8%	18.2%	22.0%	0.0%	
		総数	436	196	117	123	0	
		大学の授業	98.9%	99.5%	96.6%	100.0%	0.0%	
		クラブ・サークル活動	71.6%	67.3%	71.8%	78.0%	0.0%	
		アルバイト活動	72.0%	69.4%	77.8%	70.7%	0.0%	
		授業以外での勉強	61.2%	62.8%	64.1%	56.1%	0.0%	
		友達との交流	74.5%	71.9%	74.4%	78.9%	0.0%	
		趣味	53.9%	55.1%	57.3%	48.8%	0.0%	
		ボランティア活動	27.5%	27.6%	24.8%	30.1%	0.0%	
		留学	33.0%	37.2%	34.2%	25.2%	0.0%	
		その他	1.6%	2.0%	0.0%	2.4%	0.0%	
		特にない	0.2%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	
		無回答	0.5%	0.5%	0.9%	0.0%	0.0%	

新入生調査 基礎集計表（入学予定者）3/6

			総数	学部			
				文教育学部	理学部	生活科学部	無回答
Ⅲ.(8)	アルバイト活動予定	該当者	314	136	91	87	0
		長期休暇期間(夏、冬、春休み)のみ	2.2%	1.5%	4.4%	1.1%	0.0%
		学期中、不定期	1.6%	1.5%	2.2%	1.1%	0.0%
		学期中、定期的に	13.4%	14.7%	9.9%	14.9%	0.0%
		学期中に定期的に、長期休暇期間にも	55.4%	58.1%	50.5%	56.3%	0.0%
		学期中に不定期に、長期休暇期間にも	8.3%	6.6%	12.1%	6.9%	0.0%
		その他	0.3%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%
		未定	17.5%	16.9%	17.6%	18.4%	0.0%
		無回答	1.3%	0.0%	3.3%	1.1%	0.0%
Ⅲ.(9)	授業料の負担予定	総数	436	196	117	123	0
		ほぼ全額を保護者が負担予定	83.7%	81.6%	83.8%	87.0%	0.0%
		一部をあなたが負担予定	11.0%	13.3%	10.3%	8.1%	0.0%
		ほぼ全額をあなたが負担予定	3.9%	3.6%	5.1%	3.3%	0.0%
		無回答	1.4%	1.5%	0.9%	1.6%	0.0%
Ⅲ.(10)	受けたことのある奨学金	総数	436	196	117	123	0
		日本学生支援機構の奨学金	2.8%	2.6%	1.7%	4.1%	0.0%
		地方公共団体の奨学金	2.1%	3.6%	0.9%	0.8%	0.0%
		学校独自の奨学金	1.6%	1.0%	1.7%	2.4%	0.0%
		民間奨学団体の奨学金	1.6%	0.5%	3.4%	1.6%	0.0%
		新聞社の奨学金	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		その他の奨学金	0.9%	1.0%	1.7%	0.0%	0.0%
		学費免除	2.3%	1.5%	5.1%	0.8%	0.0%
		特待生	3.9%	4.6%	3.4%	3.3%	0.0%
		無回答	87.6%	87.8%	85.5%	89.4%	0.0%
Ⅲ.(10)	奨学金の具体的名称-1 日本学生支援機構の奨学金	該当者	12	5	2	5	0
		記入あり	66.7%	60.0%	50.0%	80.0%	0.0%
		記入なし	33.3%	40.0%	50.0%	20.0%	0.0%
Ⅲ.(10)	奨学金の具体的名称-2 地方公共団体の奨学金	該当者	9	7	1	1	0
		記入あり	88.9%	85.7%	100.0%	100.0%	0.0%
		記入なし	11.1%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(10)	奨学金の具体的名称-3 学校独自の奨学金	該当者	7	2	2	3	0
		記入あり	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%
		記入なし	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(10)	奨学金の具体的名称-4 民間奨学団体の奨学金	該当者	7	1	4	2	0
		記入あり	85.7%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%
		記入なし	14.3%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(10)	奨学金の具体的名称-5 新聞社の奨学金	該当者	0	0	0	0	0
		記入あり	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		記入なし	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(10)	奨学金の具体的名称-6 その他の奨学金	該当者	4	2	2	0	0
		記入あり	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%
		記入なし	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(10)	奨学金の具体的名称-7 学費免除	該当者	10	3	6	1	0
		記入あり	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%
		記入なし	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(10)	奨学金の具体的名称-8 特待生	該当者	17	9	4	4	0
		記入あり	88.2%	88.9%	100.0%	75.0%	0.0%
		記入なし	11.8%	11.1%	0.0%	25.0%	0.0%
Ⅲ.(10)	奨学金／給与・貸与-1 日本学生支援機構の奨学金	該当者	12	5	2	5	0
		給与	25.0%	0.0%	50.0%	40.0%	0.0%
		貸与	66.7%	80.0%	50.0%	60.0%	0.0%
		両方	8.3%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(10)	奨学金／給与・貸与-2 地方公共団体の奨学金	該当者	9	7	1	1	0
		給与	66.7%	57.1%	100.0%	100.0%	0.0%
		貸与	33.3%	42.9%	0.0%	0.0%	0.0%
		両方	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(10)	奨学金／給与・貸与-3 学校独自の奨学金	該当者	7	2	2	3	0
		給与	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%
		貸与	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		両方	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(10)	奨学金／給与・貸与-4 民間奨学団体の奨学金	該当者	7	1	4	2	0
		給与	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%
		貸与	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(10)	奨学金／給与・貸与-5 新聞社の奨学金	該当者	0	0	0	0	0
		給与	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		貸与	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

新入生調査 基礎集計表（入学予定者）4/6

			総数	学部			
				文教育学部	理学部	生活科学部	無回答
Ⅲ.(15)	不安心配ごと-3 金銭面で負担が かからないか	総数	436	196	117	123	0
		あてはまる	18.8%	17.9%	21.4%	17.9%	0.0%
		ある程度あてはまる	29.6%	31.1%	23.1%	33.3%	0.0%
		あまりあてはまらない	29.6%	29.6%	29.9%	29.3%	0.0%
		あてはまらない	21.6%	20.9%	24.8%	19.5%	0.0%
		無回答	0.5%	0.5%	0.9%	0.0%	0.0%
		あてはまる(計)	48.4%	49.0%	44.4%	51.2%	0.0%
		あてはまらない(計)	51.1%	50.5%	54.7%	48.8%	0.0%
Ⅲ.(15)	不安心配ごと-4 授業についていけるか	総数	436	196	117	123	0
		あてはまる	31.9%	29.6%	35.0%	32.5%	0.0%
		ある程度あてはまる	42.7%	40.3%	42.7%	46.3%	0.0%
		あまりあてはまらない	19.7%	24.0%	13.7%	18.7%	0.0%
		あてはまらない	5.3%	5.6%	7.7%	2.4%	0.0%
		無回答	0.5%	0.5%	0.9%	0.0%	0.0%
		あてはまる(計)	74.5%	69.9%	77.8%	78.9%	0.0%
		あてはまらない(計)	25.0%	29.6%	21.4%	21.1%	0.0%
Ⅲ.(15)	不安心配ごと-5 進級や卒業ができるか	総数	436	196	117	123	0
		あてはまる	18.1%	15.3%	23.1%	17.9%	0.0%
		ある程度あてはまる	33.9%	31.6%	36.8%	35.0%	0.0%
		あまりあてはまらない	36.5%	40.3%	26.5%	39.8%	0.0%
		あてはまらない	11.0%	12.2%	12.8%	7.3%	0.0%
		無回答	0.5%	0.5%	0.9%	0.0%	0.0%
		あてはまる(計)	52.1%	46.9%	59.8%	52.8%	0.0%
		あてはまらない(計)	47.5%	52.6%	39.3%	47.2%	0.0%
Ⅲ.(15)	不安心配ごと-6 将来の目標が見つかるか	総数	436	196	117	123	0
		あてはまる	22.9%	23.0%	26.5%	19.5%	0.0%
		ある程度あてはまる	27.8%	24.5%	29.1%	31.7%	0.0%
		あまりあてはまらない	30.3%	31.6%	27.4%	30.9%	0.0%
		あてはまらない	18.6%	20.4%	16.2%	17.9%	0.0%
		無回答	0.5%	0.5%	0.9%	0.0%	0.0%
		あてはまる(計)	50.7%	47.4%	55.6%	51.2%	0.0%
		あてはまらない(計)	48.9%	52.0%	43.6%	48.8%	0.0%
Ⅲ.(15)	不安心配ごと-7 卒業後ちゃんと就職できるか	総数	436	196	117	123	0
		あてはまる	31.4%	32.7%	30.8%	30.1%	0.0%
		ある程度あてはまる	36.7%	32.1%	36.8%	43.9%	0.0%
		あまりあてはまらない	22.2%	23.5%	22.2%	20.3%	0.0%
		あてはまらない	9.2%	11.2%	9.4%	5.7%	0.0%
		無回答	0.5%	0.5%	0.9%	0.0%	0.0%
		あてはまる(計)	68.1%	64.8%	67.5%	74.0%	0.0%
		あてはまらない(計)	31.4%	34.7%	31.6%	26.0%	0.0%
Ⅲ.(16)	期待する学生支援活動	総数	436	196	117	123	0
		経済的支援	20.6%	18.4%	25.6%	19.5%	0.0%
		生活相談	20.9%	20.9%	21.4%	20.3%	0.0%
		健康相談	11.7%	9.7%	13.7%	13.0%	0.0%
		心理相談	20.2%	19.4%	18.8%	22.8%	0.0%
		学習支援	68.1%	69.9%	69.2%	64.2%	0.0%
		進路相談	68.1%	66.8%	65.8%	72.4%	0.0%
		就職支援	75.2%	76.0%	65.0%	83.7%	0.0%
		課外活動支援	33.7%	36.2%	31.6%	31.7%	0.0%
		その他	0.9%	1.0%	0.9%	0.8%	0.0%
		特にない	0.9%	1.0%	1.7%	0.0%	0.0%
		わからない	4.8%	5.6%	6.0%	2.4%	0.0%
		無回答	0.2%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%
Ⅳ.(1)	大学卒業後の進路	総数	436	196	117	123	0
		民間企業に就職する	51.1%	54.6%	35.9%	60.2%	0.0%
		公務員になる	25.9%	32.7%	12.8%	27.6%	0.0%
		教師などの専門職につく	20.0%	30.1%	16.2%	7.3%	0.0%
		自営など、1から3以外の形で就職する	5.5%	6.6%	1.7%	7.3%	0.0%
		大学院などに進学する(海外含む)	47.5%	28.1%	74.4%	52.8%	0.0%
		その他	1.1%	2.0%	0.0%	0.8%	0.0%
		決めていない	19.0%	21.9%	16.2%	17.1%	0.0%
		無回答	0.2%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%
Ⅳ.(2)	大学卒業後のキャリア-1 すぐに就職して最初から正社員・ 正規の職員になる	総数	436	196	117	123	0
		そう思う	31.0%	44.9%	12.8%	26.0%	0.0%
		ある程度思う	31.0%	27.6%	33.3%	34.1%	0.0%
		そう思わない	18.6%	10.7%	33.3%	17.1%	0.0%
		今はわからない	19.5%	16.8%	20.5%	22.8%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

新入生調査 基礎集計表（入学予定者）5/6

			総数	学部			
				文教育学部	理学部	生活科学部	無回答
Ⅳ.(2)	大学卒業後のキャリア-2	総数	436	196	117	123	0
		そう思う	2.3%	3.6%	0.0%	2.4%	0.0%
	すぐに就職するが、正社員・正規の職員にこだわらない	ある程度思う	8.5%	10.7%	3.4%	9.8%	0.0%
		そう思わない	65.4%	60.7%	73.5%	65.0%	0.0%
		今はわからない	23.6%	25.0%	23.1%	22.0%	0.0%
		無回答	0.2%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%
Ⅳ.(2)	大学卒業後のキャリア-3 すぐに大学院などに進学する	総数	436	196	117	123	0
		そう思う	20.9%	5.1%	51.3%	17.1%	0.0%
		ある程度思う	30.3%	27.0%	30.8%	35.0%	0.0%
		そう思わない	25.9%	43.4%	5.1%	17.9%	0.0%
		今はわからない	22.7%	24.5%	12.8%	29.3%	0.0%
		無回答	0.2%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%
Ⅳ.(2)	大学卒業後のキャリア-4	総数	436	196	117	123	0
		そう思う	0.5%	0.5%	0.0%	0.8%	0.0%
	就職してから大学院への進学を考える	ある程度思う	4.8%	5.1%	2.6%	6.5%	0.0%
		そう思わない	70.4%	72.4%	74.4%	63.4%	0.0%
		今はわからない	23.2%	20.9%	22.2%	27.6%	0.0%
		無回答	1.1%	1.0%	0.9%	1.6%	0.0%
Ⅳ.(2)	大学卒業後のキャリア-5	総数	436	196	117	123	0
		そう思う	2.1%	2.6%	0.9%	2.4%	0.0%
	資格試験・公務員試験などに合格するまで就職しない	ある程度思う	11.0%	9.2%	7.7%	17.1%	0.0%
		そう思わない	57.6%	58.2%	63.2%	51.2%	0.0%
		今はわからない	29.1%	30.1%	28.2%	28.5%	0.0%
		無回答	0.2%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%
Ⅳ.(2)	大学卒業後のキャリア-6	総数	436	196	117	123	0
		そう思う	5.0%	2.0%	10.3%	4.9%	0.0%
	卒業後すぐには就職しなくてもよい	ある程度思う	15.1%	14.8%	16.2%	14.6%	0.0%
		そう思わない	59.2%	65.3%	49.6%	58.5%	0.0%
		今はわからない	20.2%	17.9%	23.1%	21.1%	0.0%
		無回答	0.5%	0.0%	0.9%	0.8%	0.0%
Ⅳ.(2)	大学卒業後のキャリア-7	総数	436	196	117	123	0
		そう思う	19.7%	18.4%	23.9%	17.9%	0.0%
	最初の就職先にできるだけ長く勤める	ある程度思う	34.2%	36.2%	26.5%	38.2%	0.0%
		そう思わない	17.7%	18.9%	17.1%	16.3%	0.0%
		今はわからない	28.2%	26.5%	32.5%	26.8%	0.0%
		無回答	0.2%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%
Ⅳ.(2)	大学卒業後のキャリア-8 何年かして転職や独立をする	総数	436	196	117	123	0
		そう思う	4.1%	5.1%	3.4%	3.3%	0.0%
		ある程度思う	20.2%	21.4%	17.9%	20.3%	0.0%
		そう思わない	29.1%	30.1%	25.6%	30.9%	0.0%
		今はわからない	46.3%	43.4%	53.0%	44.7%	0.0%
		無回答	0.2%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%
Ⅳ.(2)	大学卒業後のキャリア-9 結婚・出産後も仕事を続ける	総数	436	196	117	123	0
		そう思う	50.7%	56.6%	49.6%	42.3%	0.0%
		ある程度思う	25.9%	22.4%	23.9%	33.3%	0.0%
		そう思わない	1.6%	1.5%	2.6%	0.8%	0.0%
		今はわからない	21.6%	19.4%	23.9%	22.8%	0.0%
		無回答	0.2%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%
Ⅳ.(3)	就職や将来への親の関与-a 父親	総数	436	196	117	123	0
		まったく関与しない	6.7%	6.1%	8.5%	5.7%	0.0%
		あまり関与しない	31.7%	34.2%	25.6%	33.3%	0.0%
		どちらとも言えない	11.2%	12.2%	10.3%	10.6%	0.0%
		まあまあ関与する	36.2%	33.7%	37.6%	39.0%	0.0%
		非常に関与する	8.3%	6.6%	10.3%	8.9%	0.0%
		父親はいない	5.5%	6.6%	7.7%	1.6%	0.0%
		無回答	0.5%	0.5%	0.0%	0.8%	0.0%
Ⅳ.(3)	就職や将来への親の関与-b 母親	総数	436	196	117	123	0
		まったく関与しない	4.1%	3.6%	6.0%	3.3%	0.0%
		あまり関与しない	22.5%	23.5%	19.7%	23.6%	0.0%
		どちらとも言えない	11.9%	11.7%	10.3%	13.8%	0.0%
		まあまあ関与する	45.0%	44.9%	47.0%	43.1%	0.0%
		非常に関与する	15.1%	14.8%	15.4%	15.4%	0.0%
		母親はいない	0.9%	1.0%	1.7%	0.0%	0.0%
		無回答	0.5%	0.5%	0.0%	0.8%	0.0%

新入生調査 基礎集計表（入学予定者）6/6

			総数	学部			
				文教育学部	理学部	生活科学部	無回答
[データ活用の許可]	総数		436	196	117	123	0
	はい		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%
	いいえ		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
[個人情報登録の許可]	総数		436	196	117	123	0
	はい		96.8%	96.9%	96.6%	96.7%	0.0%
	いいえ		2.8%	3.1%	2.6%	2.4%	0.0%
	無回答		0.5%	0.0%	0.9%	0.8%	0.0%
[受験番号]	総数		436	196	117	123	0
	記入あり		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%
	記入なし		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
[お茶大入試方法]	総数		436	196	117	123	0
	一般		75.5%	69.4%	82.9%	78.0%	0.0%
	一般(外)		0.5%	0.5%	0.0%	0.8%	0.0%
	推薦(帰国含む)・文教育学部		10.3%	23.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	推薦(帰国含む)・理学部		0.2%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%
	推薦(帰国含む)・生活科学部		2.3%	0.0%	0.0%	8.1%	0.0%
	総合型		8.0%	4.6%	13.7%	8.1%	0.0%
	高校		3.2%	2.6%	2.6%	4.9%	0.0%
	編入		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	不明		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

付表 4

新入生調査 基礎集計表（保護者）1/4

			学部			
		総数	文教育学部	理学部	生活科学部	無回答
(1) 家計を支えている人	総数	427	191	115	121	0
	父親	89.2%	87.4%	85.2%	95.9%	0.0%
	母親	11.9%	13.6%	16.5%	5.0%	0.0%
	入学予定者本人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他	0.2%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%
	無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
(2) 家計を支えている人の職業	総数	427	191	115	121	0
	勤労者	88.8%	89.5%	87.0%	89.3%	0.0%
	個人営業	3.7%	3.1%	2.6%	5.8%	0.0%
	法人経営者、自由業者	5.6%	5.8%	7.0%	4.1%	0.0%
	農林水産業者	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他	0.5%	0.5%	0.9%	0.0%	0.0%
	働いていない	1.4%	1.0%	2.6%	0.8%	0.0%
	無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
(3) 父親の職業	総数	427	191	115	121	0
	フルタイム勤務	85.2%	86.4%	80.9%	87.6%	0.0%
	パートタイム勤務	0.2%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%
	自営	6.1%	5.2%	6.1%	7.4%	0.0%
	無職	1.4%	0.5%	2.6%	1.7%	0.0%
	いない	6.1%	6.3%	9.6%	2.5%	0.0%
	無回答	0.9%	1.0%	0.9%	0.8%	0.0%
	(4) 父親の職種	該当者	364	165	93	106
専門職(医師・弁護士・研究者・教師など)		13.7%	13.9%	12.9%	14.2%	0.0%
技術職(エンジニア・情報処理技術者など)		17.3%	15.2%	12.9%	24.5%	0.0%
管理職(会社・団体の役員・部課長・工場長・支店長など)		42.9%	42.4%	47.3%	39.6%	0.0%
事務職(庶務・人事・経理・調査・企画・秘書・受付など)		10.4%	10.9%	9.7%	10.4%	0.0%
営業職(セールスマン・生命保険外交員など)		6.3%	5.5%	7.5%	6.6%	0.0%
販売職(デパート・スーパーの店員など)		0.5%	0.6%	1.1%	0.0%	0.0%
サービス職(美容師・調理師・客室乗務員・旅行添乗員など)		1.1%	0.6%	1.1%	1.9%	0.0%
保安職(警察官・消防士・警備員など)		1.9%	3.0%	1.1%	0.9%	0.0%
農林漁業職(農業従事者・家畜飼育者・植木職・漁船船員など)		0.3%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%
運輸通信職(鉄道機関士・運転手・船舶や航空機の操縦士など)		1.1%	1.8%	1.1%	0.0%	0.0%
生産労務職(機械組立修理工・食料品製造工・土木作業者など)		2.7%	4.2%	1.1%	1.9%	0.0%
その他		1.4%	1.2%	3.2%	0.0%	0.0%
無回答		0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
(5) 母親の職業		総数	427	191	115	121
	フルタイム勤務	33.0%	34.0%	33.9%	30.6%	0.0%
	パートタイム勤務	38.2%	40.8%	33.9%	38.0%	0.0%
	自営	5.4%	3.7%	6.1%	7.4%	0.0%
	無職	21.8%	19.4%	24.3%	23.1%	0.0%
	いない	0.9%	1.0%	1.7%	0.0%	0.0%
	無回答	0.7%	1.0%	0.0%	0.8%	0.0%
(6) 母親の職種	該当者	141	65	39	37	0
	専門職(医師・弁護士・研究者・教師など)	36.9%	40.0%	30.8%	37.8%	0.0%
	技術職(エンジニア・情報処理技術者など)	3.5%	1.5%	7.7%	2.7%	0.0%
	管理職(会社・団体の役員・部課長・工場長・支店長など)	5.7%	3.1%	12.8%	2.7%	0.0%
	事務職(庶務・人事・経理・調査・企画・秘書・受付など)	39.0%	33.8%	41.0%	45.9%	0.0%
	営業職(セールスマン・生命保険外交員など)	1.4%	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	販売職(デパート・スーパーの店員など)	0.7%	0.0%	2.6%	0.0%	0.0%
	サービス職(美容師・調理師・客室乗務員・旅行添乗員など)	3.5%	6.2%	0.0%	2.7%	0.0%
	保安職(警察官・消防士・警備員など)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	農林漁業職(農業従事者・家畜飼育者・植木職・漁船船員など)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	運輸通信職(鉄道機関士・運転手・船舶や航空機の操縦士など)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	生産労務職(機械組立修理工・食料品製造工・土木作業者など)	1.4%	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他	7.1%	7.7%	5.1%	8.1%	0.0%
	無回答	0.7%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%
(7) 入学後の暮らし向き	総数	427	191	115	121	0
	ゆとりがない	13.3%	13.6%	13.0%	13.2%	0.0%
	あまりゆとりがない	39.6%	42.4%	38.3%	36.4%	0.0%
	多少ゆとりがある	38.6%	37.7%	39.1%	39.7%	0.0%
	ゆとりがある	7.0%	5.8%	8.7%	7.4%	0.0%
	無回答	1.4%	0.5%	0.9%	3.3%	0.0%
(8) 世帯年収	総数	427	191	115	121	0
	400万円未満	7.3%	7.3%	11.3%	3.3%	0.0%
	400万円以上600万円未満	5.4%	6.3%	5.2%	4.1%	0.0%
	600万円以上800万円未満	15.9%	16.2%	13.9%	17.4%	0.0%
	800万円以上1000万円未満	18.5%	21.5%	11.3%	20.7%	0.0%
	1000万円以上1200万円未満	19.2%	17.8%	19.1%	21.5%	0.0%
	1200万円以上1400万円未満	13.1%	13.1%	11.3%	14.9%	0.0%
	1400万円以上1600万円未満	8.0%	8.9%	5.2%	9.1%	0.0%
	1600万円以上1800万円未満	4.7%	3.1%	7.0%	5.0%	0.0%
	1800万円以上	6.1%	2.6%	13.9%	4.1%	0.0%
	無回答	1.9%	3.1%	1.7%	0.0%	0.0%

新入生調査 基礎集計表（保護者）2/4

			総数	学部				
				文教育学部	理学部	生活科学部	無回答	
(9) 家計を支えている人の年収	総数		427	191	115	121	0	
	400万円未満		10.3%	12.0%	12.2%	5.8%	0.0%	
	400万円以上600万円未満		10.1%	11.5%	7.0%	10.7%	0.0%	
	600万円以上800万円未満		20.1%	22.5%	16.5%	19.8%	0.0%	
	800万円以上1000万円未満		22.7%	23.6%	19.1%	24.8%	0.0%	
	1000万円以上1200万円未満		17.6%	15.7%	18.3%	19.8%	0.0%	
	1200万円以上1400万円未満		7.7%	6.8%	7.8%	9.1%	0.0%	
	1400万円以上1600万円未満		4.0%	3.1%	3.5%	5.8%	0.0%	
	1600万円以上1800万円未満		2.1%	0.0%	7.0%	0.8%	0.0%	
	1800万円以上		4.0%	2.1%	7.8%	3.3%	0.0%	
	無回答		1.4%	2.6%	0.9%	0.0%	0.0%	
(10) 仕送り額(万円)	総数		427	191	115	121	0	
	仕送りはしない		57.8%	55.5%	61.7%	57.9%	0.0%	
	5万円未満		4.4%	5.2%	6.1%	1.7%	0.0%	
	5～7万円台		11.5%	12.6%	6.1%	14.9%	0.0%	
	8～9万円台		2.1%	1.6%	2.6%	2.5%	0.0%	
	10～12万円台		16.4%	18.8%	14.8%	14.0%	0.0%	
	13～14万円台		0.5%	0.0%	0.9%	0.8%	0.0%	
	15万円台以上		4.7%	5.2%	3.5%	5.0%	0.0%	
		無回答		2.6%	1.0%	4.3%	3.3%	0.0%
	(11) 授業料の負担予定	総数		427	191	115	121	0
ほぼ全額を保護者が負担予定			85.2%	83.8%	82.6%	90.1%	0.0%	
一部をご子女本人が負担予定(奨学金、アルバイトなども含む)			10.8%	12.0%	12.2%	7.4%	0.0%	
ほぼ全額をご子女本人が負担予定(奨学金、アルバイトなども含む)			3.7%	4.2%	4.3%	2.5%	0.0%	
無回答			0.2%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	
(12) 奨学金の認知	総数		427	191	115	121	0	
	日本学生支援機構(第一種奨学金)		66.0%	63.4%	67.8%	68.6%	0.0%	
	日本学生支援機構(第二種奨学金)		59.7%	58.1%	61.7%	60.3%	0.0%	
	日本学生支援機構(緊急・応急採用奨学金)		13.3%	11.0%	15.7%	14.9%	0.0%	
	地方公共団体の奨学金		16.2%	14.1%	19.1%	16.5%	0.0%	
	民間奨学団体の奨学金		19.9%	15.7%	23.5%	23.1%	0.0%	
	みがかずば奨学金		26.9%	27.7%	24.3%	28.1%	0.0%	
	桜蔭会奨学金(3年生向け)		10.3%	8.9%	14.8%	8.3%	0.0%	
	育児支援奨学金		4.7%	4.2%	5.2%	5.0%	0.0%	
	入学金免除制度		29.7%	29.3%	36.5%	24.0%	0.0%	
	入学金徴収猶予制度		19.7%	17.8%	24.3%	18.2%	0.0%	
	授業料免除制度		31.4%	29.8%	40.0%	25.6%	0.0%	
	授業料徴収猶予制度		18.3%	17.8%	21.7%	15.7%	0.0%	
	知っているものはない		22.2%	24.6%	20.9%	19.8%	0.0%	
	無回答		1.4%	2.1%	0.9%	0.8%	0.0%	
(13) 奨学金の希望	総数		427	191	115	121	0	
	日本学生支援機構(第一種奨学金)		17.8%	19.4%	15.7%	17.4%	0.0%	
	日本学生支援機構(第二種奨学金)		12.2%	14.1%	9.6%	11.6%	0.0%	
	日本学生支援機構(緊急・応急採用奨学金)		2.3%	3.1%	2.6%	0.8%	0.0%	
	地方公共団体の奨学金		5.9%	7.3%	5.2%	4.1%	0.0%	
	民間奨学団体の奨学金		11.9%	8.4%	12.2%	17.4%	0.0%	
	みがかずば奨学金		13.1%	12.6%	13.0%	14.0%	0.0%	
	桜蔭会奨学金(3年生向け)		10.5%	9.9%	9.6%	12.4%	0.0%	
	育児支援奨学金		1.2%	1.6%	0.9%	0.8%	0.0%	
	入学金免除制度		7.7%	7.9%	12.2%	3.3%	0.0%	
	入学金徴収猶予制度		2.6%	2.6%	3.5%	1.7%	0.0%	
	授業料免除制度		10.3%	9.9%	16.5%	5.0%	0.0%	
	授業料徴収猶予制度		2.6%	3.1%	2.6%	1.7%	0.0%	
	希望するものはない		58.3%	57.6%	59.1%	58.7%	0.0%	
		無回答		4.7%	6.8%	1.7%	4.1%	0.0%
(14) 知っている学生寮	総数		427	191	115	121	0	
	国際学生宿舎		67.7%	67.0%	67.0%	69.4%	0.0%	
	お茶大SCC		42.9%	42.4%	40.0%	46.3%	0.0%	
	小石川寮(大学院生向け)		23.9%	23.0%	23.5%	25.6%	0.0%	
	知らない		29.7%	30.4%	29.6%	28.9%	0.0%	
	無回答		0.9%	1.0%	0.9%	0.8%	0.0%	
(15) 入寮を希望する学生寮	総数		427	191	115	121	0	
	国際学生宿舎		34.4%	38.2%	33.9%	28.9%	0.0%	
	お茶大SCC		10.8%	14.7%	8.7%	6.6%	0.0%	
	小石川寮(大学院生向け)		1.6%	1.0%	2.6%	1.7%	0.0%	
	特になし		59.5%	54.5%	61.7%	65.3%	0.0%	
	無回答		4.4%	6.3%	1.7%	4.1%	0.0%	

新入生調査 基礎集計表（保護者）3/4

			総数	学部			
				文教育学部	理学部	生活科学部	無回答
(16) 居住予定の住居	総数		427	191	115	121	0
	実家		60.9%	56.5%	65.2%	63.6%	0.0%
	実家以外の賃貸アパートやマンション		24.4%	22.5%	25.2%	26.4%	0.0%
	大学の寮(国際学生宿舎)		30.7%	36.6%	27.0%	24.8%	0.0%
	大学の寮(お茶大SCC)		9.6%	11.0%	10.4%	6.6%	0.0%
	大学以外の寮		4.2%	5.8%	3.5%	2.5%	0.0%
	その他		1.2%	1.6%	0.0%	1.7%	0.0%
	無回答		0.5%	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%
(17) 住居を考える際COVID-19への考慮	総数		427	191	115	121	0
	考慮した		23.7%	23.0%	22.6%	25.6%	0.0%
	考慮しなかった		73.5%	73.3%	75.7%	71.9%	0.0%
	無回答		2.8%	3.7%	1.7%	2.5%	0.0%
(18) COVID-19について考慮した内容	該当者		101	44	26	31	0
	寮に住みたいが、感染が心配なのでやめる		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	シェアハウス型の寮に住みたいが、感染が心配なやめる		3.0%	6.8%	0.0%	0.0%	0.0%
	感染対策の面で安心なので、大学の寮に住む		48.5%	47.7%	50.0%	48.4%	0.0%
	感染予防の視点で、賃貸マンションに住む		13.9%	4.5%	26.9%	16.1%	0.0%
	実家以外のところに住みたいが、感染が心配なので実家で暮らす		8.9%	11.4%	11.5%	3.2%	0.0%
	その他		23.8%	27.3%	7.7%	32.3%	0.0%
	無回答		7.9%	6.8%	15.4%	3.2%	0.0%
(19) 受験から入学までに困ったこと	総数		427	191	115	121	0
	子どもの体調や精神面のこと		62.8%	59.7%	64.3%	66.1%	0.0%
	受験・入学のための費用準備		31.4%	29.3%	36.5%	29.8%	0.0%
	受験・入学手続きのスケジュールの管理		59.3%	53.9%	67.0%	60.3%	0.0%
	入学後の住まい探し		25.5%	24.6%	26.1%	26.4%	0.0%
	その他		1.6%	1.0%	3.5%	0.8%	0.0%
	無回答		7.3%	8.4%	6.1%	6.6%	0.0%
(20) 心配なこと	総数		427	191	115	121	0
	授業や単位		31.6%	24.1%	40.0%	35.5%	0.0%
	就職や将来		47.8%	44.5%	48.7%	52.1%	0.0%
	人間関係		50.4%	45.0%	54.8%	54.5%	0.0%
	生活・経済面		32.6%	35.6%	31.3%	28.9%	0.0%
	健康面		51.1%	48.7%	48.7%	57.0%	0.0%
	日常生活全般		31.9%	31.4%	34.8%	29.8%	0.0%
	その他		1.6%	1.6%	0.0%	3.3%	0.0%
	特になし		12.4%	11.5%	18.3%	8.3%	0.0%
無回答		0.2%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	
(21) 期待する学生支援活動	総数		427	191	115	121	0
	経済的支援		23.9%	23.0%	24.3%	24.8%	0.0%
	生活相談		21.8%	20.4%	21.7%	24.0%	0.0%
	健康相談		26.0%	23.6%	25.2%	30.6%	0.0%
	心理相談		33.5%	29.8%	33.0%	39.7%	0.0%
	学習支援		58.1%	54.5%	64.3%	57.9%	0.0%
	進路相談		73.8%	73.3%	75.7%	72.7%	0.0%
	就職支援		86.4%	84.8%	87.0%	88.4%	0.0%
	課外活動支援		29.7%	29.8%	28.7%	30.6%	0.0%
	その他		0.9%	1.0%	1.7%	0.0%	0.0%
	特になし		0.5%	0.0%	0.0%	1.7%	0.0%
	無回答		0.5%	0.5%	0.9%	0.0%	0.0%

新入生調査 基礎集計表（保護者）4/4

			学部				
		総数	文教育学部	理学部	生活科学部	無回答	
(22) 両親の最終学歴・父親	総数	427	191	115	121	0	
	中学・高校	10.5%	11.5%	8.7%	10.7%	0.0%	
	高専	0.9%	1.6%	0.9%	0.0%	0.0%	
	専門学校・短大	5.9%	6.3%	6.1%	5.0%	0.0%	
	大学	61.8%	60.7%	63.5%	62.0%	0.0%	
	大学院(修士)	14.1%	11.5%	15.7%	16.5%	0.0%	
	大学院(博士)	4.2%	6.3%	2.6%	2.5%	0.0%	
	無回答	2.6%	2.1%	2.6%	3.3%	0.0%	
(22) 両親の最終学歴・母親	総数	427	191	115	121	0	
	中学・高校	9.8%	12.0%	10.4%	5.8%	0.0%	
	高専	0.2%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	
	専門学校・短大	32.1%	31.9%	32.2%	32.2%	0.0%	
	大学	51.8%	50.8%	50.4%	54.5%	0.0%	
	大学院(修士)	4.7%	4.2%	4.3%	5.8%	0.0%	
	大学院(博士)	0.9%	0.5%	1.7%	0.8%	0.0%	
	無回答	0.5%	0.0%	0.9%	0.8%	0.0%	
[データ活用の許可]	総数	427	191	115	121	0	
	はい	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	
	いいえ	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
[個人情報登録の許可]	総数	427	191	115	121	0	
	はい	93.0%	92.7%	93.9%	92.6%	0.0%	
	いいえ	7.0%	7.3%	6.1%	7.4%	0.0%	
	無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
[受験番号]	総数	427	191	115	121	0	
	記入あり	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	
	記入なし	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
[お茶大入試方法]	総数	427	191	115	121	0	
	一般	75.9%	69.6%	82.6%	79.3%	0.0%	
	一般(外)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	推薦(帰国含む)・文教育学部	10.5%	23.6%	0.0%	0.0%	0.0%	
	推薦(帰国含む)・理学部	0.2%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	
	推薦(帰国含む)・生活科学部	2.1%	0.0%	0.0%	7.4%	0.0%	
	総合型	8.2%	4.7%	13.9%	8.3%	0.0%	
	高校	3.0%	2.1%	2.6%	5.0%	0.0%	
	編入	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	不明	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
[回答者の続柄]	総数	427	191	115	121	0	
	父親	23.0%	25.1%	20.0%	22.3%	0.0%	
	母親	76.8%	74.9%	79.1%	77.7%	0.0%	
	その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	無回答	0.2%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	

令和4年度 新入生の生活に関する調査報告書

発行日：令和5年3月

発 行：国立大学法人 お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター
東京都文京区大塚2-1-1

TEL 03-5978-2646

FAX 03-5978-5894

E-mail ca-research@cc.ocha.ac.jp
